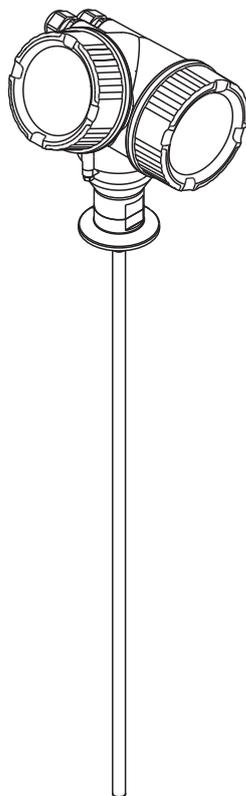


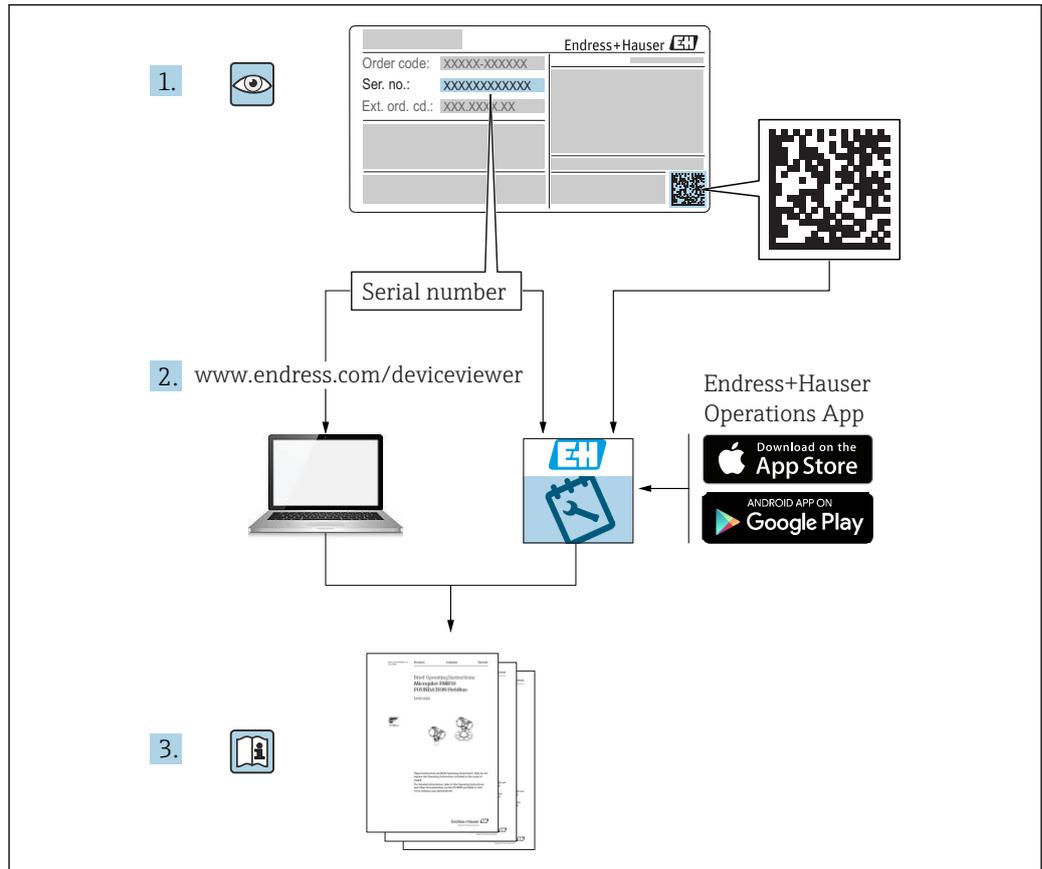
取扱説明書

Levelflex FMP53

HART

ガイドレーダーレベル計





A0023555

目次

1	主要な資料情報	5		
1.1	資料の機能.....	5		
1.2	シンボル.....	5		
1.2.1	安全シンボル.....	5		
1.2.2	電気シンボル.....	5		
1.2.3	工具シンボル.....	5		
1.2.4	特定情報に関するシンボル.....	6		
1.2.5	図中のシンボル.....	6		
1.2.6	機器のシンボル.....	7		
1.3	補足資料.....	8		
1.4	用語および略語.....	9		
1.5	登録商標.....	10		
2	基本安全注意事項	11		
2.1	要員の要件.....	11		
2.2	用途.....	11		
2.3	労働安全.....	11		
2.4	操作上の安全性.....	12		
2.5	製品の安全性.....	12		
2.5.1	CE マーク.....	12		
2.5.2	EAC 認証.....	12		
2.6	安全上の注意事項 (XA).....	13		
2.6.1	接続された FHX50 リモート表示部 の場合の Ex 記号.....	15		
3	製品説明	16		
3.1	製品構成.....	16		
3.1.1	Levelflex FMP53.....	16		
3.1.2	電子部ハウジング.....	17		
4	納品内容確認および製品識別表示 ..	18		
4.1	受入.....	18		
4.2	製品識別表示.....	18		
4.2.1	銘板.....	19		
5	保管、輸送	20		
5.1	保管条件.....	20		
5.2	測定点までの製品の搬送.....	20		
6	設置	21		
6.1	取付要件.....	21		
6.1.1	適切な取付位置.....	21		
6.1.2	取付スペースが制限されるアプリ ケーション.....	23		
6.1.3	プローブの機械的負荷に関する注 意事項.....	25		
6.1.4	特殊な設置条件.....	26		
6.2	機器の設置.....	32		
6.2.1	必要な取付工具.....	32		
6.2.2	「分離型センサ」バージョンの取 付け.....	32		
6.2.3	変換器ハウジングの回転.....	33		
6.2.4	表示部の回転.....	34		
6.3	設置状況の確認.....	36		
7	電気接続	37		
7.1	接続条件.....	37		
7.1.1	端子の割当て.....	37		
7.1.2	ケーブル仕様.....	43		
7.1.3	機器プラグコネクタ.....	44		
7.1.4	電源.....	45		
7.1.5	過電圧保護.....	47		
7.2	機器の接続.....	47		
7.2.1	端子部カバーを開く.....	48		
7.2.2	接続.....	48		
7.2.3	差込式スプリング端子.....	49		
7.2.4	端子部カバーを閉じる.....	49		
7.3	配線状況の確認.....	50		
8	操作オプション	51		
8.1	概要.....	51		
8.1.1	現場操作.....	51		
8.1.2	リモート表示部と操作モジュール FHX50 による操作.....	52		
8.1.3	Bluetooth® ワイヤレス技術を経由..	53		
8.1.4	リモート操作.....	54		
8.2	操作メニューの構成と機能.....	55		
8.2.1	操作メニューの構成.....	55		
8.2.2	ユーザーの役割と関連するアクセ ス権.....	56		
8.2.3	データアクセス - セキュリティ...	56		
8.3	表示部および操作モジュール.....	61		
8.3.1	表示.....	61		
8.3.2	操作部.....	64		
8.3.3	数字とテキストの入力.....	65		
8.3.4	コンテキストメニューを開く.....	67		
8.3.5	表示部および操作モジュール上の 反射波形.....	68		
9	HART プロトコルを介したシステム インテグレーション	69		
9.1	DD ファイルの概要.....	69		
9.2	HART デバイス変数および測定値.....	69		
10	SmartBlue (アプリ) 経由の設定 ...	70		
10.1	要件.....	70		
10.2	設定.....	70		
11	ウィザードによる設定	74		
12	操作メニューを使用した設定	75		
12.1	設置および機能の確認.....	75		
12.2	操作言語の設定.....	75		
12.3	レベル測定の設定.....	76		

12.4	基準カーブの記録	78	16.1.8	HART 機器用の Bluetooth モジュール	106
12.5	現場表示器の設定	79	16.2	通信関連のアクセサリ	107
12.5.1	レベル測定用の現場表示器の初期設定	79	16.3	サービス関連のアクセサリ	108
12.5.2	現場表示器の調整	79	16.4	システムコンポーネント	109
12.6	電流出力の設定	80	17	操作メニュー	110
12.6.1	レベル測定用の電流出力の初期設定	80	17.1	操作メニューの概要 (SmartBlue)	110
12.6.2	電流出力の調整	80	17.2	操作メニューの概要 (表示モジュール)	115
12.7	設定管理	81	17.3	操作メニューの概要 (操作ツール)	122
12.8	不正な設定変更の防止	82	17.4	「設定」メニュー	129
13	診断およびトラブルシューティング	83	17.4.1	「マッピング」ウィザード	137
13.1	一般トラブルシューティング	83	17.4.2	「高度な設定」サブメニュー	138
13.1.1	一般エラー	83	17.5	「診断」メニュー	185
13.1.2	エラー - SmartBlue 操作	85	17.5.1	「診断リスト」サブメニュー	187
13.1.3	パラメータ設定エラー	86	17.5.2	「イベントログブック」サブメニュー	188
13.2	現場表示器の診断情報	87	17.5.3	「機器情報」サブメニュー	189
13.2.1	診断メッセージ	87	17.5.4	「測定値」サブメニュー	192
13.2.2	対処法の呼び出し	89	17.5.5	「データのログ」サブメニュー	194
13.3	操作ツール上の診断イベント	90	17.5.6	「シミュレーション」サブメニュー	197
13.4	診断リスト	91	17.5.7	「機器チェック」サブメニュー	202
13.5	診断イベントのリスト	92	17.5.8	「Heartbeat」サブメニュー	204
13.6	イベントログ	94	索引	205	
13.6.1	イベント履歴	94			
13.6.2	イベントログのフィルタリング	94			
13.6.3	情報イベントの概要	94			
13.7	ファームウェアの履歴	96			
14	メンテナンス	97			
14.1	外部洗浄	97			
14.2	プローブの洗浄	97			
14.2.1	タンク内のプローブの洗浄	97			
14.2.2	タンク外のプローブの洗浄	98			
15	修理	99			
15.1	修理に関する一般情報	99			
15.1.1	修理コンセプト	99			
15.1.2	防爆認定機器の修理	99			
15.1.3	電子モジュールの交換	99			
15.1.4	機器の交換	99			
15.2	スペアパーツ	100			
15.3	返却	100			
15.4	廃棄	100			
16	アクセサリ	101			
16.1	機器関連のアクセサリ	101			
16.1.1	日除けカバー	101			
16.1.2	電子部ハウジングの取付ブラケット	102			
16.1.3	溶接アダプタ	102			
16.1.4	保護カバー	103			
16.1.5	校正キット	103			
16.1.6	リモート表示部 FHX50	104			
16.1.7	過電圧保護	105			

1 主要な資料情報

1.1 資料の機能

この取扱説明書には、機器ライフサイクルの各種段階（製品の識別、納品内容確認、保管、取付け、接続、操作、設定からトラブルシューティング、メンテナンス、廃棄まで）において必要とされるあらゆる情報が記載されています。

1.2 シンボル

1.2.1 安全シンボル

シンボル	意味
	危険 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡したり、大けがをしたりするほか、爆発・火災を引き起こす恐れがあります。
	警告 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡、大けが、爆発、火災の恐れがあります。
	注意 危険な状況を警告するシンボルです。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、けが、物的損害の恐れがあります。
	注意！ 人身傷害につながらない、手順やその他の事象に関する情報を示すシンボルです。

1.2.2 電気シンボル

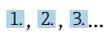
シンボル	意味
	直流
	交流
	直流および交流
	アース端子 オペレータに関する限り、接地システムを用いて接地された接地端子
	保安アース (PE) その他の接続を行う前に、接地接続する必要がある端子 接地端子は機器の内側と外側にあります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 内側の接地端子：保安アースと電源を接続します。 ■ 外側の接地端子：機器とプラントの接地システムを接続します。

1.2.3 工具シンボル

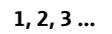
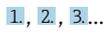
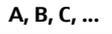
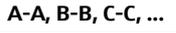
シンボル	意味
 A0013442	星型ドライバ
 A0011220	マイナスドライバ
 A0011219	プラスドライバ

シンボル	意味
 A0011221	六角レンチ
 A0011222	六角スパナ

1.2.4 特定情報に関するシンボル

シンボル	意味
	許可 許可された手順、プロセス、動作
	推奨 推奨の手順、プロセス、動作
	禁止 禁止された手順、プロセス、動作
	ヒント 追加情報を示します。
	資料参照
	ページ参照
	図参照
	注意すべき注記または個々のステップ
	一連のステップ
	操作・設定の結果
	問題が発生した場合のヘルプ
	目視確認

1.2.5 図中のシンボル

シンボル	意味
	項目番号
	一連のステップ
	図
	断面図
	危険場所 危険場所を示します。
	安全区域（非危険場所） 非危険場所を示します。

1.2.6 機器のシンボル

シンボル	意味
	安全注意事項 関連する取扱説明書に記載された安全注意事項に注意してください。
	接続ケーブルの温度耐性 接続ケーブルの温度耐性の最小値を指定します。

1.3 補足資料

資料	資料の目的および内容
技術仕様書 TI01002F (FMP53)	機器の計画支援 本資料には、機器に関するすべての技術データが記載されており、本機器用に注文可能なアクセサリやその他の製品の概要が示されています。
簡易取扱説明書 KA01078F (FMP53、HART)	簡単に初めての測定を行うための手引き 簡易取扱説明書には、納品内容確認から初回の設定までに必要なすべての情報が記載されています。
機能パラメータの説明 GP01000F (FMP5x、HART)	使用するパラメータの参考資料 本資料には、操作メニュー内の各パラメータの詳しい説明が記載されています。本説明書は、全ライフサイクルにわたって本機器を使用し、特定の設定を行う人のために用意されたものです。
個別説明書 SD00326F	機能安全マニュアル 本資料は取扱説明書の一部であり、アプリケーション固有のパラメータや注意事項が記載されています。
個別説明書 SD01872F	Heartbeat 検証および Heartbeat モニタリング用マニュアル 本資料には Heartbeat 検証 および Heartbeat モニタリング アプリケーションパッケージで使用可能な追加パラメータや技術データの説明が記載されています。

-  同梱される関連の技術資料の概要については、次を参照してください。
- W@M デバイスビューワー：銘板のシリアル番号を入力してください (www.endress.com/deviceviewer)。
 - Endress+Hauser Operations App：銘板のシリアル番号を入力するか、銘板の 2-D マトリクスコード (QR コード) をスキャンしてください。

1.4 用語および略語

用語/略語	説明
BA	資料『取扱説明書』
KA	資料『簡易取扱説明書』
TI	資料『技術仕様書』
SD	資料『個別説明書』
XA	資料『安全上の注意事項』
PN	定格圧力
MWP	最大動作圧力 MWP は銘板にも明記されています。
ToF	Time of Flight (飛行伝播時間)
FieldCare	デバイスの設定からコンディションモニタリングまでカバーするプラントアセットマネジメントツール
DeviceCare	Endress+Hauser HART、PROFIBUS、FOUNDATION フィールドバス、Ethernet フィールド機器用の汎用設定ソフトウェア
DTM	デバイスタイプマネージャ
DD	HART 通信プロトコル用のデバイス記述
ϵ_r (DC 値)	比誘電率
操作ツール	「操作ツール」という用語は、以下の操作ソフトウェアの代わりに使用されます。 <ul style="list-style-type: none"> ▪ FieldCare / DeviceCare : HART 通信および PC を介した操作 ▪ SmartBlue (アプリ) : Android または iOS 搭載のスマートフォンまたはタブレット端末を用いた操作
BD	不感知距離 : BD の範囲内では信号が解析されません。
PLC	プログラマブルロジックコントローラ
CDI	サービスインターフェース
PFS	パルス/周波数ステータス (スイッチング出力)

1.5 登録商標

HART®

FieldComm Group, Austin, USA の登録商標です。

Bluetooth®

Bluetooth® の文字商標とロゴは Bluetooth SIG, Inc. の登録商標であり、Endress+Hauser は許可を受けてこのマークを使用しています。その他の商標や商品名は、その所有者に帰属します。

Apple®

Apple、Apple ロゴ、iPhone、iPod touch は、米国その他各国で登録された Apple Inc. の商標です。App Store は Apple Inc. のサービスマークです。

Android®

Android、Google Play、Google Play ロゴは Google Inc. の登録商標です。

KALREZ (カルツレッツ)®、VITON (バイトン)®

DuPont Performance Elastomers L.L.C., Wilmington, USA の登録商標です。

TEFLON (テフロン)®

E.I. DuPont de Nemours & Co., Wilmington, USA の登録商標です。

TRI CLAMP (トリクランプ)®

Alfa Laval Inc., Kenosha, USA の登録商標です。

2 基本安全注意事項

2.1 要員の要件

設置、設定、診断、およびメンテナンスを実施する要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 訓練を受けて、当該任務および作業に関する資格を取得した専門作業員であること。
- ▶ 施設責任者の許可を得ていること。
- ▶ 各地域/各国の法規を熟知していること。
- ▶ 作業を開始する前に、取扱説明書、補足資料、ならびに証明書（用途に応じて異なります）の説明を読み、内容を理解しておくこと。
- ▶ 指示に従い、基本条件を遵守すること。

オペレータ要員は、以下の要件を満たさなければなりません。

- ▶ 施設責任者からその作業に必要な訓練および許可を得ていること。
- ▶ 本資料の説明に従うこと。

2.2 用途

用途と測定材質

本書で説明する機器は、液体のレベル測定のみを使用目的とするものです。注文したバージョンに応じて、本機器は爆発性、可燃性、毒性、酸化性の物質も測定できます。

取扱説明書および補足資料に明記された「技術データ」の制限値を遵守し、以下の測定にのみ使用してください。

- ▶ プロセス変数（測定値）：レベル
- ▶ プロセス変数（計算値）：任意形状容器の体積または質量（リニアライゼーション機能によりレベルから計算）

運転時間中、機器が適切な条件下にあるよう、次の点に注意してください。

- ▶ 本機は、接液部材質の耐久性を十分に確保できる材質の測定にのみ使用してください。
- ▶ 「技術データ」の制限値に従ってください。

不適切な用途

不適切な、あるいは指定用途以外での使用に起因する損傷については、製造者は責任を負いません。

不明な場合の確認：

- ▶ 特殊な測定材質および洗浄剤に関して、エンドレスハウザー社では接液部材質の耐食性確認のサポートを提供いたしますが、保証や責任は負いかねます。

残存リスク

電子部ハウジングおよび、表示モジュール、メイン電子モジュール、I/O 電子モジュールなどの組込コンポーネントが、動作時にプロセスの熱伝導および電子部内の電力損失により 80 °C (176 °F) に達することがあります。動作時に、センサが測定材質の温度と同等の温度に達する場合があります。

加熱した表面により火傷を負う危険性があります。

- ▶ プロセス温度が高温の場合、接触部分に保護具を設置してください。

2.3 労働安全

機器で作業する場合：

- ▶ 各地域/各国の規定に従って必要な個人用保護具を着用してください。

分割型ロッドプローブを使用すると、ロッドの個々の部品間の接合部に測定物が入り込むことがあります。接合部を緩めると、この測定物が流出する可能性があります。危険な（例：腐食性または毒性）測定物の場合、けがにつながる可能性があります。

- ▶ ロッドプローブの部品間の接合部を緩めるときは、測定物に応じて適切な保護具を着用してください。

2.4 操作上の安全性

けがに注意！

- ▶ 本機は、適切な技術条件およびフェールセーフ条件下でのみ操作してください。
- ▶ 施設責任者には、機器を支障なく操作できるようにする責任があります。

機器の改造

機器を無断で変更することは、予測不可能な危険を招くおそれがあり、認められません。

- ▶ 変更が必要な場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

修理

操作上の安全性と信頼性を保証するために、以下の点にご注意ください。

- ▶ 機器の修理は、そのことが明確に許可されている場合にのみ実施してください。
- ▶ 電気機器の修理に関する各地域/各国の規定を遵守してください。
- ▶ 弊社純正スペアパーツおよびアクセサリのみを使用してください。

防爆区域

防爆区域で機器を使用する場合に、要員やプラントが危険にさらされないよう、以下の点にご注意ください（例：爆発防止、圧力容器安全）。

- ▶ 注文した機器が防爆仕様になっているか型式銘板を確認してください。
- ▶ 本書に付随する別冊の補足資料の記載事項にご注意ください。

2.5 製品の安全性

本機器は、最新の安全要件に適合するように GEP（Good Engineering Practice）に従って設計され、テストされて安全に操作できる状態で工場から出荷されます。本機は一般的な安全基準および法的要件を満たしています。

注記

湿潤環境下で機器を開けると保護等級が無効になります。

- ▶ 湿潤環境下で機器を開けると、銘板に示された保護等級の有効性が失われます。これは、機器の安全な操作を妨げる可能性もあります。

2.5.1 CE マーク

計測システムは EC ガイドラインの法的要求に準拠しています。関連の「EC 適合性の宣言」にリストされていますが、同時に規格に適合しています。

エンドレスハウザー社は CE マークを表示することにより、本製品が各試験に合格していることを証明いたします。

2.5.2 EAC 認証

計測システムは EAC ガイドラインの法的要求に準拠しています。関連の「EAC 適合性の宣言」にリストされていますが、同時に規格に適合しています。

Endress+Hauser は本製品が試験に合格したことを、EAC マークを付けることにより保証いたします。

2.6 安全上の注意事項 (XA)

認証に応じて、以下の安全上の注意事項 (XA) が機器に同梱されます。これは、取扱説明書の付随資料です。

仕様コード 010	認定	対応可能	仕様コード 020 : 「電源 ; 出力」				
			A ¹⁾	B ²⁾	C ³⁾	E ⁴⁾ /G ⁵⁾	K ⁶⁾ /L ⁷⁾
BA	ATEX II 1G Ex ia IIC T6 Ga	FMP53	XA00496F	XA01125F	XA01126F	XA00516F	-
BB	ATEX II 1/2G Ex ia IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00496F	XA01125F	XA01126F	XA00516F	-
BC	ATEX II 1/2G Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00499F	XA00499F	XA00499F	XA00519F	XA01133F
BG	ATEX II 3G Ex nA IIC T6 Gc	FMP53	XA00498F	XA01130F	XA01131F	XA00518F	XA01132F
BH	ATEX II 3G Ex ic IIC T6 Gc	FMP53	XA00498F	XA01130F	XA01131F	XA00518F	-
B2	ATEX II 1/2G Ex ia IIC T6 Ga/Gb、 1/2D Ex ia IIIC Da/Db	FMP53	XA00502F	XA00502F	XA00502F	XA00522F	-
B3	ATEX II 1/2G Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb、 1/2 D Ex t IIIC Da/Db	FMP53	XA00503F	XA00503F	XA00503F	XA00523F	XA01136F
B4	ATEX II 1/2G Ex ia IIC T6 Ga/Gb、 Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00500F	XA01134F	XA01135F	XA00520F	-
C2	CSA C/US IS Cl.I,II,III Div.1 Gr.A-G, NI Cl.1 Div.2, Ex ia	FMP53	XA00530F	XA00530F	XA00530F	XA00571F	XA00530F
C3	CSA C/US XP Cl.I,II,III Div.1 Gr.A-G, NI Cl.1 Div.2, Ex d	FMP53	XA00529F	XA00529F	XA00529F	XA00570F	XA00529F
FB	FM IS Cl.I,II,III Div.1 Gr.A-G, AEx ia, NI Cl.1 Div.2	FMP53	XA00531F	XA00531F	XA00531F	XA00573F	XA00531F
FD	FM XP Cl.I,II,III Div.1 Gr.A-G, AEx d, NI Cl.1 Div.2	FMP53	XA00532F	XA00532F	XA00532F	XA00572F	XA00532F
GA	EAC Ex ia IIC T6 Ga	FMP53	XA01380F	XA01380F	XA01380F	XA01381F	XA01380F
GB	EAC Ex ia IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA01380F	XA01380F	XA01380F	XA01381F	XA01380F
GC	EAC Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA01382F	XA01382F	XA01382F	XA01383F	XA01382F
IA	IEC Ex ia IIC T6 Ga	FMP53	XA00496F	XA01125F	XA01126F	XA00516F	-
IB	IEC Ex ia IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00496F	XA01125F	XA01126F	XA00516F	-
IC	IEC Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00499F	XA00499F	XA00499F	XA00519F	XA01133F
IG	IEC Ex nA IIC T6 Gc	FMP53	XA00498F	XA01130F	XA01131F	XA00518F	XA01132F
IH	IEC Ex ic IIC T6 Gc	FMP53	XA00498F	XA01130F	XA01131F	XA00518F	-
I2	IEC Ex ia IIC T6 Ga/Gb、 Ex ia IIIC Da/Db	FMP53	XA00502F	XA00502F	XA00502F	XA00522F	-
I3	IEC Ex d [ia] IIC T6 Ga/Gb、 Ex t IIIC Da/Db	FMP53	XA00503F	XA00503F	XA00503F	XA00523F	XA01136F
I4	IEC Ex II 1/2G Ex ia IIC T6 Ga/Gb、 Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00500F	XA01134F	XA01135F	XA00520F	-
KA	KC Ex ia IIC T6 Ga	FMP53	XA01169F	-	XA01169F	-	-
KB	KC Ex ia IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA01169F	-	XA01169F	-	-
KC	KC Ex d[ia] IIC T6	FMP53	-	-	XA01170F	-	-
MA	INMETRO Ex ia IIC T6 Ga	FMP53	XA01038F	XA01038F	XA01038F	-	XA01038F
MC	INMETRO Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA01041F	XA01041F	XA01041F	-	XA01041F
MH	INMETRO Ex ic IIC T6 Gc	FMP53	XA01040F	XA01040F	XA01040F	-	XA01040F
NA	NEPSI Ex ia IIC T6 Ga	FMP53	XA00634F	XA00634F	XA00634F	XA00640F	XA00634F
NB	NEPSI Ex ia IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00634F	XA00634F	XA00634F	XA00640F	XA00634F
NC	NEPSI Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb	FMP53	XA00636F	XA00636F	XA00636F	XA00642F	XA00636F
NG	NEPSI Ex nA II T6 Gc	FMP53	XA00635F	XA00635F	XA00635F	XA00641F	XA00635F
NH	NEPSI Ex ic IIC T6 Gc	FMP53	XA00635F	XA00635F	XA00635F	XA00641F	XA00635F
N2	NEPSI Ex ia IIC T6 Ga/Gb、 Ex iaD 20/21 T85...90°C	FMP53	XA00638F	XA00638F	XA00638F	XA00644F	XA00638F

仕様コード 010	認定	対応可能	仕様コード 020 : 「電源 ; 出力」				
			A ¹⁾	B ²⁾	C ³⁾	E ⁴⁾ /G ⁵⁾	K ⁶⁾ /L ⁷⁾
N3	NEPSI Ex d[ia] IIC T6 Ga/Gb、DIP A20/21 T85...90°C IP66	FMP53	XA00639F	XA00639F	XA00639F	XA00645F	XA00639F
8A	FM/CSA IS+XP Cl.I,II,III Div.1 Gr.A-G	FMP53	XA00531F XA00532F	XA00531F XA00532F	XA00531F XA00532F	XA00572F XA00573F	XA00531F XA00532F

- 1) A : 2 線式 ; 4~20 mA HART
- 2) B : 2 線式 ; 4~20 mA HART、スイッチ出力
- 3) C : 2 線式 ; 4~20 mA HART、4~20 mA
- 4) E : 2 線式 ; FOUNDATION フィールドバス、スイッチ出力
- 5) G : 2 線式 ; PROFIBUS PA、スイッチ出力
- 6) K : 4 線式 AC 90~253 V ; 4~20 mA HART
- 7) L : 4 線式 DC 10.4~48 V ; 4~20 mA HART

 認証取得機器の場合、対応する安全注意事項 (XA) が銘板に明記されています。

2.6.1 接続された FHX50 リモート表示部の場合の Ex 記号

機器がリモート表示部 FHX50 用に準備されている場合（製品構成：仕様コード 030：「表示部/操作部」、オプション L または M）、以下の表に従って一部の認証の Ex 記号が変更されます。¹⁾

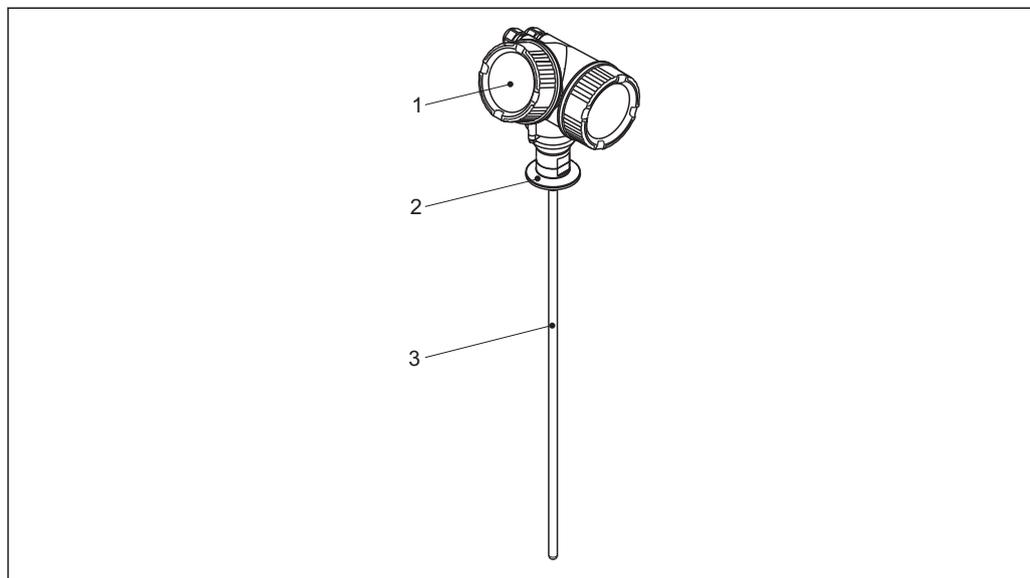
仕様コード 010 (「認証」)	仕様コード 030 (「表示部/操作部」)	Ex 記号
BG	L, M または N	ATEX II 3G Ex nA [ia Ga] IIC T6 Gc
BH	L, M または N	ATEX II 3G Ex ic [ia Ga] IIC T6 Gc
B3	L, M または N	ATEX II 1/2G Ex d [ia] IIC T6 Ga/Gb, ATEX II 1/2D Ex ta [ia Db] IIIC Txx°C Da/Db
IG	L, M または N	IECEX Ex nA [ia Ga] IIC T6 Gc
IH	L, M または N	IECEX Ex ic [ia Ga] IIC T6 Gc
I3	L, M または N	IECEX Ex d [ia] IIC T6 Ga/Gb, IECEX Ex ta [ia Db] IIIC Txx°C Da/Db

1) この表に記載されていない認証の記号は、FHX50 による影響を受けません

3 製品説明

3.1 製品構成

3.1.1 Levelflex FMP53

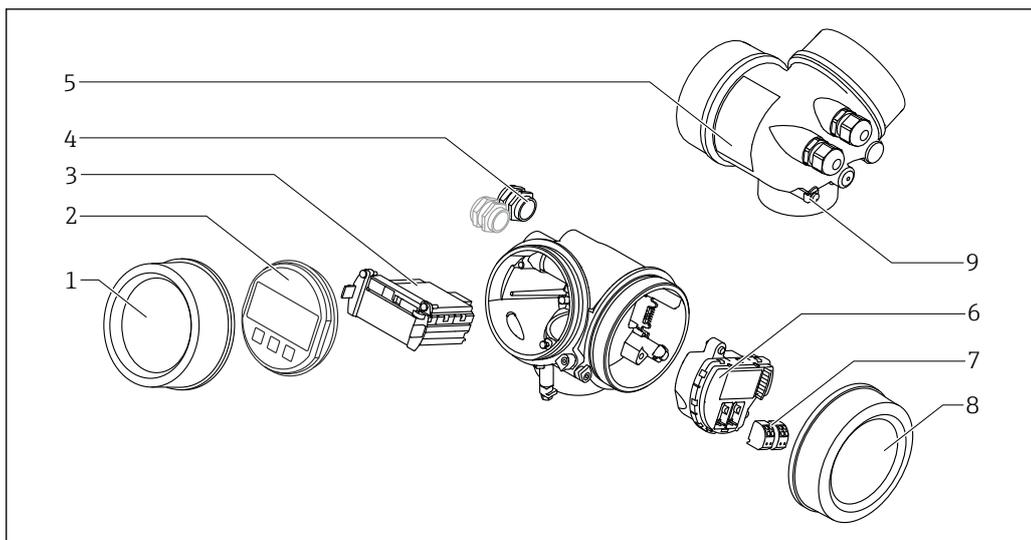


A0013421

図 1 Levelflex の構造

- 1 電子部ハウジング
- 2 プロセス接続
- 3 ロッドプローブ

3.1.2 電子部ハウジング



A0012422

図 2 電子回路部ハウジングの構成

- 1 表示部のカバー
- 2 表示モジュール
- 3 メイン電子モジュール
- 4 ケーブルグランド（機器のバージョンに応じて1または2）
- 5 銘板
- 6 I/O 電子モジュール
- 7 端子（ばね荷重端子、取外可能）
- 8 端子部カバー
- 9 接地端子

4 納品内容確認および製品識別表示

4.1 受入

納品時に以下の点を確認してください。

- 発送書類のオーダーコードと製品ラベルに記載されたオーダーコードが一致するか？
- 納入品に損傷がないか？
- 銘板のデータと発送書類に記載された注文情報が一致するか？
- 必要に応じて（銘板を参照）：安全注意事項（XA）があるか？

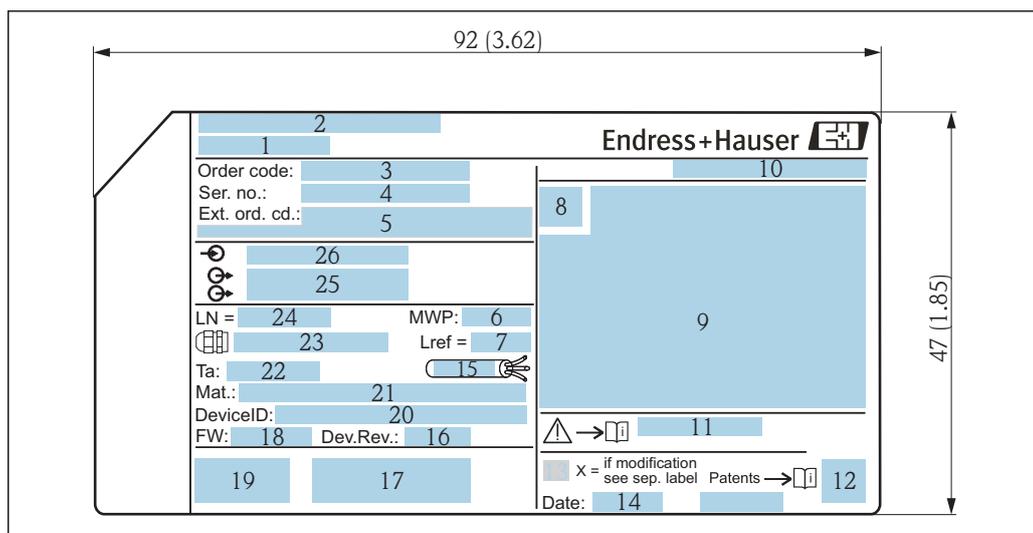
 1つでも条件が満たされていない場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

4.2 製品識別表示

機器を識別するには以下の方法があります。

- 銘板
- 納品書に記載されたオーダーコード（機器仕様コードの明細付き）
- 銘板のシリアル番号を W@M デバイスビューワー (www.endress.com/deviceviewer) に入力すると、機器に関するすべての情報が表示されます。
- 銘板のシリアル番号を Endress+Hauser Operations App に入力するか、Endress +Hauser 操作アプリケーションで 2-D マトリクスコード（QR コード）をスキャンすると、機器に関するすべての情報が表示されます。

4.2.1 銘板



A0010725

図 3 Levelflex の銘板；寸法単位：mm (in)

- 1 機器名
- 2 製造者の住所
- 3 オーダーコード
- 4 シリアル番号 (Ser. no.)
- 5 拡張オーダーコード (Ext. ord. cd.)
- 6 プロセス圧力
- 7 気相補正：基準距離
- 8 認証シンボル
- 9 認定および認証関連データ
- 10 保護等級 (例：IP、NEMA)
- 11 安全上の注意事項 (例：XA、ZD、ZE) の資料番号
- 12 2-D マトリクスコード (QR コード)
- 13 変更マーク
- 14 製造日：年/月
- 15 ケーブルの許容温度範囲
- 16 機器リビジョン (Dev.Rev.)
- 17 機器に関する追加情報 (認証、認定、通信) (例：SIL、PROFIBUS)
- 18 ファームウェアバージョン (FW)
- 19 CE マーク、C-Tick
- 20 機器 ID
- 21 接液部の材質
- 22 許容周囲温度 (T_a)
- 23 ケーブルグランドのネジ寸法
- 24 プロープ長
- 25 信号出力
- 26 作動電圧

i 拡張オーダーコードは 33 桁のみ銘板に表示することができます。33 桁を超える拡張オーダーコードの場合、34 桁以上は表示されませんが、完全な拡張オーダーコードを機器の操作メニューの**拡張オーダーコード 1~3** パラメータで確認できます。

5 保管、輸送

5.1 保管条件

- 許容保管温度：-40～+80 °C (-40～+176 °F)
- 弊社出荷時の梱包材をご利用ください。

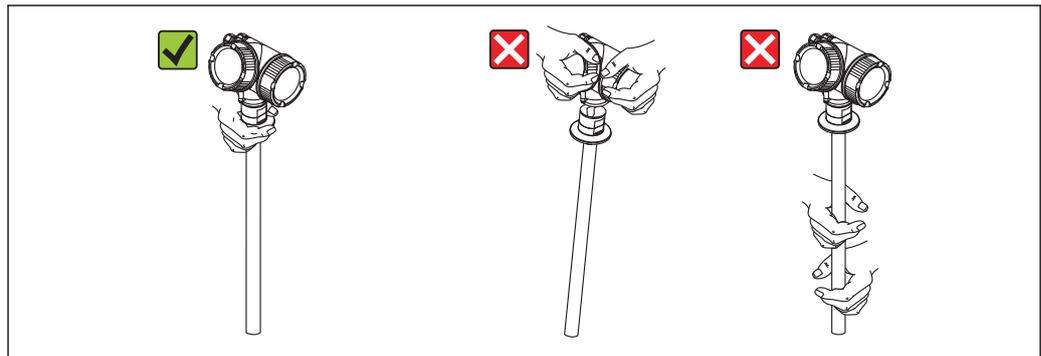
5.2 測定点までの製品の搬送

警告

ハウジングまたはプローブが損傷したり、外れたりする恐れがあります。

けがに注意！

- ▶ 機器を測定点に搬送する場合は、出荷時の梱包材を使用するか、プロセス接続部を持ってください。
- ▶ 吊り上げ装置（ホイストスリング、吊り上げ用アイボルトなど）はハウジングまたはプローブではなくプロセス接続部に固定してください。意図せずに傾くことがないように、機器の質量中心を考慮してください。
- ▶ 18 kg (39.6 lbs) 以上の機器に関する安全注意事項、輸送条件を順守してください (IEC61010)。

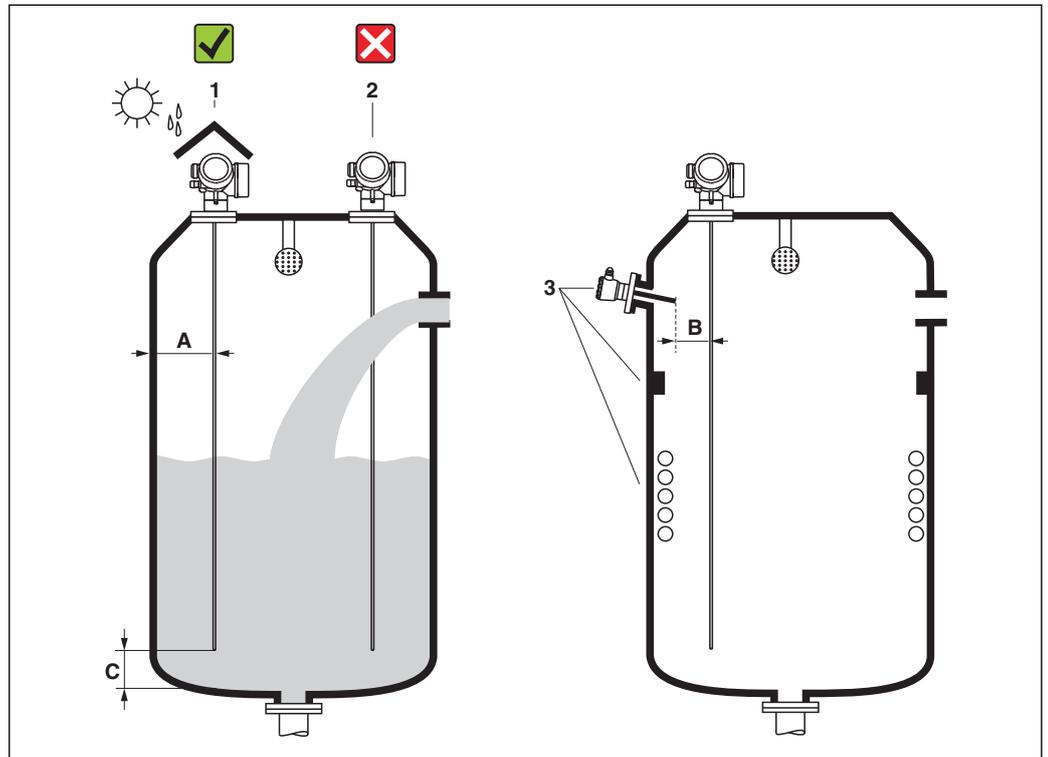


A0014267

6 設置

6.1 取付要件

6.1.1 適切な取付位置



A0014130

図 4 Levelflex の取付要件

取付距離

- 壁とロッドプローブとの距離 (A) :
 - 平らな金属壁の場合 : 50 mm (2 in) 以上
 - プラスチック壁の場合 : タンク外側の金属部品から 300 mm (12 in) 以上
- ロッドプローブとタンクの内部金具 (3) との距離 (B) : 300 mm (12 in) 以上
- 複数の Levelflex を使用する場合 :
 - センサ軸間の最小距離は 100 mm (3.94 in) です。
- プローブの終端とタンクの底からの距離 (C) は 10 mm (0.4 in) 以下です。

その他の条件

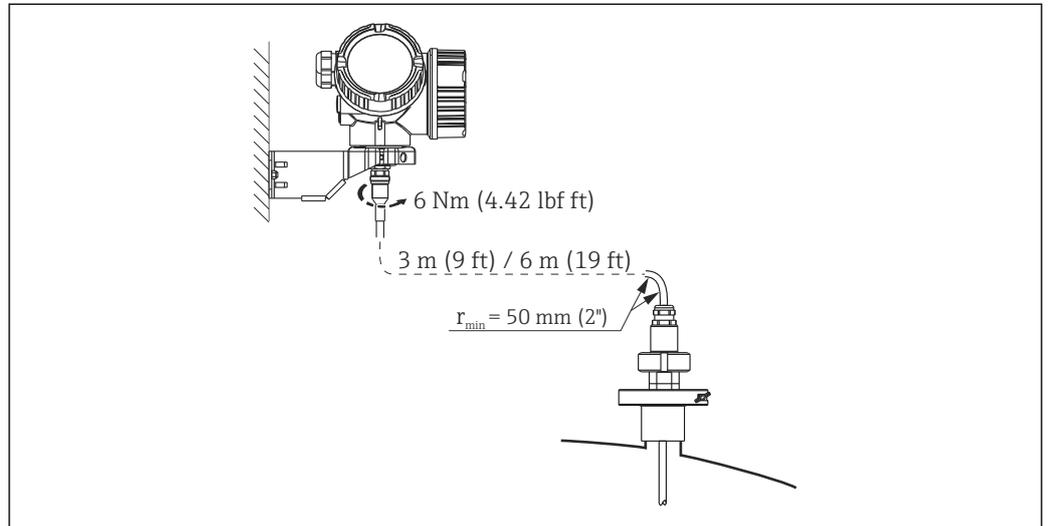
- 屋外に設置する場合は、厳しい気象条件から機器を保護するために日よけカバー (1) を使用してください。
- 充填幕が形成される位置 (2) にはプローブを取り付けしないでください。

 ハウジングをくぼみ (例: コンクリート天井) に取り付ける場合は、端子部/表示部カバーから壁までの最小距離が **100 mm (4 inch)** となるように注意してください。そうでない場合は、設置後に端子部/表示部にアクセスできなくなります。

6.1.2 取付スペースが制限されるアプリケーション

分離型センサの取付け

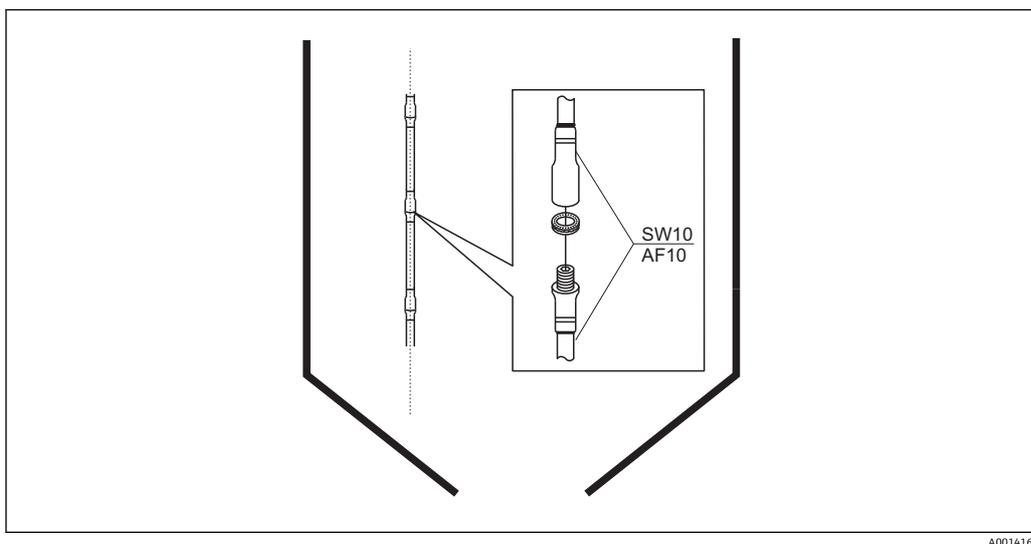
分離型センサの機器バージョンは、取付けスペースが制限されるアプリケーションに最適です。この場合、電子部ハウジングは確認しやすい別の位置に取り付け可能です。



A0015103

- Levelflex バージョン（製品構成を参照）：
 - 仕様コード 600「プローブ設計」
 - オプション MB「分離型センサ、3 m/9 ft ケーブル、着脱可能 + 取付金具」
 - オプション MC「分離型センサ、6 m/18 ft ケーブル、着脱可能 + 取付金具」
 - 接続ケーブルは、出荷時にプローブに固定されます。
 - 長さ：3 m (9 ft) または 6 m (19 ft)
 - 最小曲げ半径：50 mm (2 inch)
 - この機器バージョンには、電子部ハウジング用の取付ブラケットが同梱されます。取付オプション：
 - 壁取付け
 - パイプ取付、直径：42～60 mm (1-1/4～2 inch)
- i** 接続ケーブル付きプローブと電子部は、互いに適合するように調整されています。これらのシリアル番号は共通です。接続する際には、必ず、シリアル番号が同じ部品同士を接続してください。

分割型プローブ



A0014166

上部の空間が狭い場合は、分離型ロッドプローブ (φ 8 mm) の使用を推奨します。

- 最大プローブ長 6 m/236 inch
 - 横方向の最大応力 10 Nm
 - 分割型プローブは以下の長さを単位として、複数を組み合わせて使用することができます。
 - 500 mm (20 in)
 - 1000 mm (40 in)
 - トルク : 4.5 Nm
 - 接合部は O リングを使用してシームレスにシールします。
- i** 個々のロッドセグメント間の接合部は、中にあるノルトロックワッシャによって固定されます。事前組立てされた対のワッシャを、カム面同士が向き合うように挿入します。
- i** プローブ表面の損傷を防止するため：ロッドプローブの取付けには、表面がプラスチックのパイプレンチを使用してください。

6.1.3 プローブの機械的負荷に関する注意事項

ロッドプローブの曲げ強度

センサ	仕様コード 060	プローブ	曲げ強度 [Nm]
FMP53	DA、DB、EA、EB	ロッド 8 mm (0.31") SUS 316L 相当	10
	FA、FB、GA、GB、HA、HB、IA、IB	ロッド 8 mm (0.31") SUS 316L 相当 分割型	10

流体の流れによる曲げ負荷（トルク）

プローブに作用する曲げトルク M の計算式：

$$M = c_w \times \rho / 2 \times v^2 \times d \times L \times (L_N - 0.5 \times L)$$

以下を使用：

c_w ：摩擦係数

ρ [kg/m³]：測定物密度

v [m/s]：ロッドプローブに対して垂直方向の測定物速度

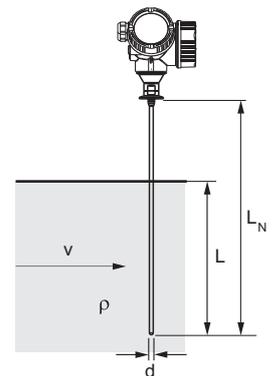
d [m]：ロッドプローブの直径

L [m]：レベル

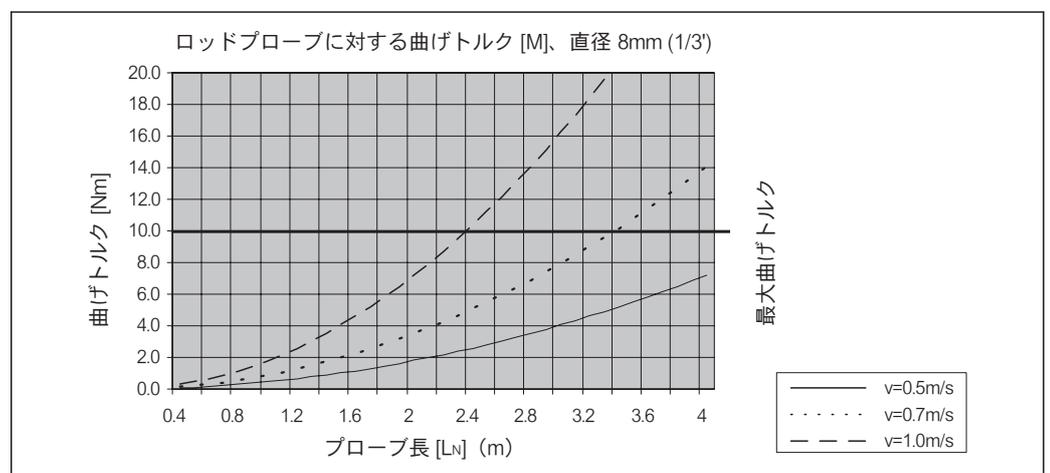
L_N [m]：プローブ長

計算例

摩擦係数 c_w	0.9 (乱流 - 高レイノルズ数を前提)
密度 ρ [kg/m ³]	1000 (例：水)
プローブ直径 [m]	0,008
$L = L_N$	(最悪条件)



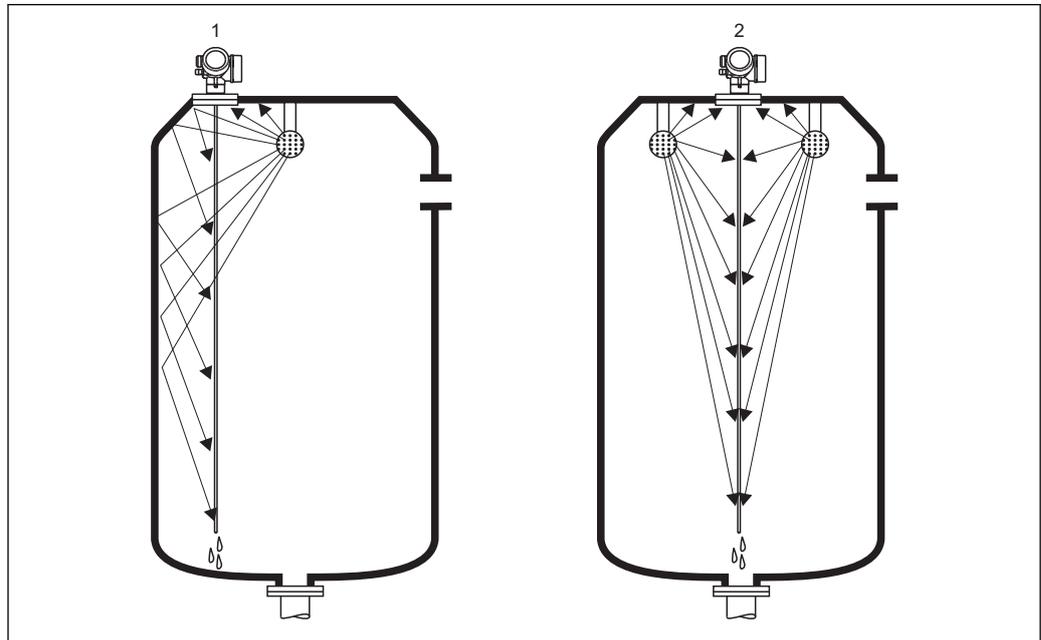
A0014175



A0014182-JA

6.1.4 特殊な設置条件

プローブ洗浄用のスプレーボール付きタンク



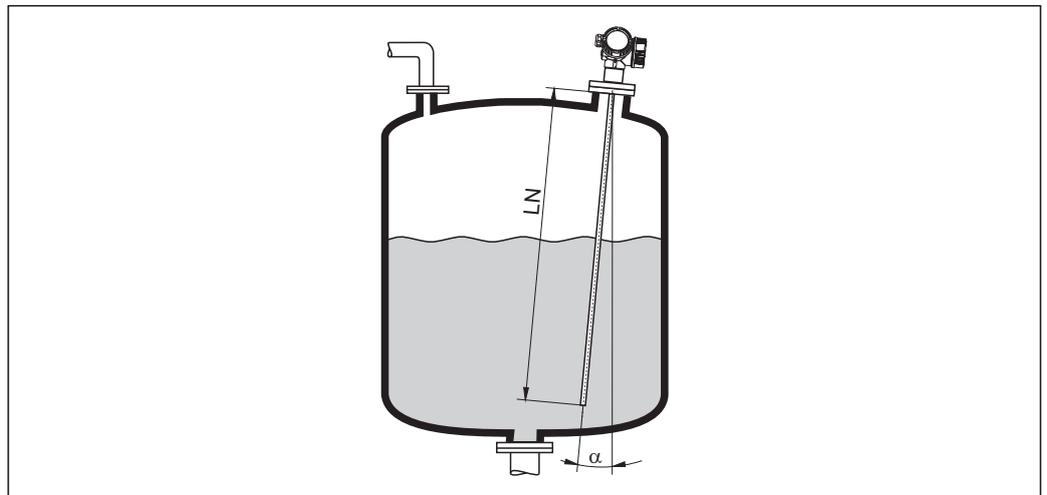
タンク内壁の近くに設置

タンク内壁の近くにプローブを設置することで、スプレーボールを使用した場合の洗浄効果が向上します。洗浄噴流はタンク内壁に当たってからプローブに達します。つまり、通常のスプレーボールの噴流では届かないプローブ部品も洗浄されます。この位置にプローブを設置した場合、スプレーボールは1つしか必要ありません。

タンク中央に設置

タンク中央にプローブを設置した場合、スプレーボールを2つ使用する必要があります。スプレーボールはプローブの左右に取り付けます。

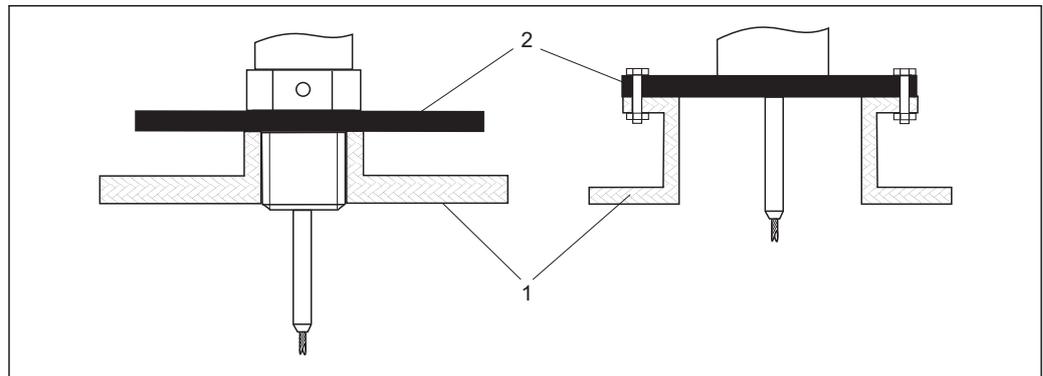
斜めの取付



A0014145

- 機械的理由により、プローブはできるだけ液面と垂直に取り付けてください。
- 斜めに取り付ける場合は、設置角度に応じてプローブ長を調整する必要があります。
 - 最大 LN = 1 m (3.3 ft) : $\alpha = 30^\circ$
 - 最大 LN = 2 m (6.6 ft) : $\alpha = 10^\circ$
 - 最大 LN = 4 m (13.1 ft) : $\alpha = 5^\circ$

非金属タンク

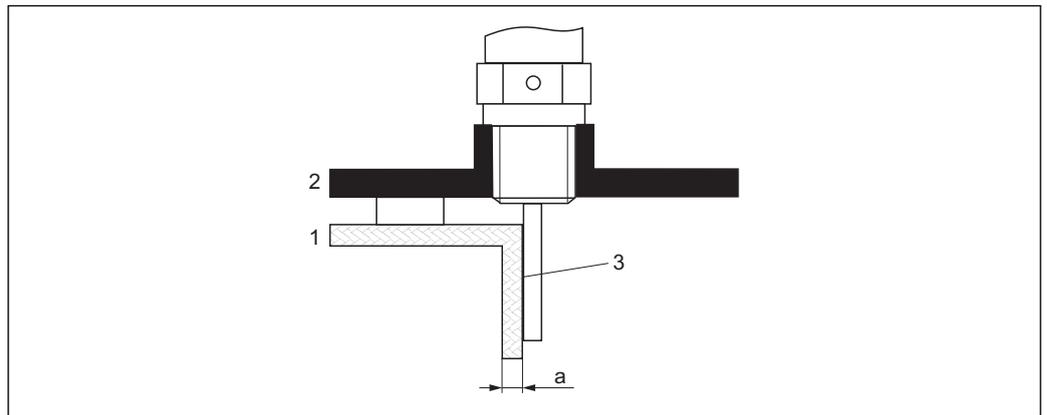


A0012527

- 1 非金属タンク
- 2 金属板または金属フランジ

非金属タンクにおいて信頼性の高い測定を保証するため、直径が 200 mm (8 in) 以上の金属板をプローブのプロセス接続に取り付けます。金属板はプローブに対して直角にする必要があります。

プラスチックまたはガラスタンク：プローブは壁面の外側に取付けます。



A0014150

- 1 プラスチックまたはガラスタンク
- 2 ネジ込みスリーブ付き金属板
- 3 タンク壁とプローブの間に隙間ができないように注意してください！

要件

- 測定物の比誘電率が最低 $DC > 7$ であること
- タンク壁が非導電性であること
- 最大壁厚 (a) :
 - プラスチック : 15 mm (0.6") 以下
 - ガラス : 10 mm (0.4") 以下
- タンクに金属の補強材が取り付けられていないこと

設置条件：

- プローブはタンク壁に直接取り付けてください (隙間ができないよう)。
- 測定が影響を受けないように、直径約 200mm (8") のプラスチック製ハーフパイプ、またはその他の保護ユニットをプローブの外側に取り付けてください。
- タンク直径が 300 mm (12") 以下の場合：
タンクの反対側に金属の接地板を取り付けてください。接地板はプロセス接続と導電的に接続し、タンク円周の約半分をカバーしなければなりません。
- タンク直径が 300 mm (12") 以上の場合：
直径が 200 mm (8") 以上の金属板をプローブのプロセス接続に取り付けてください。金属板はプローブに対して直角にする必要があります (上図を参照)。

外部プローブ取付けの校正

外側からタンク壁にプローブが取り付けられている場合は、信号伝搬速度が低下します。この影響を補正するには、2つの方法があります。

気相補正係数による補正

誘電性の壁の影響は、誘電性の気相の影響と比較できます。したがって、同様にしてこれを補正することが可能です。補正係数は、実際のプローブ長 LN とタンクが空のときの測定プローブ長の割合で決定します。

i 機器はサブトラクテッドカーブでプローブの終端信号を探します。そのため、測定プローブ長の値はマッピングに左右されます。正確な値を得るためには、FieldCare の反射波形表示を使用して手動でプローブ長を特定することを推奨します。

手順	パラメータ	アクション
1	エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード	定数 GPC ファクタ オプションを選択します。
2	エキスパート → センサ → 気相補正 → 定数 GPC ファクタ	割合を入力：「(実際のプローブ長) / (測定プローブ長)」

校正パラメータによる補正

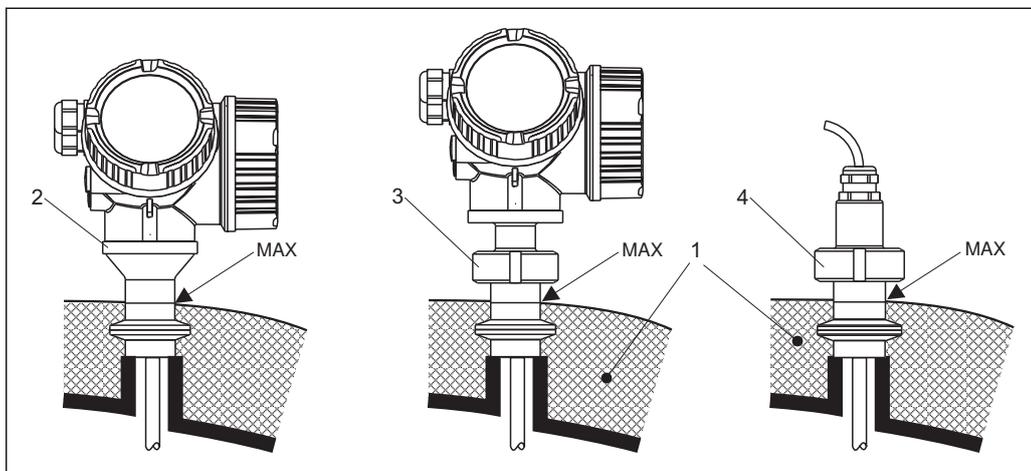
実際の気相を補正する必要がある場合、外部取付けの補正用に気相補正機能を使用することはできません。この場合、校正パラメータ（**空校正**と**満量校正**）を調整し、実際のプローブ長より長い値を**実際のプローブ長**パラメータに入力する必要があります。この3つのパラメータの補正係数は、タンクが空のときの測定プローブ長と実際のプローブ長 LN の割合で決定します。

 機器はサブトラクテッドカーブでプローブの終端信号を探します。そのため、測定プローブ長の値はマッピングに左右されます。正確な値を得るためには、FieldCare の反射波形表示を使用して手動でプローブ長を特定することを推奨します。

手順	パラメータ	アクション
1	設定 → 空校正	「(測定プローブ長) / (実際のプローブ長)」でパラメータ値を増加させます。
2	設定 → 満量校正	「(測定プローブ長) / (実際のプローブ長)」でパラメータ値を増加させます。
3	設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → プローブ長の確認	手動入力 オプションを選択します。
4	設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → 実際のプローブ長	測定プローブ長を入力します。

断熱材付きタンクへの設置

i プロセス温度が高い場合は、熱の放射や伝達により電子回路部が過熱しないよう、機器をタンク断熱部に設置してください。断熱材は図の「MAX」と示した位置を超えないようにしてください。



A0015809

5 衛生プロセス接続 - FMP53

- 1 タンク断熱材
- 2 一体型機器
- 3 一体型機器、分離可能 (仕様コード 600)
- 4 分離型センサ (仕様コード 600)

6.2 機器の設置

6.2.1 必要な取付工具

- ロッドまたはコアキシャルプローブの切断用：のこぎり
- フランジおよびその他のプロセス接続用：適切な取付工具
- ハウジングの回転用：六角レンチ 8 mm

6.2.2 「分離型センサ」バージョンの取付け

i このセクションは、「プローブ型式」=「分離型センサ」（仕様コード 600、オプション MB または MC）バージョンの機器にのみ適用されます。

「プローブ型式」=「分離型センサ」バージョンの場合、次のコンポーネントが納入されます。

- プロセス接続部および接続ケーブル（3 m/9 ft または 6 m/18 ft）付きプローブ
- 電子部ハウジング
- 電子部ハウジングの壁またはパイプ取付用の取付ブラケット

i 接続ケーブルは、出荷時にプローブに固定されます。

i 接続ケーブル付きプローブと電子部は、互いに適合するように調整されています。これらのシリアル番号は共通です。接続する際には、必ず、シリアル番号が同じ部品同士を接続してください。

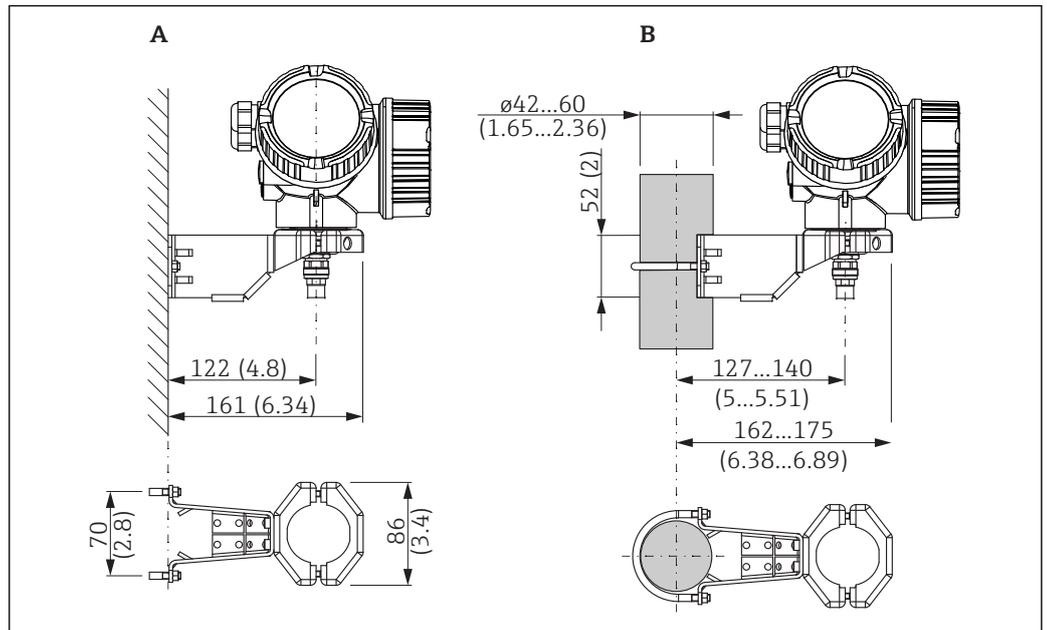
▲ 注意

機械的応力がかかると、接続ケーブルのプラグが破損したり誤って緩んだりすることがあります。

- ▶ ケーブルを接続する前に、プローブと電子部ハウジングをしっかりと取り付けてください。
- ▶ ケーブルは機械的応力がかからないように敷設します。最小曲げ半径：50 mm (2")
- ▶ 電子部ハウジングのカップリングナットのトルク：6 Nm
- ▶ プローブのカップリングナットのトルク：20 Nm

i 測定点が激しい振動にさらされる場合は、電子部ハウジングのプラグコネクタに追加の緩み止め剤（例：ロックタイト 243）を塗布することが可能です。

電子部ハウジングの取付け



A0014793

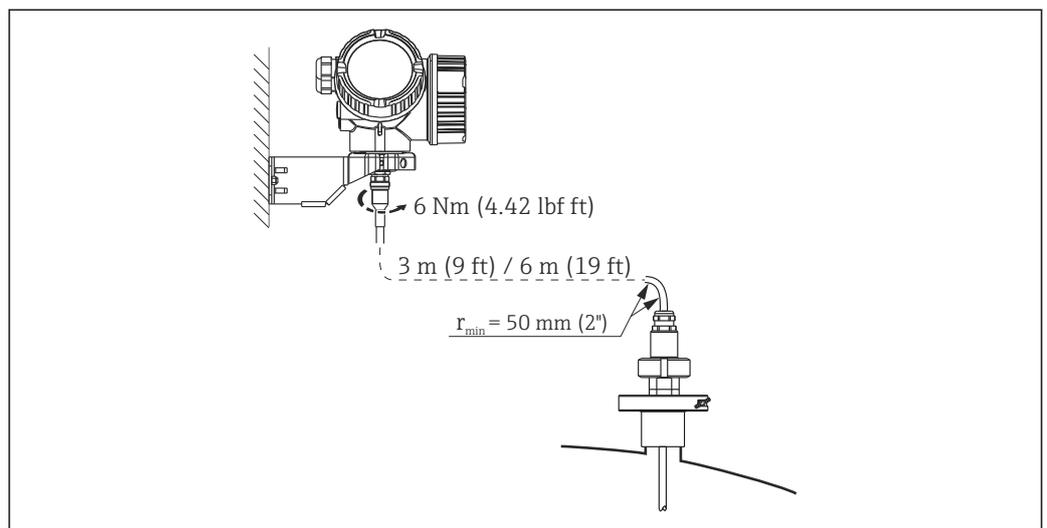
図 6 取付ブラケットを使用した電子部ハウジングの取付け；寸法単位：mm (in)

- A 壁取付け
B パイプ取付け

ケーブルの接続

必要な工具：

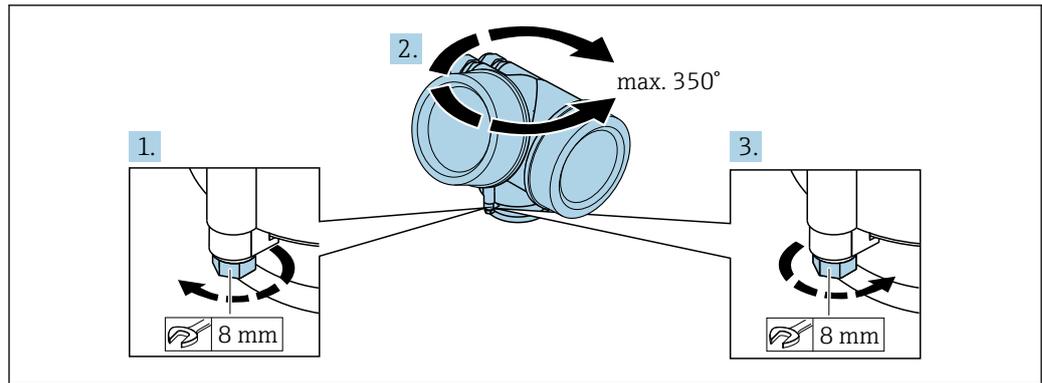
- ケーブルのハウジング側のカップリングナット用：スパナ AF 18mm
- ケーブルのプロープ側のカップリングナット：54 mm (2.1") ひっかけスパナおよび 27 mm (1-1/16") オープンエンドスパナ



A0015103

6.2.3 変換器ハウジングの回転

端子部や表示モジュールにアクセスしやすくするため、変換器ハウジングを回転させることが可能です。

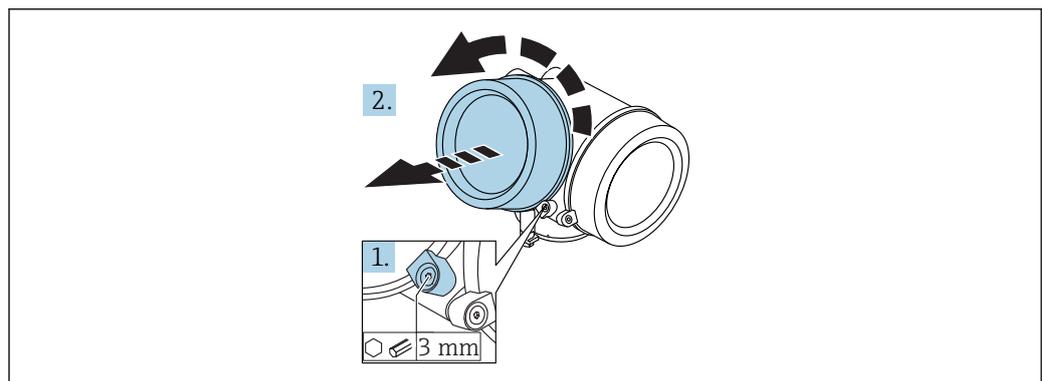


A0032242

1. オープンエンドスパナを使用して固定ネジを緩めます。
2. ハウジングを必要な方向に回転させます。
3. 固定ネジをしっかりと締め付けます (プラスチックハウジングは 1.5 Nm、アルミニウムまたはステンレスハウジングは 2.5 Nm)。

6.2.4 表示部の回転

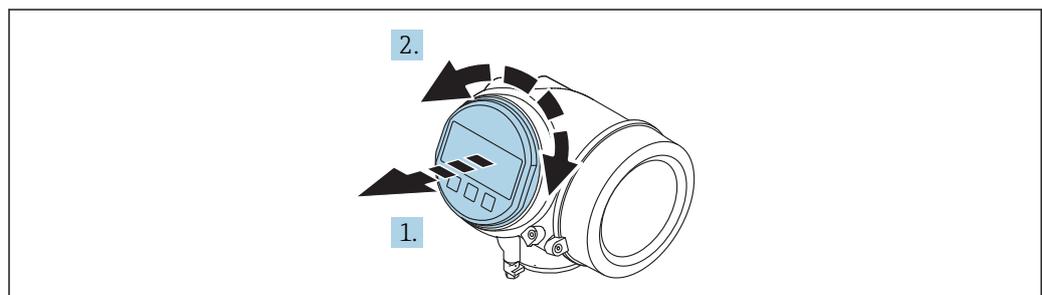
カバーを開ける



A0021430

1. 表示部カバーの固定クランプのネジを六角レンチ (3 mm) を使用して緩め、クランプ 90° を反時計回りに回します。
2. カバーを回して外し、カバーのガスケットを点検して、必要に応じて交換します。

表示モジュールの回転

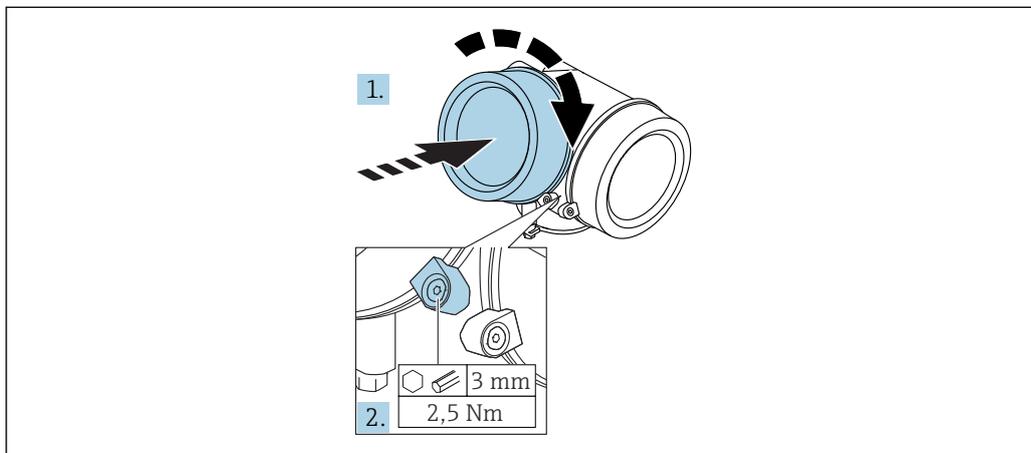


A0036401

1. 表示モジュールを慎重に回転させて引き抜きます。
2. 表示モジュールを必要な位置に回転させます：両方向とも最大 $8 \times 45^\circ$ 。

- ハウジングとメイン電子モジュール間の隙間にコイルケーブルを収納し、表示モジュールを電子部コンパートメントにかみ合うまで差し込みます。

表示部のカバーを閉じる



A0021451

- 表示部カバーを回して固くねじ込みます。
- 固定クランプ 90° を六角レンチ (3 mm) を使用して時計回りに回し、クランプをトルク 2.5 Nm で締め付けます。

6.3 設置状況の確認

○	機器は損傷していないか？（外観検査）
○	機器が測定点の仕様を満たしているか？ 例： <ul style="list-style-type: none">■ プロセス温度■ プロセス圧力（技術仕様書の「材質耐圧曲線」の章を参照）■ 周囲温度範囲■ 測定範囲
○	測定点の識別番号とそれに対応する銘板は正しいか（外観検査）？
○	機器が湿気あるいは直射日光から適切に保護されているか？
○	固定ネジや固定クランプがしっかりと締め付けられているか？

7 電気接続

7.1 接続条件

7.1.1 端子の割当て

2 線式、4-20 mA HART の端子割当て

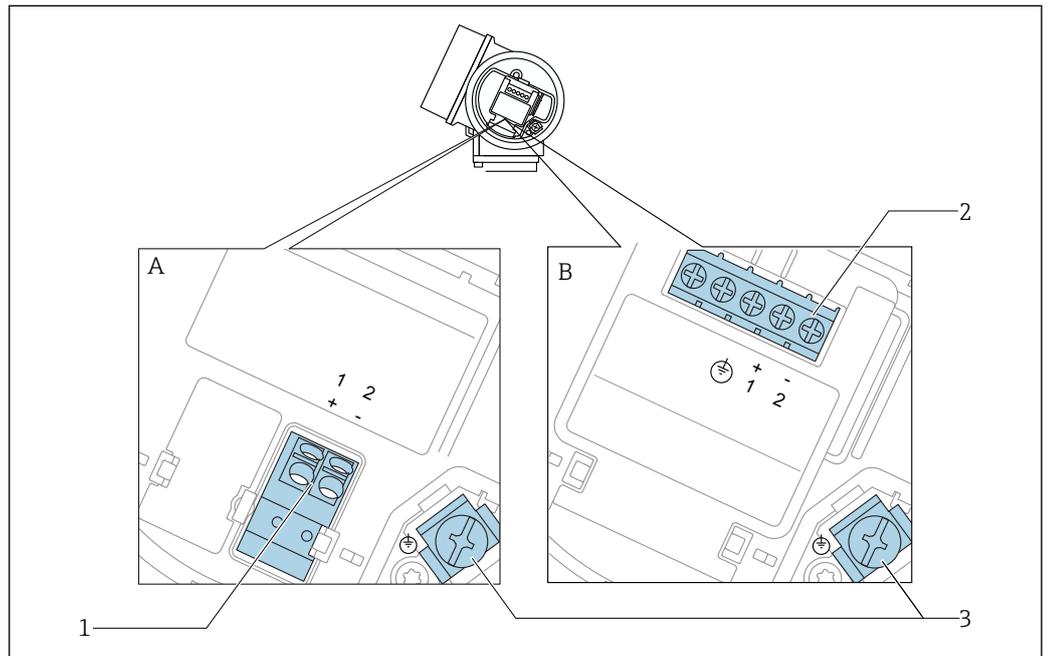


図 7 2 線式、4-20 mA HART の端子割当て

- A 過電圧保護機能なし
- B 過電圧保護機能内蔵
- 1 4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能なし
- 2 4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能内蔵
- 3 ケーブルシールド用端子

ブロック図：2 線式、4~20 mA HART

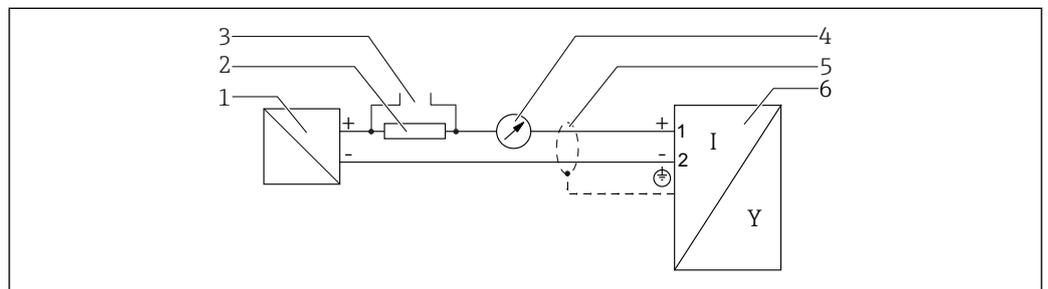
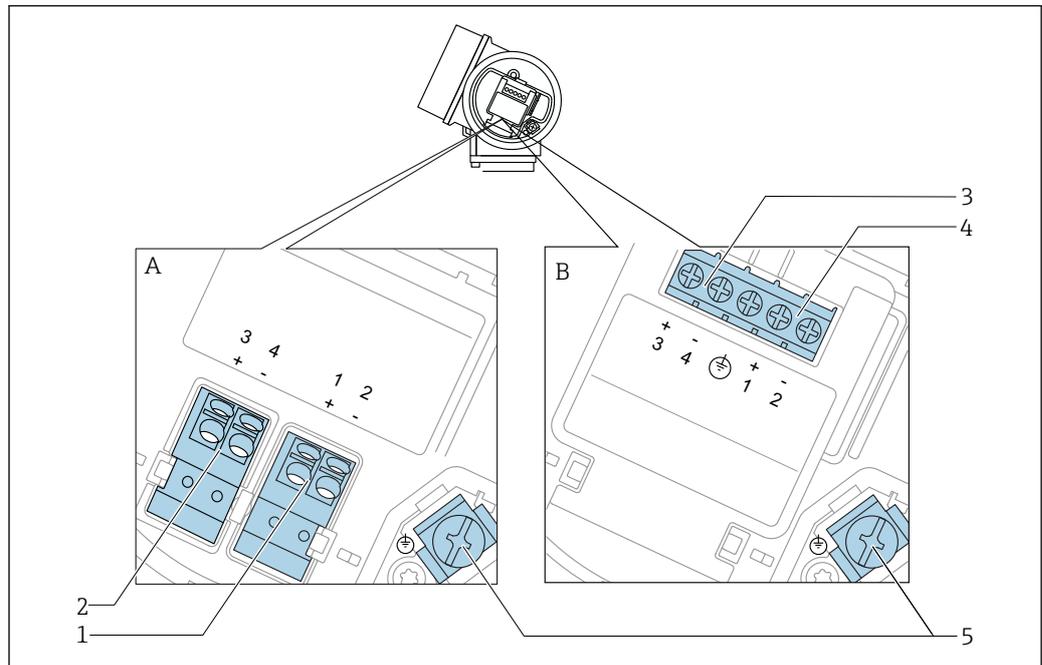


図 8 ブロック図：2 線式、4~20 mA HART

- 1 電源付きアクティブバリア (例：RN221N)；端子電圧に注意
- 2 HART 通信抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert SFX350/SFX370 の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示機器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド：ケーブル仕様を参照
- 6 機器

2線式、4~20 mA HART、スイッチ出力の端子割当て

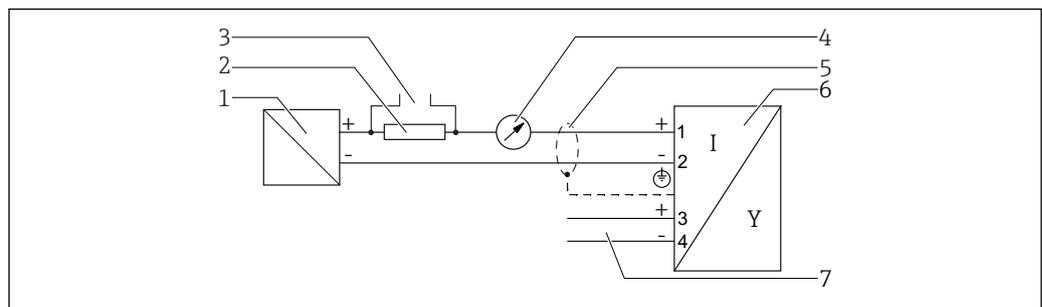


A0036500

図 9 2線式、4~20 mA HART、スイッチ出力の端子割当て

- A 過電圧保護機能なし
- B 過電圧保護機能内蔵
- 1 4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子1および2、過電圧保護機能なし
- 2 スイッチ出力 (オープンコレクタ) の接続：端子3および4、過電圧保護機能なし
- 3 スイッチ出力 (オープンコレクタ) の接続：端子3および4、過電圧保護機能内蔵
- 4 4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子1および2、過電圧保護機能内蔵
- 5 ケーブルシールド用端子

ブロック図：2線式、4~20 mA HART、スイッチ出力



A0036501

図 10 ブロック図：2線式、4~20 mA HART、スイッチ出力

- 1 電源付きアクティブバリア (例：RN221N)；端子電圧に注意
- 2 HART 通信抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert SFX350/SFX370 の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示機器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド：ケーブル仕様を参照
- 6 機器
- 7 スイッチ出力 (オープンコレクタ)

2線式、4~20 mA HART、4~20 mA の端子割当て

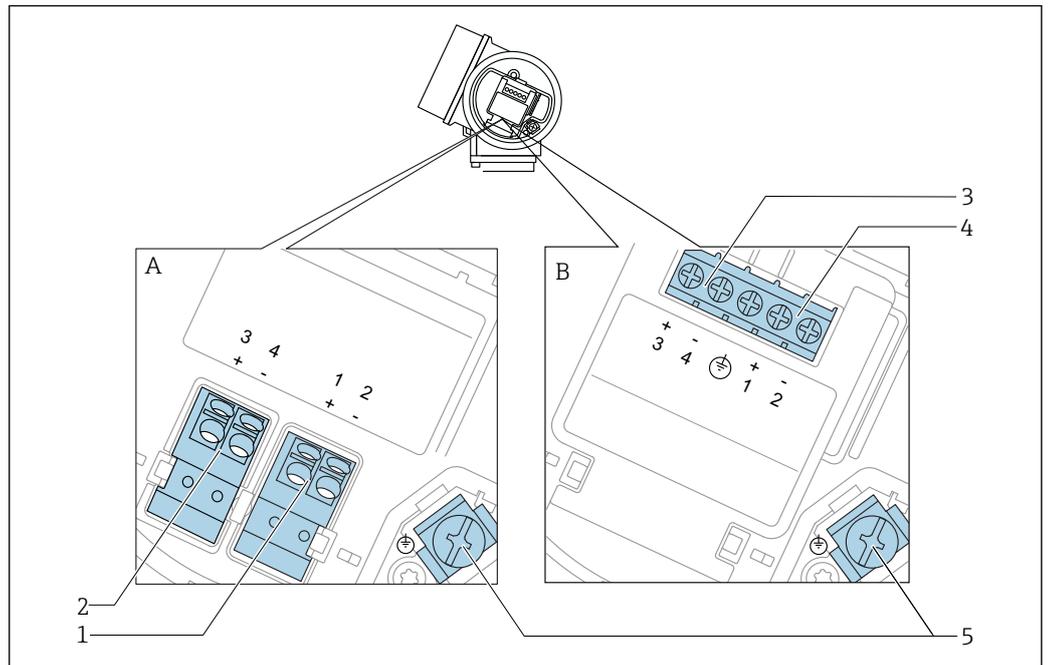


図 11 2線式、4~20 mA HART、4~20 mA の端子割当て

- A 過電圧保護機能なし
- B 過電圧保護機能内蔵
- 1 電流出力 1、4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能なし
- 2 電流出力 2、4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子 3 および 4、過電圧保護機能なし
- 3 電流出力 2、4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子 3 および 4、過電圧保護機能内蔵
- 4 電流出力 1、4~20 mA HART (パッシブ) 機器の接続：端子 1 および 2、過電圧保護機能内蔵
- 5 ケーブルシールド用端子

ブロック図：2線式、4~20 mA HART、4~20 mA

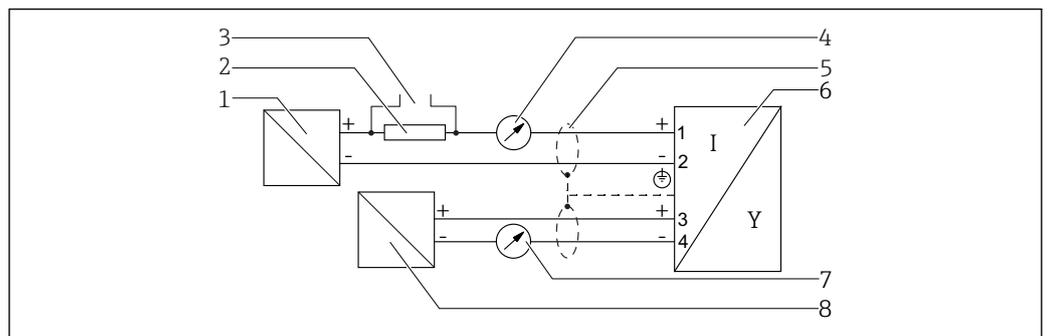
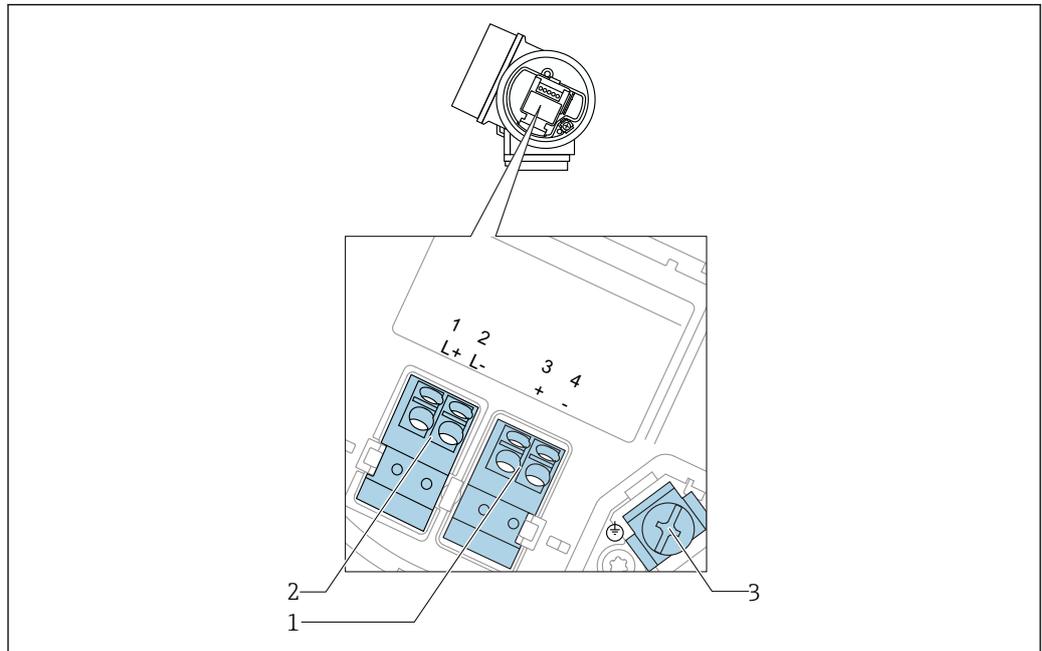


図 12 ブロック図：2線式、4~20 mA HART、4~20 mA

- 1 電源付きアクティブバリア (例：RN221N)；端子電圧に注意
- 2 HART 通信抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert SFX350/SFX370 の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示機器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド：ケーブル仕様を参照
- 6 機器
- 7 アナログ表示機器；最大負荷に注意
- 8 電源付きアクティブバリア (例：RN221N)、電流出力 2；端子電圧に注意

4線式、4~20 mA HART の端子割当て (10.4~48 V_{DC})

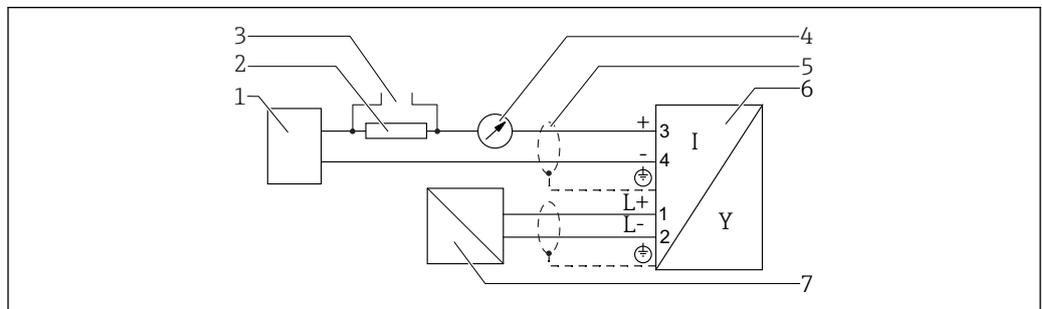


A0036516

図 13 4線式、4~20 mA HART の端子割当て (10.4~48 V_{DC})

- 1 4~20 mA HART (アクティブ) の接続：端子 3 および 4
- 2 電源接続：端子 1 および 2
- 3 ケーブルシールド用端子

ブロック図：4線式、4~20 mA HART (10.4~48 V_{DC})



A0036526

図 14 ブロック図：4線式、4~20 mA HART (10.4~48 V_{DC})

- 1 演算ユニット (例：PLC)
- 2 HART 通信抵抗 ($\geq 250 \Omega$)；最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert SFX350/SFX370 の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示機器；最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド：ケーブル仕様を参照
- 6 機器
- 7 供給電圧；端子電圧を参照、ケーブル仕様を参照。

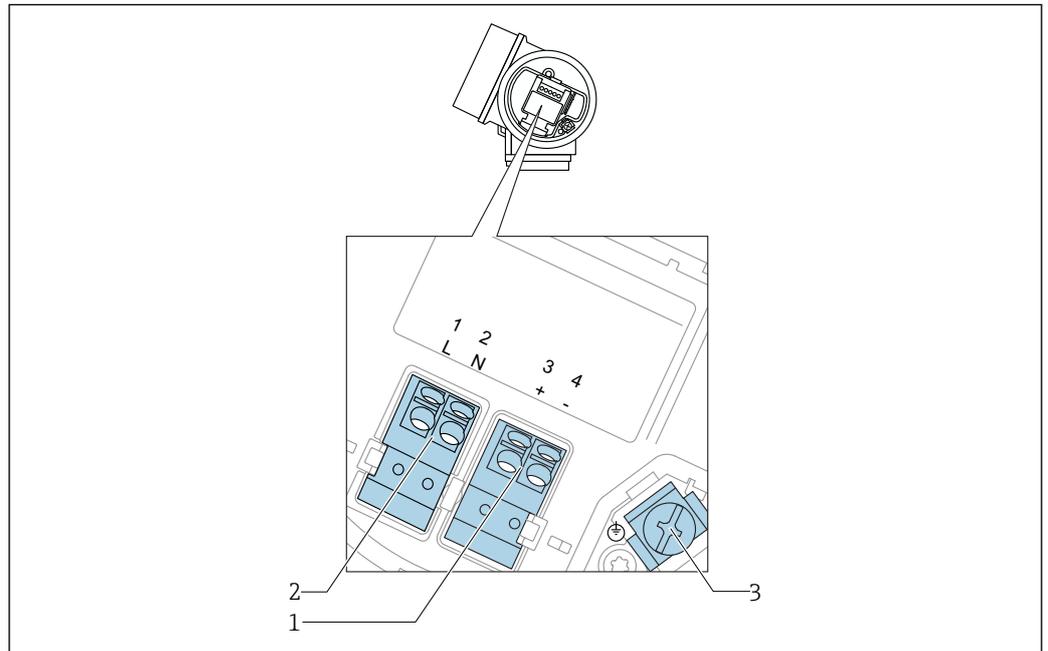
4 線式、4~20 mA HART の端子割当て (90~253 V_{AC})

図 15 4 線式、4~20 mA HART の端子割当て (90~253 V_{AC})

- 1 4~20 mA HART (アクティブ) の接続：端子 3 および 4
- 2 電源接続：端子 1 および 2
- 3 ケーブルシールド用端子

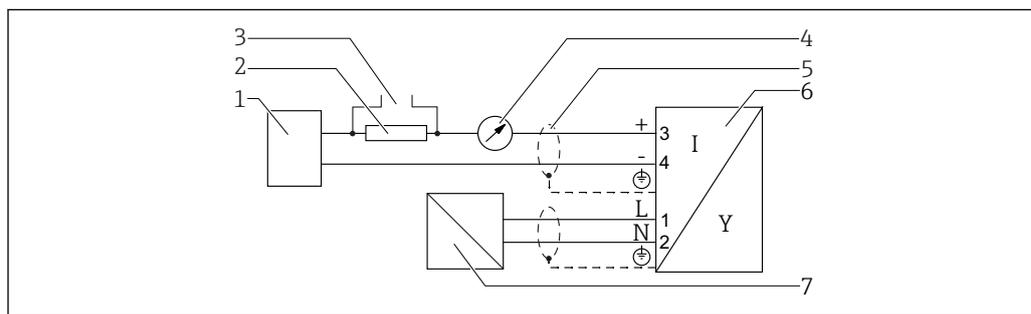
⚠ 注意

電気的安全性を確保するために：

- ▶ 保護接続は外さないでください。
- ▶ 保護アースを外す前に供給電圧の接続を切ってください。

- i** 供給電源に接続する前に、保護アースを内部の接地端子 (3) に接続してください。必要に応じて等電位線に外部の接地端子に接続してください。
- i** 電磁適合性 (EMC) を確保するには：機器の接地には電源ケーブルの保護接地線だけでなく、プロセス接続 (フランジまたはネジ込み接続) または外部の接地端子を介して機能接地も行ってください。
- i** 機器の近くにアクセスしやすい電源スイッチを設置する必要があります。電源スイッチには機器の開閉器であることを明示してください (IEC/EN61010)。

ブロック図：4線式、4~20 mA HART (90~253 V_{AC})

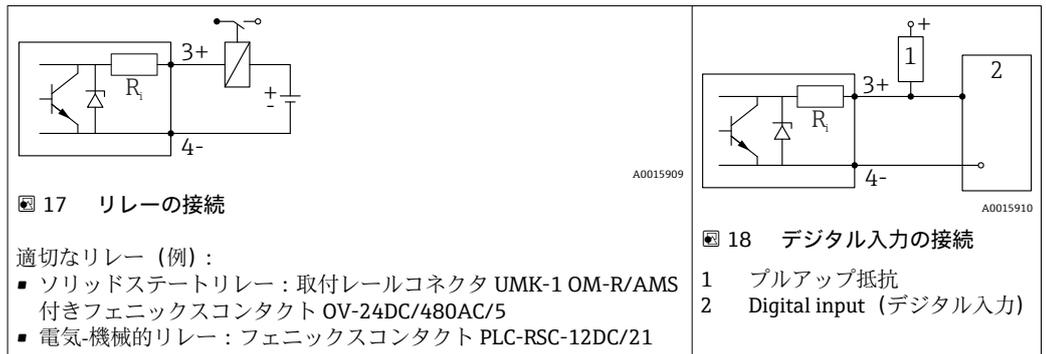


A0036527

図 16 ブロック図：4線式、4~20 mA HART (90~253 V_{AC})

- 1 演算ユニット (例：PLC)
- 2 HART 通信抵抗 ($\geq 250 \Omega$) ; 最大負荷に注意
- 3 Commubox FXA195 または FieldXpert SFX350/SFX370 の接続 (VIATOR Bluetooth モデム使用)
- 4 アナログ表示機器 ; 最大負荷に注意
- 5 ケーブルシールド : ケーブル仕様を参照
- 6 機器
- 7 供給電圧 ; 端子電圧を参照、ケーブル仕様を参照。

スイッチ出力の接続例



i 最適な干渉波の適合性を得るには、1000 Ω 未満の外部抵抗（リレーの抵抗またはプルアップ抵抗）に接続することをお勧めします。

7.1.2 ケーブル仕様

- 過電圧保護機能のない機器
差込式スプリング端子、ケーブル断面積 0.5~2.5 mm² (20~14 AWG)
- 過電圧保護機能付き機器
ケーブル断面積 0.2~2.5 mm² (24~14 AWG) 用のネジ端子
- 周囲温度 T_U60 °C (140 °F) の場合：温度 T_U+20 K 用のケーブルを使用してください。

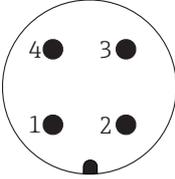
HART

- アナログ信号のみを使用する場合は、標準の機器ケーブルで十分です。
- HART を使用する場合は、シールドケーブルを推奨します。プラントの接地コンセプトに従ってください。
- 4 線機器の場合は、標準の機器ケーブルで十分です。

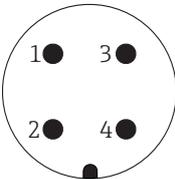
7.1.3 機器プラグコネクタ

i Fieldbus プラグコネクタ (M12 または 7/8") 付きのバージョンでは、ハウジングを開けずに信号線を接続できます。

M12 プラグコネクタのピン配置

	ピン	意味
	1	+ 信号
	2	接続なし
	3	- 信号
	4	接地

7/8" プラグコネクタのピン配列

	ピン	意味
	1	- 信号
	2	+ 信号
	3	接続なし
	4	シールド

7.1.4 電源

2 線式、4~20 mA HART、パッシブ

2 線式 ; 4~20 mA HART ¹⁾

「認証」 ²⁾	機器の端子電圧 U	電源ユニットの供給電圧 U ₀ に応じた最大負荷 R
<ul style="list-style-type: none"> ■ 非防爆 ■ Ex nA ■ Ex ic ■ CSA GP 	11.5~35 V ^{3) 4)}	<p style="text-align: right; font-size: small;">A0035511</p>
Ex ia / IS	11.5~30 V ⁴⁾	
<ul style="list-style-type: none"> ■ Ex d / XP ■ Ex ic[ia] ■ Ex tD / DIP 	13.5~30 V ^{4) 5)}	<p style="text-align: right; font-size: small;">A0034969</p>

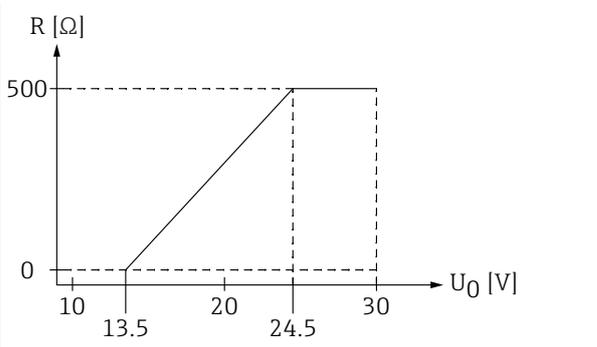
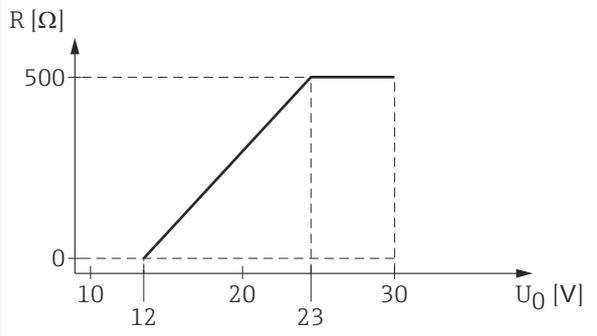
- 1) オーダーコードの仕様コード 020 : オプション A
- 2) 製品構成の仕様コード 010
- 3) 周囲温度が T_a ≤ -30 °C (-22 °F) の場合、最小エラー電流値 (3.6 mA) での機器始動には最小電圧 14 V が必要となります。周囲温度が T_a ≥ 60 °C (140 °F) の場合、最小エラー電流値 (3.6 mA) での機器始動には最小電圧 12 V が必要となります。スタートアップ電流はパラメータ設定できます。機器を固定電流値 I ≥ 4.5 mA (HART マルチドロップモード) で操作する場合は、すべての周囲温度範囲において電圧 U ≥ 11.5 V で十分です。
- 4) Bluetooth モデムを使用している場合は、最小供給電圧が 2 V 上昇します。
- 5) 周囲温度が T_a ≤ -20 °C (-4 °F) の場合、最小エラー電流値 (3.6 mA) での機器始動には最小電圧 16 V が必要となります。

2 線式 ; 4~20 mA HART、スイッチ出力 ¹⁾

「認証」 ²⁾	機器の端子電圧 U	電源ユニットの供給電圧 U ₀ に応じた最大負荷 R
<ul style="list-style-type: none"> ■ 非防爆 ■ Ex nA ■ Ex nA[ia] ■ Ex ic ■ Ex ic[ia] ■ Ex d[ia] / XP ■ Ex ta / DIP ■ CSA GP 	13.5~35 V ^{3) 4)}	<p style="text-align: right; font-size: small;">A0034971</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ Ex ia / IS ■ Ex ia + Ex d[ia] / IS + XP 	13.5~30 V ^{3) 4)}	

- 1) オーダーコードの仕様コード 020 : オプション B
- 2) 製品構成の仕様コード 010
- 3) 周囲温度が T_a ≤ -30 °C (-22 °F) の場合、最小エラー電流値 (3.6 mA) での機器始動には最小電圧 16 V が必要となります。
- 4) Bluetooth モデムを使用している場合は、最小供給電圧が 2 V 上昇します。

2線式；4~20 mA HART、4~20 mA¹⁾

「認証」 ²⁾	機器の端子電圧 U	電源ユニットの供給電圧 U_0 に応じた最大負荷 R
すべて	チャンネル 1 : 13.5~30 V ^{3) 4) 5)}	 <p style="text-align: right; font-size: small;">A0034969</p>
	チャンネル 2 : 12~30 V	 <p style="text-align: right; font-size: small;">A0022583</p>

- 1) オーダーコードの仕様コード 020 : オプション C
- 2) 製品構成の仕様コード 010
- 3) 周囲温度が $T_a \leq -30\text{ °C}$ (-22 °F) の場合、最小エラー電流値 (3.6 mA) での機器始動には最小電圧 16 V が必要となります。
- 4) 周囲温度が $T_a \leq -40\text{ °C}$ (-40 °F) の場合、最大端子電圧が $U \leq 28\text{ V}$ に制限される必要があります。
- 5) Bluetooth モデムを使用している場合は、最小供給電圧が 2 V 上昇します。

極性反転保護	あり
f = 0~100 Hz 時の許容残留リップル	$U_{SS} < 1\text{ V}$
f = 100~10000 Hz 時の許容残留リップル	$U_{SS} < 10\text{ mV}$

4 線式、4~20 mA HART、アクティブ

「電源；出力」 ¹⁾	端子電圧	最大負荷 R _{max}
K：4 線式、AC 90~253 V、4~20 mA HART	90~253 V _{AC} (50~60 Hz)、過電圧カテゴリ II	500 Ω
L：4 線式、DC 10.4~48 V、4~20 mA HART	10.4~48 V _{DC}	

1) 製品構成の仕様コード 020

7.1.5 過電圧保護

DIN EN 60079-14 の試験手順基準 60060-1 (10 kA、パルス 8/20 μs) に準拠した過電圧保護を必要とする可燃性液体のレベル測定に本機器を使用する場合、過電圧保護モジュールを設置してください。

内蔵の過電圧保護モジュール

内蔵の過電圧保護モジュールは、2 線式 HART、PROFIBUS PA、および FOUNDATION Fieldbus の各機器で使用できます。

製品構成：項目 610 「取付け済みアクセサリ」、オプション NA 「過電圧保護」

技術データ	
チャンネルあたりの抵抗	2 × 0.5 Ω 最大
DC 電圧しきい値	400~700 V
インパルス電圧しきい値	< 800 V
1 MHz の静電容量	< 1.5 pF
インパルス電圧の公称放電電流 (8/20 μs)	10 kA

外部の過電圧保護モジュール

Endress+Hauser の HAW562 または HAW569 は、外部過電圧保護に適しています。

 詳細情報については以下の文書を参照ください。

- HAW562 : TI01012K
- HAW569 : TI01013K

7.2 機器の接続

警告

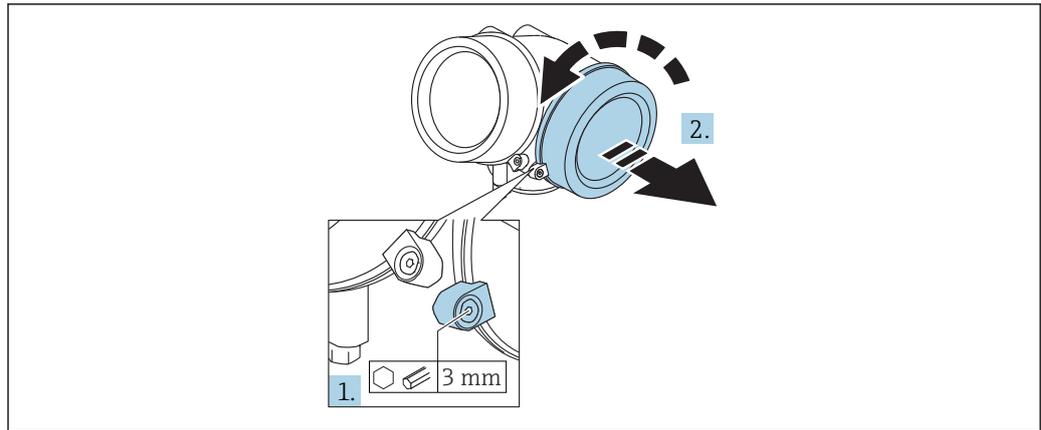
爆発に注意！

- ▶ 適用される各国の規格を順守してください。
- ▶ 安全上の注意事項 (XA) の仕様に従ってください。
- ▶ 指定のケーブルグランド以外使用しないでください。
- ▶ 電源が銘板に示されている情報と一致していることを確認してください。
- ▶ 電源のスイッチを切ってから機器を接続します。
- ▶ 電源を投入する前に、等電位線を外部の接地端子に接続してください。

必要な工具/アクセサリ：

- カバーロック付きの機器の場合：六角レンチ AF3
- 電線ストリッパー
- 標準ケーブルを使用する場合：1 つのスリーブですべての電線接続に対応

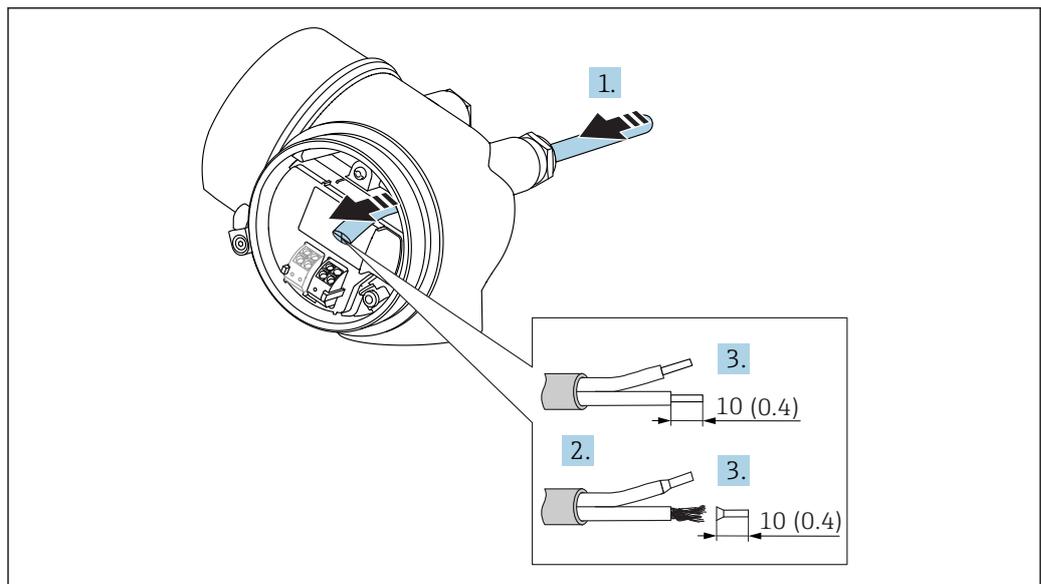
7.2.1 端子部カバーを開く



A0021490

1. 端子部カバーの固定クランプのネジを六角レンチ (3 mm) を使用して緩め、クランプ 90° を時計回りに回します。
2. その後に端子部カバーを回して外し、カバーのガスケットを点検して、必要に応じて交換します。

7.2.2 接続

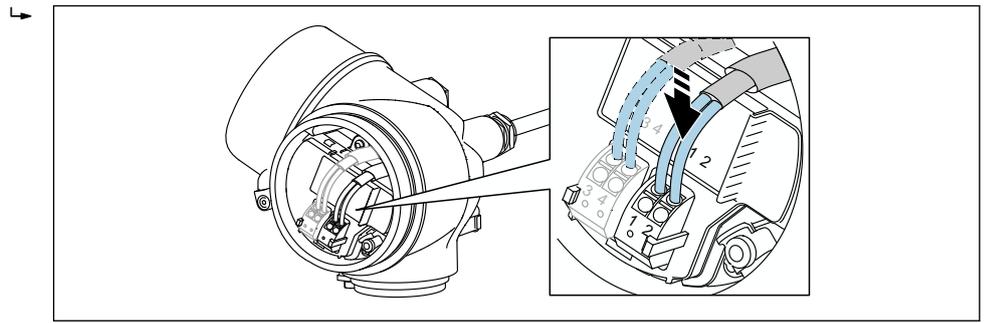


A0036418

図 19 寸法単位 : mm (in)

1. 電線管接続口からケーブルを挿入します。気密性を確保するため、電線管接続口のシーリングリングは外さないでください。
2. ケーブルシースを取り除きます。
3. 長さ 10 mm (0.4 in) にわたってケーブル終端を剥きます。より線ケーブルを使用する場合は、スリーブも取り付けます。
4. ケーブルグランドをしっかりと締め付けます。

5. 端子の割当てに従ってケーブルを接続します。

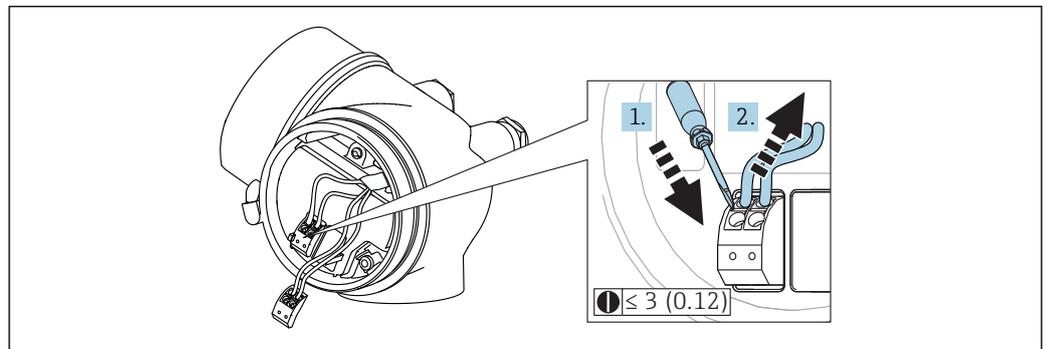


A0034682

6. シールドケーブルを使用する場合：ケーブルシールドを接地端子に接続します。

7.2.3 差込式スプリング端子

過電圧保護機能を備えていない機器の場合は、差込式スプリング端子を使用して電気接続を行います。スリーブ付きの剛性およびフレキシブル導体は、レバーを使用せずに直接端子に挿入することが可能であり、自動的に接点が形成されます。



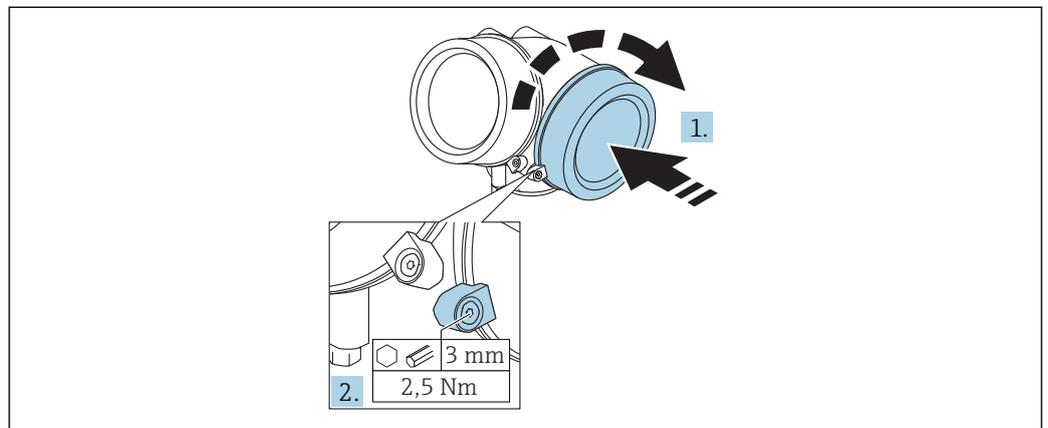
A0013661

☒ 20 寸法単位：mm (in)

端子からケーブルを外す場合：

1. 3 mm 以下のマイナスドライバを使用して 2 つの端子孔間の溝を押し下げます。
2. これと同時に、端子からケーブル終端を引き抜きます。

7.2.4 端子部カバーを閉じる



A0021491

1. 端子部カバーを回して固くねじ込みます。

2. 固定クランプ 90°を六角レンチ (3 mm) を使用して反時計回りに回し、クランプをトルク 2.5 Nm (1.84 lbf ft) で再度締め付けます。

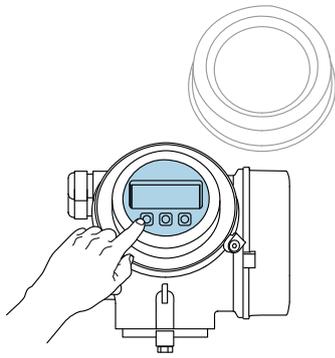
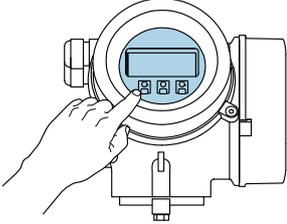
7.3 配線状況の確認

<input type="checkbox"/>	機器やケーブルは損傷していないか？ (外観検査)
<input type="checkbox"/>	ケーブルの仕様は正しいか？
<input type="checkbox"/>	ケーブルには適当な余裕があるか？
<input type="checkbox"/>	すべてのケーブルグラウンドが取り付けられ、しっかりと固定され、密閉されているか？
<input type="checkbox"/>	供給電圧が銘板に示されている仕様と一致しているか？
<input type="checkbox"/>	端子割当は正しいか？
<input type="checkbox"/>	必要に応じて：保護接地接続が確立されているか？
<input type="checkbox"/>	電圧が供給されている場合、機器の運転準備が整っているか、表示モジュールに値が表示されているか？
<input type="checkbox"/>	すべてのハウジングカバーが取り付けられ、しっかりと締められているか？
<input type="checkbox"/>	固定クランプは正しく締め付けられているか？

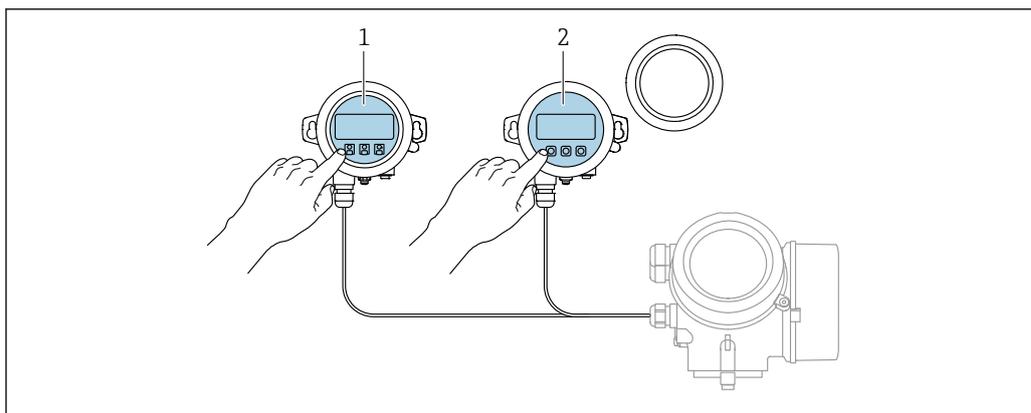
8 操作オプション

8.1 概要

8.1.1 現場操作

操作部	プッシュボタン	タッチコントロール
「ディスプレイ; 操作」のオーダーコード	オプション C 「SD02」	オプション E 「SD03」
		
表示部	4行表示	4行表示 白色バックライト; 機器エラー発生時は赤に変化
	測定変数およびステータス変数の表示形式は個別に設定可能	
	表示部の許容周囲温度: -20~+70 °C (-4~+158 °F) 温度が許容温度範囲外の場合、表示部の視認性が悪化する可能性があります。	
操作部	3つのプッシュボタン (田, 日, 回) による現場操作 各種危険場所でも操作部にアクセス可能	タッチコントロール、3つの光学式キー (田, 日, 回) による外部操作
追加機能	データバックアップ機能 機器設定を表示モジュールに保存可能	
	データ比較機能 表示モジュールに保存された機器設定と現在の機器設定とを比較できます。	
	データ転送機能 表示モジュールを使用して変換器設定を別の機器に転送できます。	

8.1.2 リモート表示部と操作モジュール FHX50 による操作



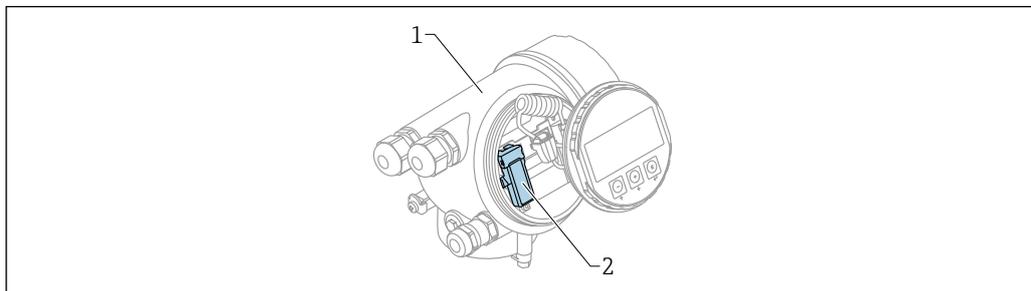
A0036314

図 21 FHX50 操作オプション

- 1 表示部および操作モジュール SD03 (光学式キー)、カバーガラスの上から操作できます。
- 2 表示部および操作モジュール SD02 (プッシュボタン)、カバーは取り外してください。

8.1.3 Bluetooth® ワイヤレス技術を経由

要件



A0036790

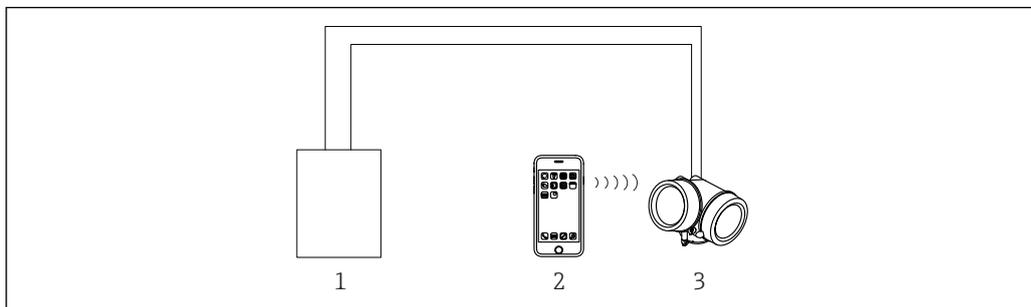
図 22 Bluetooth モジュール搭載の機器

- 1 機器の電子回路部ハウジング
- 2 Bluetooth モジュール

この操作オプションは Bluetooth モジュール搭載の機器でのみ使用可能です。以下のオプションがあります：

- 機器と一緒に Bluetooth モジュールが注文されている。
仕様コード 610 「取付け済みアクセサリ」、オプション NF 「Bluetooth」
- Bluetooth モジュールがアクセサリ（注文番号：71377355）として注文され、取り付けられている。個別説明書 SD02252F を参照してください。

SmartBlue（アプリ）経由の操作



A0034939

図 23 SmartBlue（アプリ）経由の操作

- 1 変換器電源ユニット
- 2 スマートフォン/タブレット端末、SmartBlue（アプリ）搭載
- 3 Bluetooth モジュール搭載の変換器

8.1.4 リモート操作

HART プロトコル経由

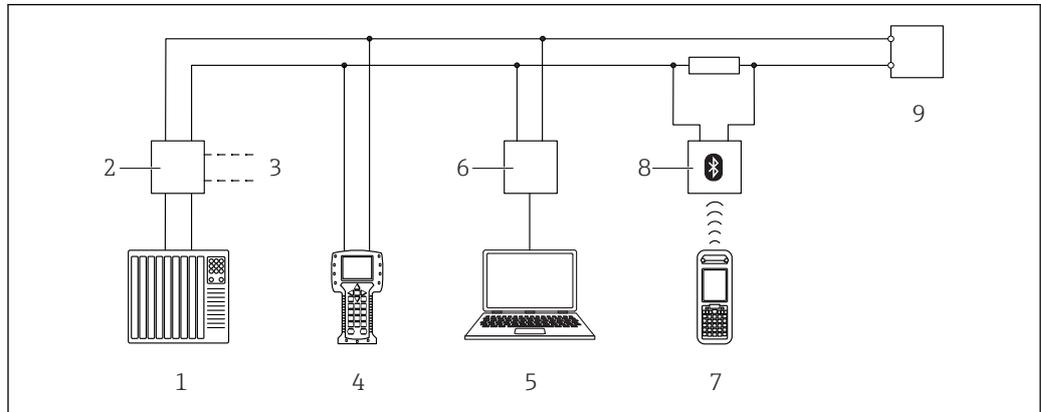


図 24 HART 経由のリモート操作オプション

- 1 PLC (プログラマブルロジックコントローラ)
- 2 変換器電源ユニット、例：RN221N (通信抵抗付き)
- 3 Commubox FXA191、FXA195 および Field Communicator 375、475 用の接続部
- 4 Field Communicator 475
- 5 操作ツール (例：DeviceCare/FieldCare、AMS Device Manager、SIMATIC PDM) 搭載のコンピュータ
- 6 Commubox FXA191 (RS232) または FXA195 (USB)
- 7 Field Xpert SFX350/SFX370
- 8 VIATOR Bluetooth モデム、接続ケーブル付き
- 9 変換器

サービスインターフェイス (CDI) 経由の DeviceCare/FieldCare

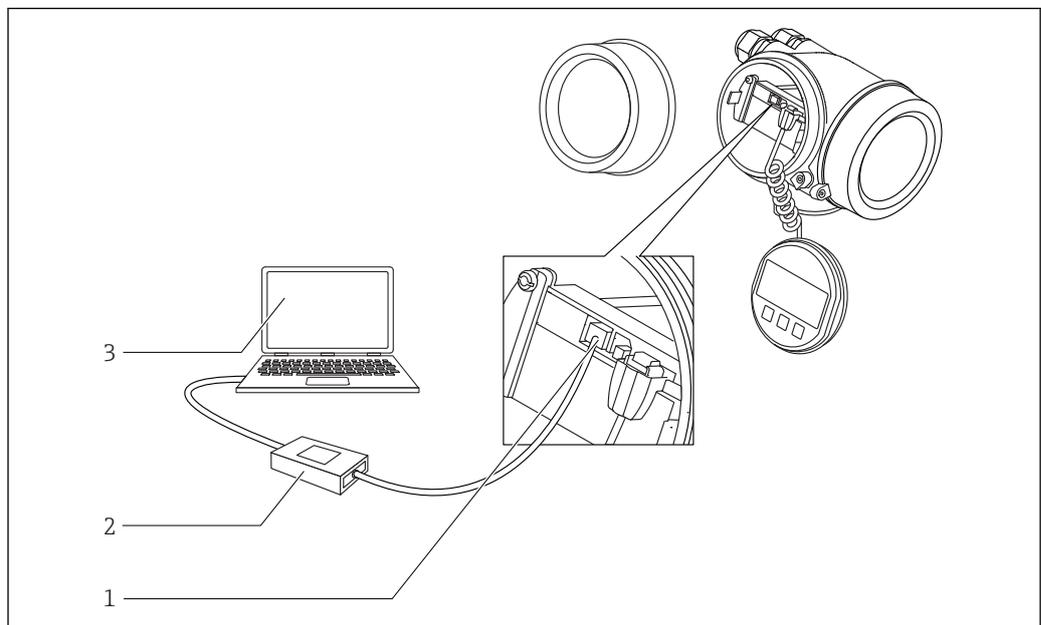


図 25 サービスインターフェイス (CDI) 経由の DeviceCare/FieldCare

- 1 機器のサービスインターフェイス (CDI = Endress+Hauser Common Data Interface)
- 2 Commubox FXA291
- 3 DeviceCare/FieldCare 操作ツール搭載のコンピュータ

8.2 操作メニューの構成と機能

8.2.1 操作メニューの構成

メニュー	サブメニュー/ パラメータ	意味
	Language ¹⁾	現場表示器の操作言語を設定します。
初回設定 ²⁾		メニューガイド方式で初回設定を行うための対話型ウィザードを起動します。ウィザードの終了後、通常は他のメニューで追加設定をする必要はありません。
設定	パラメータ 1 ... パラメータ N	これらのパラメータを設定した場合、通常は測定の設定を完了させる必要があります。
	高度な設定	その他のサブメニューやパラメータが含まれます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 機器を特殊な測定条件に合わせるため ■ 測定値を処理するため (スケーリング、リニアライゼーション) ■ 信号出力を設定するため
診断	診断リスト	現在発生中のエラーメッセージが最大 5 件含まれます。
	イベントログブック ³⁾	最新のメッセージ 20 件 (すでに発生していない) が含まれます。
	機器情報	機器識別用の情報が含まれます。
	測定値	すべての現在の測定値が含まれます。
	データのログ	個別の測定値の履歴が含まれます。
	シミュレーション	測定値または出力値のシミュレーションに使用
	機器チェック	機器の測定機能のチェックに必要なすべてのパラメータが含まれます。
	Heartbeat ⁴⁾	Heartbeat 検証 および Heartbeat モニタリング アプリケーションパッケージのすべてのウィザードが含まれます。
エキスパート ⁵⁾ 機器のすべてのパラメータが含まれます (上記メニューのいずれかに、すでに含まれているパラメータを含む)。このメニューは機器の機能ブロックに従って構成されています。 エキスパートメニューのパラメータの説明については、以下を参照してください。 GPO1000F (HART)	システム	測定または測定値の通信に関係しない、高次の機器パラメータがすべて含まれます。
	センサ	測定の設定に必要なすべてのパラメータが含まれます。
	出力	<ul style="list-style-type: none"> ■ 電流出力の設定に必要なすべてのパラメータが含まれます。 ■ スイッチ出力の設定に必要なすべてのパラメータが含まれます (PFS)。
	通信	デジタル通信インターフェイスの設定に必要なすべてのパラメータが含まれます。
	診断	動作エラーの検出および分析に必要なすべてのパラメータが含まれます。

- 1) 操作ツール (例: FieldCare) を介して操作する場合、パラメータ「Language」は「設定 → 高度な設定 → 表示」に表示されます。
- 2) FDT/DTM システムを介して操作する場合のみ
- 3) 現場操作の場合にのみ使用可能
- 4) DeviceCare または FieldCare を介して操作する場合にのみ使用可能
- 5) 「エキスパート」メニューを入力する場合は、必ずアクセスコードが要求されます。ユーザー固有のアクセスコードが設定されていない場合は、「0000」を入力してください。

8.2.2 ユーザーの役割と関連するアクセス権

「オペレータ」と「メンテナンス」の2つのユーザーの役割は、機器固有のアクセスコードが設定されている場合、パラメータの書き込みアクセス権が異なります。これにより、現場表示器を介した機器設定の不正アクセスが保護されます。→ 56

パラメータのアクセス権

ユーザーの役割	読み込みアクセス権		書き込みアクセス権	
	アクセスコードなし (初期設定)	アクセスコードあり	アクセスコードなし (初期設定)	アクセスコードあり
オペレータ	✓	✓	✓	--
メンテナンス	✓	✓	✓	✓

不正なアクセスコードを入力した場合、ユーザーには「オペレータ」のアクセス権が付与されます。

i ユーザーが現在ログオンしているユーザーの役割は、**アクセスステータス表示** パラメータ（ディスプレイ操作）または**アクセスステータス ツール** パラメータ（ツール操作）で確認できます。

8.2.3 データアクセス - セキュリティ

アクセスコードによる書き込み保護

機器固有のアクセスコードを使用して、機器設定用パラメータを書き込み保護することが可能です。これにより、現場操作による値の変更ができなくなります。

現場表示器によるアクセスコードの設定

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。
3. **アクセスコードの確認** パラメータに同じコードを入力します。
↳ すべての書き込み保護パラメータの前に、 シンボルが表示されます。

操作ツール（例：FieldCare）によるアクセスコードの設定

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定
2. アクセスコードとして最大 4 桁の数値コードを設定します。
↳ 書込保護がオンになります。

常に変更可能なパラメータ

測定に影響を及ぼさない特定のパラメータは、書き込み保護から除外されます。アクセスコード設定にもかかわらず、これは、他のパラメータがロックされている場合も常に変更可能です。

ナビゲーション、編集画面で 10 分以上キーを押さなかった場合、機器は自動的に書き込み保護パラメータを再度ロックします。ナビゲーション、編集画面から測定値表示モードに戻すと、機器は自動的に書き込み保護パラメータを 60 秒後にロックします。

- i**
- アクセスコードを使用して書き込みアクセス権を有効にした場合は、無効にする場合も必ずアクセスコードが必要です → 57。
 - 各書き込み保護パラメータは、「機能説明書」に  シンボルで示されています。

アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器のパラメータの前に  シンボルが表示されている場合、そのパラメータは機器固有のアクセスコードで書き込み保護されています。そのときは、現場表示器を使用して値を変更することはできません → 図 56。

機器固有のアクセスコードを入力すると、現場操作による書き込みアクセス権のロックを無効にできます。

1.  を押すと、アクセスコードの入力プロンプトが表示されます。
2. アクセスコードを入力します。
 - ↳ パラメータの前の  シンボルが消えます。それまで書き込み保護されていたすべてのパラメータが再び使用可能になります。

アクセスコードによる書き込み保護の無効化

現場表示器を介して

1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定
2. **0000** を入力します。
3. **アクセスコードの確認** パラメータに、もう一度 **0000** を入力します。
 - ↳ 書き込み保護が無効になります。アクセスコードを入力しなくてもパラメータの変更が可能になります。

操作ツールを使用（例：FieldCare）

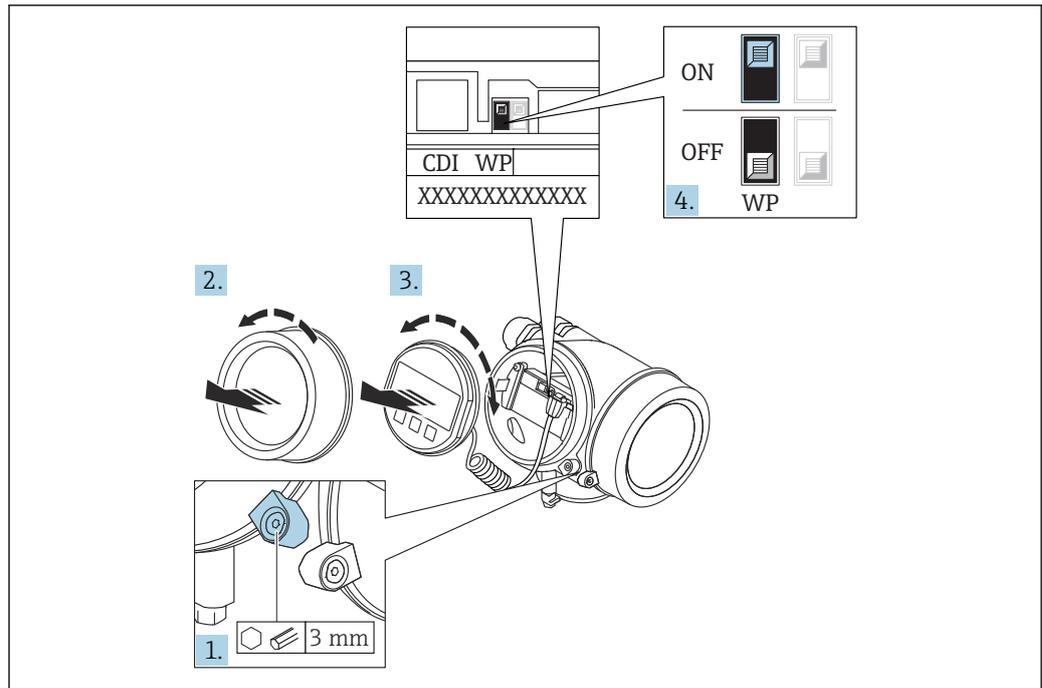
1. 次の項目に移動します。設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定
2. **0000** を入力します。
 - ↳ 書き込み保護が無効になります。アクセスコードを入力しなくてもパラメータの変更が可能になります。

書き込み保護スイッチによる書き込み保護

ユーザー固有のアクセスコードによるパラメータ書き込み保護とは異なり、これは、すべての操作メニュー（「表示のコントラスト」パラメータ用以外）の書き込みアクセス権をロックします。

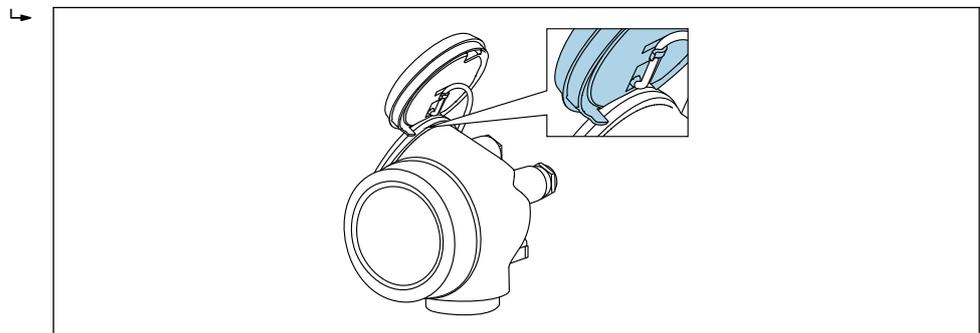
これにより、パラメータ値は読み取り専用となり、編集はできなくなります（「表示のコントラスト」パラメータ以外）。

- 現場表示器を介して
- サービスインターフェイス（CDI）経由
- HART プロトコル経由



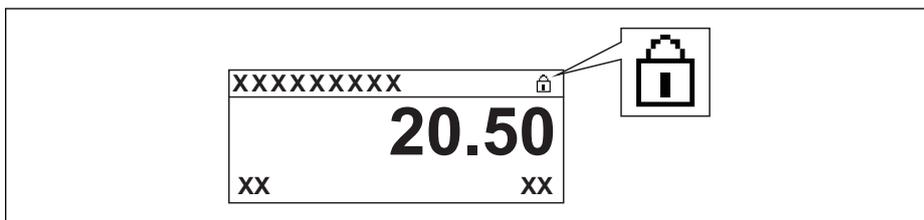
A0026157

1. 固定クランプを緩めます。
2. 表示部のカバーを外します。
3. 表示モジュールを慎重に回転させて引き抜きます。ロックスイッチにアクセスしやすくするため、表示モジュールを電子部コンパートメントの縁に差し込みます。



A0036086

4. メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ (WP) を **ON** 位置に設定すると、ハードウェア書き込み保護が有効になります。メイン電子モジュールの書き込み保護スイッチ (WP) を **OFF** 位置 (初期設定) に設定すると、ハードウェア書き込み保護が無効になります。
- ↳ ハードウェア書き込み保護が有効な場合：ハードウェア書き込みロック オプションが**ロック状態**パラメータに表示されます。さらに、現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に  シンボルが表示されます。



A0015870

ハードウェア書き込み保護が無効な場合：**ロック状態**パラメータには何も表示されません。現場表示器の操作画面表示のヘッダーとナビゲーション画面のパラメータの前に表示されていた  シンボルは消えます。

- 5.ハウジングとメイン電子モジュール間の隙間にケーブルを収納し、表示モジュールを必要な向きで電子部コンパートメントにかみ合うまで差し込みます。
6. 変換器を再度取り付ける場合は、取り外しと逆の手順を実施してください。

キーパッドロックの有効化/無効化

キーパッドロックを使用すると、現場操作によるすべての操作メニューへのアクセスを防ぐことができます。その結果、操作メニューのナビゲーションまたはパラメータの変更はできなくなります。操作画面表示の測定値を読み取ることだけが可能です。

キーパッドロックのオン/オフはコンテキストメニューで行います。

キーパッドロックのオン

SD03 表示部の場合のみ：

キーパッドロックが自動的にオンになります。

- 機器が表示部を介して1分以上操作されなかった場合
- 機器をリスタートした場合

キーロックを手動で有効化：

1. 測定値表示の画面を表示します。
⏏ を2秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで **キーロック オン** オプションを選択します。
↳ キーパッドロックがオンになっています。

 キーパッドロック有効時に操作メニューにアクセスしようとする時、**キーロック オン**メッセージが表示されます。

キーパッドロックのオフ

1. キーパッドロックがオンになっています。
⏏ を2秒以上押します。
↳ コンテキストメニューが表示されます。
2. コンテキストメニューで **キーロック オフ** オプションを選択します。
↳ キーパッドロックがオフになります。

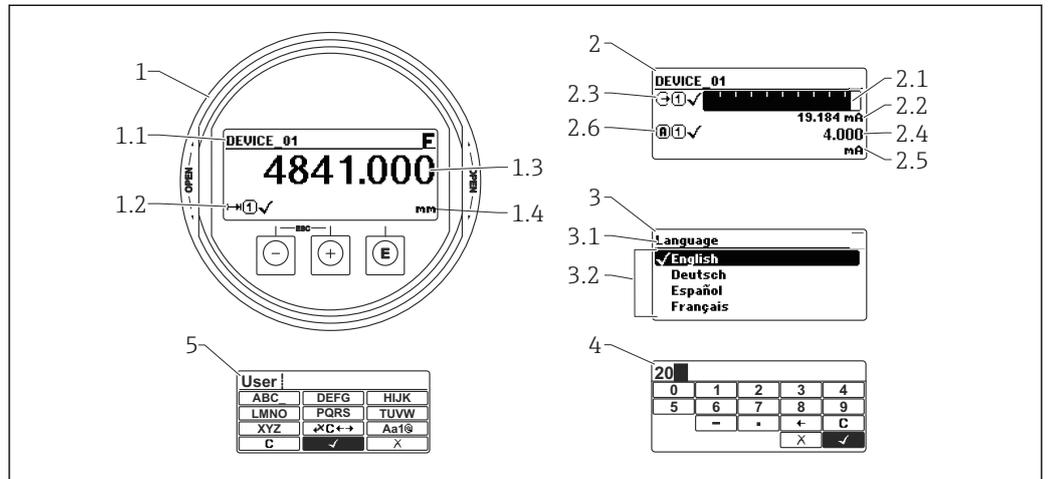
Bluetooth® ワイヤレス技術

Bluetooth® ワイヤレス技術を介した信号伝送では、フラウンホーファー研究所で試験された暗号技術が使用されます。

- SmartBlue アプリが搭載されていない場合、Bluetooth® ワイヤレス技術を介して機器を表示することはできません。
- **1台**のセンサと**1台**のスマートフォンまたはタブレット端末とのポイント・トゥー・ポイント接続のみが構築されます。

8.3 表示部および操作モジュール

8.3.1 表示



A0012635

図 26 現場操作用の表示部および操作モジュールの表示

- 1 測定値表示部 (1つの値、最大サイズ)
- 1.1 タグとエラーシンボル (エラーが出ている場合) を含むヘッダー
- 1.2 測定値シンボル
- 1.3 測定値
- 1.4 単位
- 2 測定値表示部 (1つの値 + バーグラフ)
- 2.1 測定値 1 のバーグラフ
- 2.2 測定値 1 (単位付き)
- 2.3 測定値 1 の測定値シンボル
- 2.4 測定値 2
- 2.5 測定値 2 の単位
- 2.6 測定値 2 の測定値シンボル
- 3 パラメータ表示 (この場合: 選択リスト付きのパラメータ)
- 3.1 パラメータ名とエラーシンボル (エラーが出ている場合) を含むヘッダー
- 3.2 選択リスト、☑は現在のパラメータ値を示します。
- 4 数字の入力マトリックス
- 5 英数字および特殊文字の入力マトリックス

サブメニューの表示シンボル

シンボル	意味
 A0018367	表示/操作 表示場所： ■ メインメニューの「表示/操作」選択項目の横 ■ 「表示/操作」メニュー内のヘッダー
 A0018364	設定 表示場所： ■ メインメニューの「設定」選択項目の横 ■ 「設定」メニュー内のヘッダー
 A0018365	エキスパート 表示場所： ■ メインメニューの「エキスパート」選択項目の横 ■ 「エキスパート」メニュー内のヘッダー
 A0018366	診断 表示場所： ■ メインメニューの「診断」選択項目の横 ■ 「診断」メニュー内のヘッダー

ステータス信号

F A0032902	「故障」 機器エラーが発生。測定値は無効。
C A0032903	「機能チェック」 機器はサービスモード（例：シミュレーション中）
S A0032904	「仕様範囲外」 機器は作動中： ■ 技術仕様の範囲外（例：スタートアップまたは洗浄中） ■ ユーザが行った設定の範囲外（例：レベルが設定スパンの範囲外）
M A0032905	「メンテナンスが必要」 メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

ロック状態の表示シンボル

シンボル	意味
 A0013148	表示パラメータ 編集できない、表示専用のパラメータを示します。
 A0013150	機器のロック ■ パラメータ名の前：機器はソフトウェアおよび/またはハードウェアでロックされています。 ■ 測定値画面のヘッダー：機器はソフトウェアでロックされています。

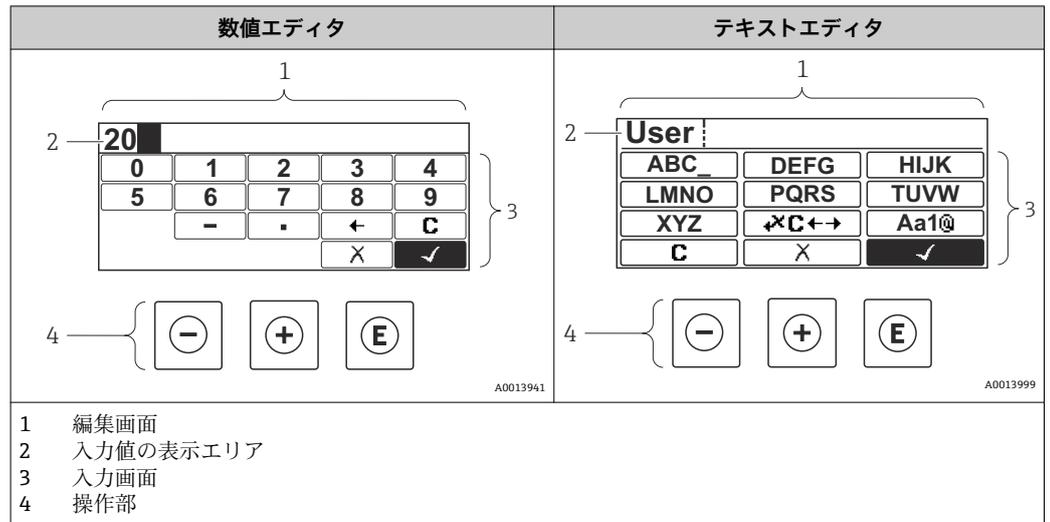
測定値シンボル

シンボル	意味
測定値	
 A0032892	レベル
 A0032893	距離
 A0032908	電流出力
 A0032894	測定された電流値
 A0032895	端子電圧
 A0032896	電子部またはセンサの温度
測定チャンネル	
 A0032897	測定チャンネル 1
 A0032898	測定チャンネル 2
測定値ステータス	
 A0018361	「アラーム」ステータス 測定が中断します。所定のアラーム値が出力されます。診断メッセージが生成されます。
 A0018360	「警告」ステータス 機器は測定を継続します。診断メッセージが生成されます。

8.3.2 操作部

キー	意味
 <small>A0018330</small>	<p>- キー</p> <p>メニュー、サブメニュー用 選択リスト内の選択バーを上方へ移動</p> <p>テキストおよび数値エディタ用 入力画面で、選択バーを左へ移動 (戻る)</p>
 <small>A0018329</small>	<p>+ キー</p> <p>メニュー、サブメニュー用 選択リスト内の選択バーを下方へ移動</p> <p>テキストおよび数値エディタ用 入力画面で、選択バーを右へ移動 (次へ)</p>
 <small>A0018328</small>	<p>Enter キー</p> <p>測定値表示用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押すと、操作メニューが開く ■ キーを2秒押すと、コンテキストメニューが開く <p>メニュー、サブメニュー用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> 選択したメニュー、サブメニュー、またはパラメータが開く ■ パラメータの位置でキーを2秒押した場合： <ul style="list-style-type: none"> パラメータ機能のヘルプテキストがある場合は、これが開く <p>テキストおよび数値エディタ用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> - 選択したグループが開く - 選択した動作を実行 ■ キーを2秒押すと、編集したパラメータ値を確定
 <small>A0032909</small>	<p>エスケープキーの組み合わせ (キーを同時に押す)</p> <p>メニュー、サブメニュー用</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ キーを短く押した場合： <ul style="list-style-type: none"> - 現在のメニューレベルを終了し、より高次のレベルに移動 - ヘルプテキストを開いている場合は、パラメータのヘルプテキストを閉じる ■ キーを2秒押すと、測定値表示に戻る (「ホーム画面」) <p>テキストおよび数値エディタ用 変更を確定せずに、テキストまたは数値エディタを閉じる</p>
 <small>A0032910</small>	<p>- / Enter キーの組み合わせ (キーを同時に長押し)</p> <p>コントラストを弱く (より明るい設定)</p>
 <small>A0032911</small>	<p>+ / Enter キーの組み合わせ (キーを同時に長押し)</p> <p>コントラストを強く (より暗い設定)</p>

8.3.3 数字とテキストの入力



入力画面

数値およびテキストエディタの入力画面では、次の入力シンボルが使用できます。

数値エディタのシンボル

シンボル	意味
	数値 0~9 の選択
	入力位置に桁区切り記号を挿入
	入力位置にマイナス符号を挿入
	選択の確定
	入力位置を 1 つ左へ移動
	変更を確定せずに、入力を終了
	入力文字をすべて消去

テキストエディタのシンボル

シンボル	意味
	文字 A~Z の選択
	切替え <ul style="list-style-type: none"> ■ 大文字 / 小文字 ■ 数値の入力 ■ 特殊文字の入力

 <small>A0013985</small>	選択の確定
 <small>A0013987</small>	修正ツールの選択に切替え
 <small>A0013986</small>	変更を確定せずに、入力を終了
 <small>A0014040</small>	入力文字をすべて消去

修正シンボル ( において)

シンボル	意味
 <small>A0032907</small>	入力文字をすべて消去
 <small>A0018324</small>	入力位置を 1 つ右へ移動
 <small>A0018326</small>	入力位置を 1 つ左へ移動
 <small>A0032906</small>	入力位置の左隣りの文字を削除

8.3.4 コンテキストメニューを開く

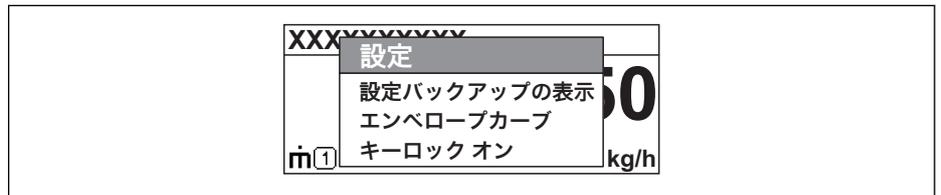
コンテキストメニューを使用すると、操作画面表示から簡単かつダイレクトに次のメニューを開くことができます。

- 設定
- 設定バックアップの表示
- 反射波形
- キーロックオン

コンテキストメニューの呼び出しと終了

操作画面表示にします。

1.  を 2 秒間押します。
 - ↳ コンテキストメニューが開きます。



A0033110-JA

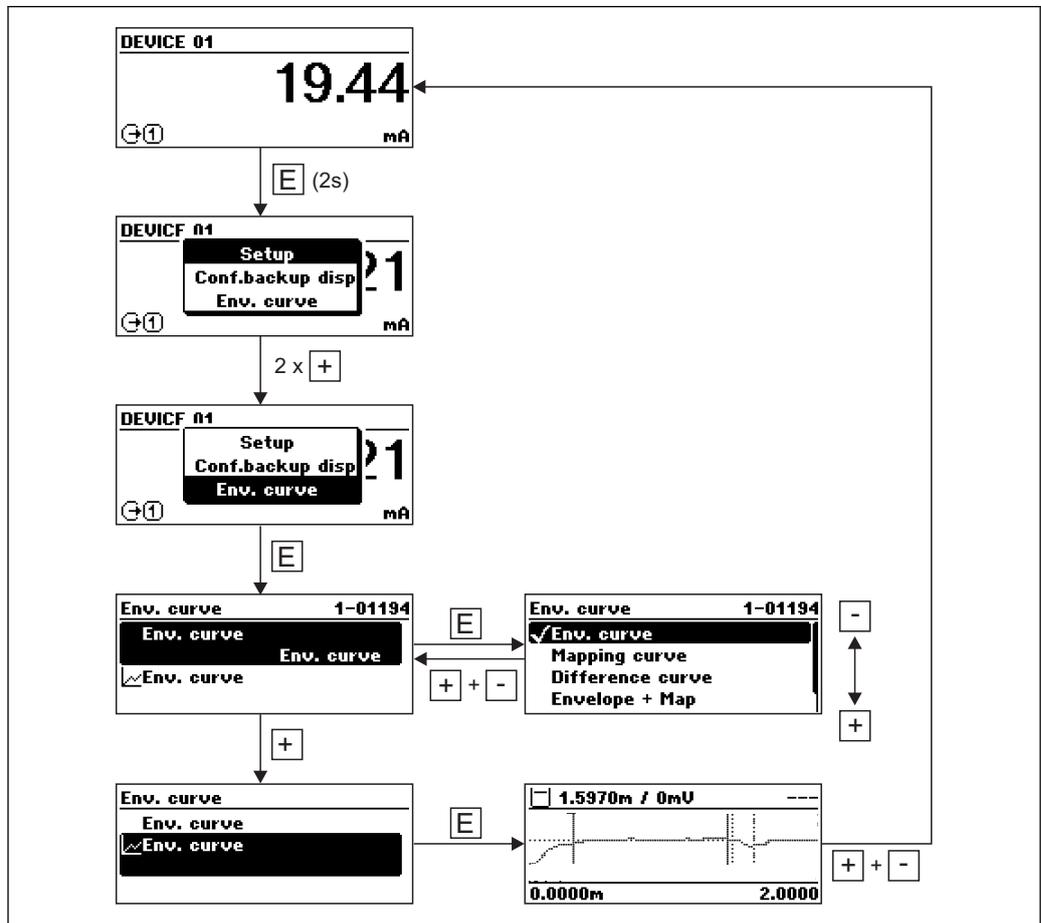
2.  +  を同時に押します。
 - ↳ コンテキストメニューが閉じて、操作画面が表示されます。

コンテキストメニューによるメニューの呼び出し

1. コンテキストメニューを開きます。
2.  を押して、必要なメニューに移動します。
3.  を押して、選択を確定します。
 - ↳ 選択したメニューが開きます。

8.3.5 表示部および操作モジュール上の反射波形

測定信号を評価するため、反射波形とマッピングカーブ (マッピングが記録されている場合) を表示することが可能です。



A0014277

9 HART プロトコルを介したシステムインテグレーション

9.1 DD ファイルの概要

HART

製造者 ID	0x11
デバイスタイプ	0x1122
HART 仕様	7.0
DD ファイル	ファイルの詳細については、以下を参照： <ul style="list-style-type: none"> ▪ www.endress.com ▪ www.fieldcommgroup.org

9.2 HART デバイス変数および測定値

出荷時に以下の測定値が HART 機器に割り当てられています。

レベル測定用のデバイス変数

デバイス変数	測定値
PV 値	リニアライゼーションされたレベル
SV 値	フィルタ処理なしの距離
TV 値	エコーの絶対振幅
QV 値	エコーの相対振幅

 デバイス変数への測定値の割当ては、以下のサブメニューで変更できます。
エキスパート → 通信 → 出力

10 SmartBlue (アプリ) 経由の設定

10.1 要件

機器の要件

SmartBlue 経由の設定は Bluetooth モジュールを搭載した機器のみ可能です。

SmartBlue のシステム要件

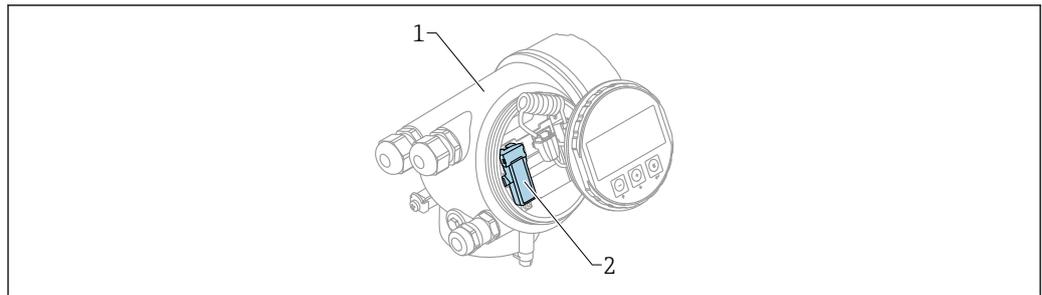
SmartBlue は Android 機器の場合は Google Play ストア、iOS 機器の場合は iTunes ストアからダウンロードできます。

- iOS 機器
 - iPhone 4S または iOS9.0 以降、iPad2 または iOS9.0 以降、iPod Touch 第 5 世代または iOS9.0 以降
- Android 搭載機器：
 - Android 4.4 KitKat 以降および Bluetooth® 4.0 以降

初期パスワード

Bluetooth モジュールの ID は、機器への最初の接続を確立するための初期パスワードとして使用できます。ID は以下に記載されています：

- 製品に添付された情報シート。このシリアル番号仕様シートは W@M にも保存されています。
- Bluetooth モジュールの銘板。



A0036790

図 27 Bluetooth モジュール搭載の機器

- 1 機器の電子回路部ハウジング
- 2 Bluetooth モジュールの銘板；この銘板の ID は初期パスワードとして使用できます。

i すべてのログインデータ (ユーザーが変更したパスワードを含む) は機器には保存されず、Bluetooth モジュールに保存されます。これは、モジュールを機器から取り外して別の機器に挿入するときに考慮する必要があります。

10.2 設定

SmartBlue をダウンロードしてインストールします。

1. アプリをダウンロードするには、QR コードをスキャンするか、検索フィールドに「SmartBlue」と入力します。



A0033202

図 28 ダウンロードリンク

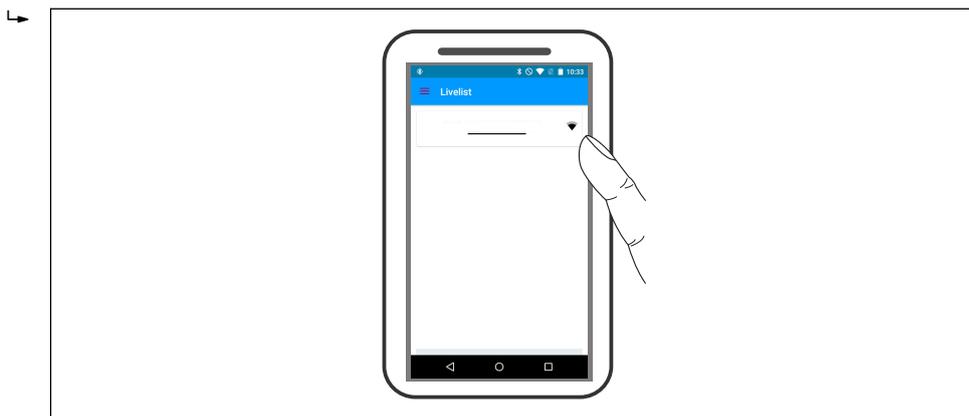
- SmartBlue を起動します。



A0029747

図 29 SmartBlue アイコン

- 表示された Livelist (使用可能な機器のみの表示) から機器を選択します。

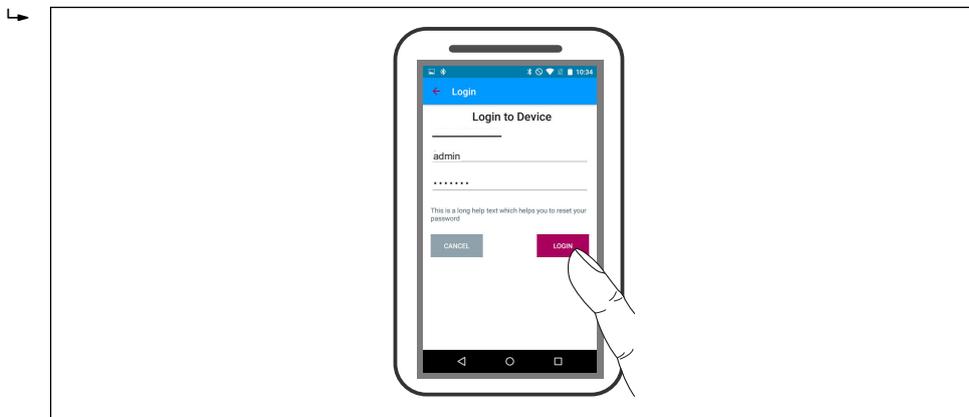


A0029502

図 30 Livelist

- i** 1台のセンサと1台のスマートフォンまたはタブレット端末とのポイント・トゥー・ポイント接続のみが構築されます。

- ログインします。

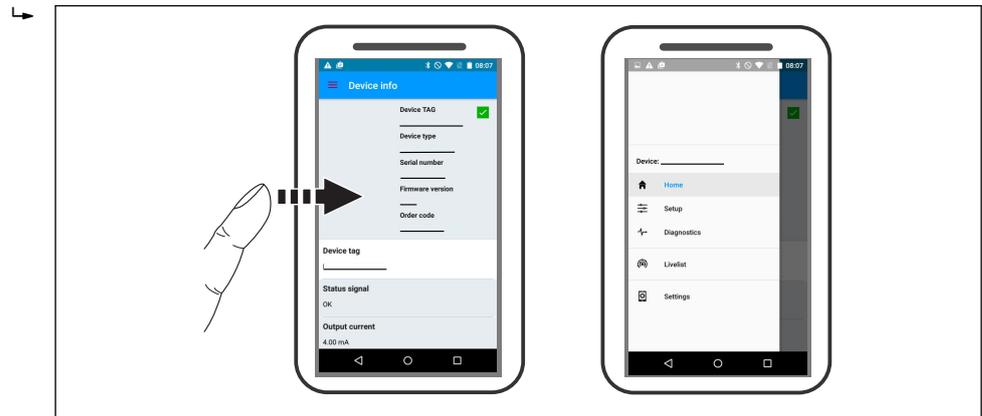


A0029503

図 31 ログイン

- ユーザー名 -> admin を入力します。
- 初期パスワード -> Bluetooth モジュールの ID を入力します。
- 初回のログイン後にパスワードを変更します。

8. 横からワイプすると、メインメニューなどの追加情報を画面内にドラッグできます。



A0029504

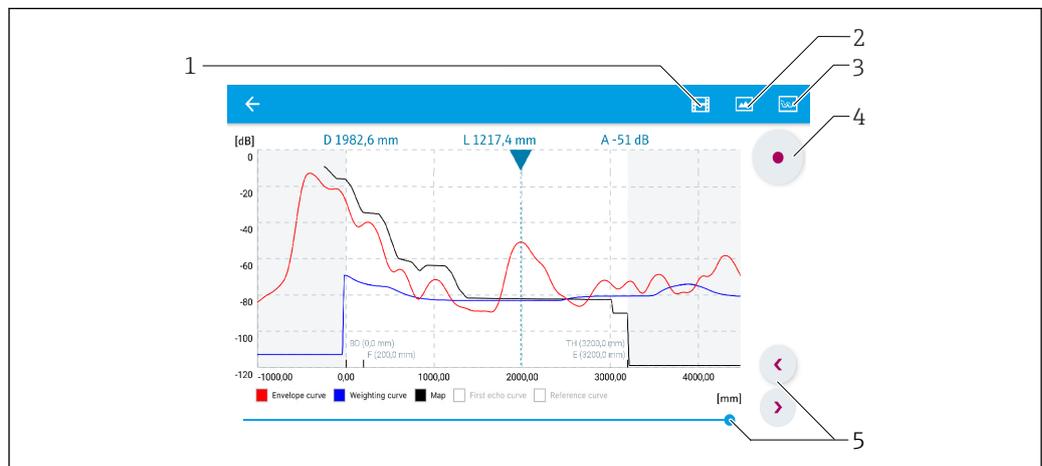
図 32 メインメニュー

i 反射波形の表示と記録が可能です。

反射波形以外にも、以下の値を表示できます。

- D = 距離
- L = レベル
- A = 絶対振幅
- スクリーンショットをとると、表示部分 (ズーム機能) が保存されます。
- ビデオシーケンスの場合は常に、ズーム機能なしで全面が保存されます。

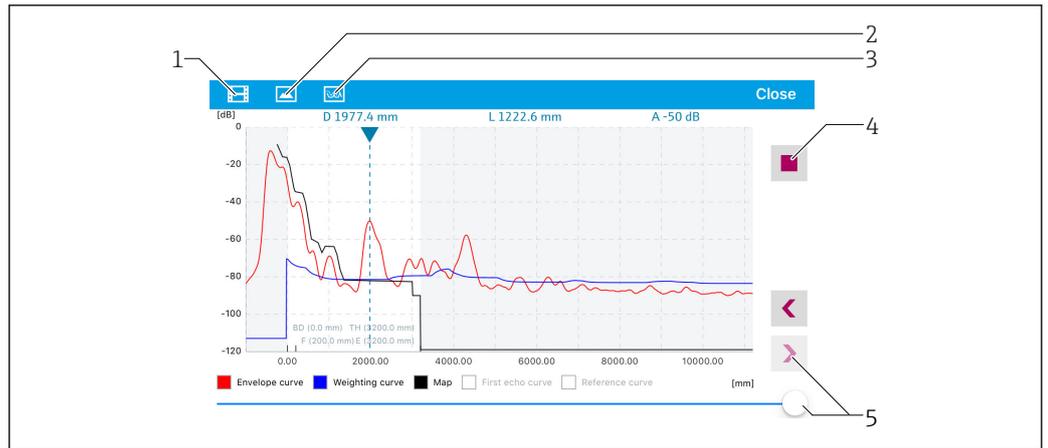
それぞれのスマートフォンやタブレット端末を使用して反射波形 (ビデオシーケンス) を送信することも可能です。



A0029486

図 33 SmartBlue での反射波形表示 (例) ; Android の表示

- 1 ビデオ記録
- 2 スクリーンショット作成
- 3 マッピングメニューに移動
- 4 ビデオ記録の開始/停止
- 5 時間軸上の時刻移動



A0029487

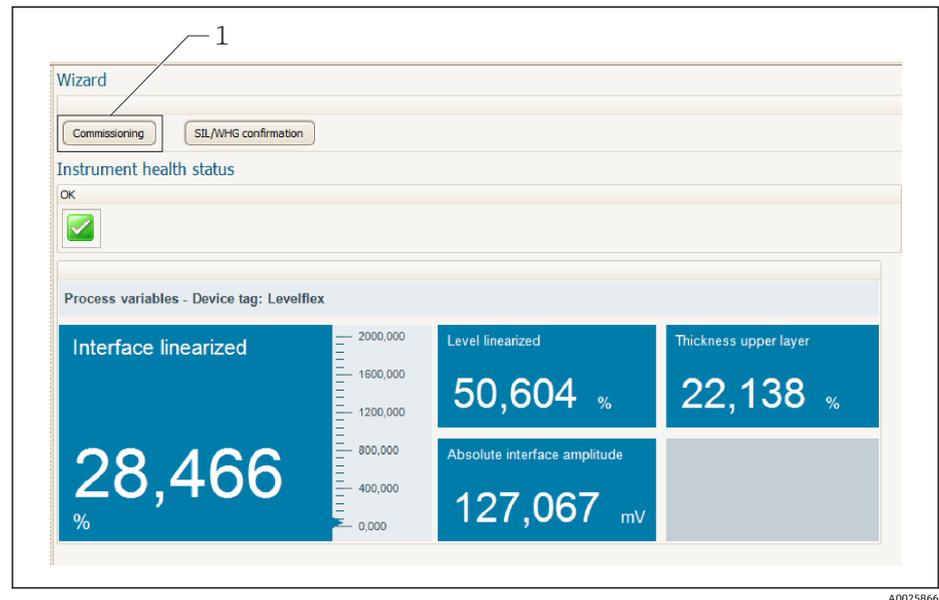
図 34 SmartBlue での反射波形表示 (例) ; iOS の表示

- 1 ビデオ記録
- 2 スクリーンショット作成
- 3 マッピングメニューに移動
- 4 ビデオ記録の開始/停止
- 5 時間軸上の時刻移動

11 ウィザードによる設定

初期設定をガイドするウィザードが FieldCare および DeviceCare には用意されています。²⁾

1. 機器を FieldCare または DeviceCare に接続します→ 54。
2. FieldCare または DeviceCare で機器を開きます。
↳ 機器のダッシュボード（ホームページ）が表示されます。



1 「設定」ボタンでウィザードを呼び出します。

3. 「設定」ボタンをクリックしてウィザードを呼び出します。
 4. 各パラメータの適切な値を入力または選択します。これらの値はすぐに機器に書きこまれます。
 5. 「次へ」をクリックして次のページへ移動します。
 6. 最後のページまで完了したら、「シーケンス終了」をクリックしてウィザードを閉じます。
- i** すべての必要なパラメータを設定する前にウィザードをキャンセルすると、機器は設定されていない状態になる可能性があります。この場合はデフォルト設定へのリセットを推奨します。

2) DeviceCare は www.software-products.endress.com からダウンロードできます。ダウンロードには、Endress+Hauser ソフトウェアポータルでの登録が必要です。

12 操作メニューを使用した設定

12.1 設置および機能の確認

測定点の操作を開始する前に、すべての最終チェックが完了しているか確認してください。

- チェックリスト「設置状況の確認」→ 36
- チェックリスト「配線状況の確認」→ 50

12.2 操作言語の設定

初期設定：英語または注文した地域の言語

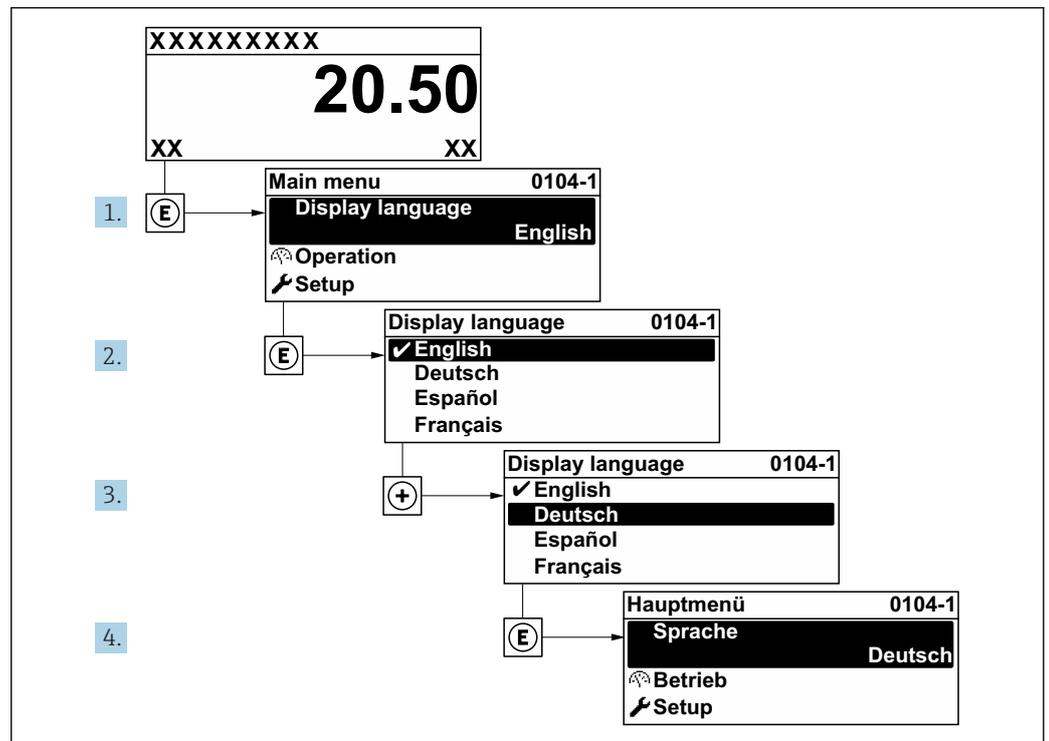
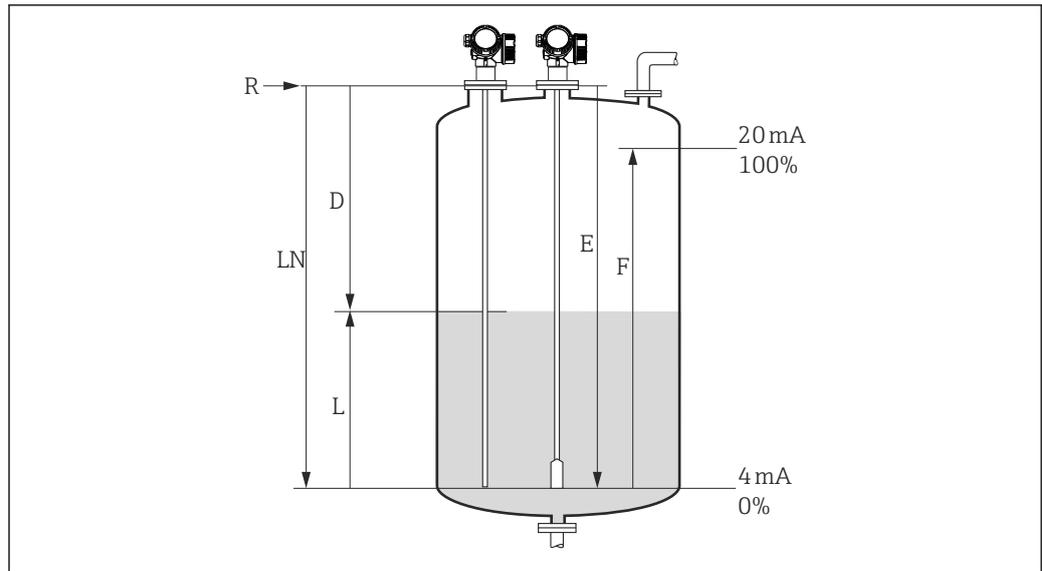


図 35 現場表示器の言語設定の例

A0029420

12.3 レベル測定の設定



A0011360

図 36 液体のレベル測定用パラメータの設定

LN	プローブ長
R	測定基準点
D	距離
L	レベル
E	空校正 (ゼロ点)
F	満量校正 (スパン)

i ローププローブの DC 値が 7 未満の場合、ウェイト付近での測定は不可能です。この場合、空校正 E の最大推奨値は $LN - 250 \text{ mm}$ ($LN - 10 \text{ in}$) です。

- 設定 → デバイスのタグ
↳ 機器のタグを入力します。
- 次の項目に移動します。設定 → 距離の単位
↳ 距離単位を選択します。
- 次の項目に移動します。設定 → タンクタイプ
↳ タンクタイプを選択します。
- タンクタイプ = 外筒管 :
次の項目に移動します。設定 → パイプ直径
↳ 外筒管または内筒管の直径を入力します。
- 次の項目に移動します。設定 → 測定物グループ
↳ 測定物グループ (**水ベース (DC >= 4)** または **その他**) を選択します。
- 次の項目に移動します。設定 → 空校正
↳ 測定基準点 R と最低レベル (0%) 間の距離 E を入力します。
- 次の項目に移動します。設定 → 満量校正
↳ 最低レベル (0%) と最高レベル (100%) 間の距離 F を入力します。
- 次の項目に移動します。設定 → レベル
↳ 測定レベル L を表示します。
- 次の項目に移動します。設定 → 距離
↳ 測定基準点 R とレベル L 間の距離 D を表示します。
- 次の項目に移動します。設定 → 信号品質
↳ レベルエコーの信号品質を表示します。

11. 現場表示器による操作：
次の項目に移動します。設定 → マッピング → 距離の確定
 - ↳ 必要に応じて、マッピングカーブの記録を開始するため、表示された距離と実際の距離を比較します。
12. 操作ツールによる操作：
次の項目に移動します。設定 → 距離の確定
 - ↳ 必要に応じて、マッピングカーブの記録を開始するため、表示された距離と実際の距離を比較します。

12.4 基準カーブの記録

測定の設定後に現在の反射波形を基準カーブとして記録することをお勧めします。診断のために後からプロセスで基準カーブを使用できます。基準カーブを記録するには、**基準カーブの保存** パラメータを使用します。

メニュー内のナビゲーション

エキスパート → 診断 → エンベロープ診断 → 基準カーブの保存

選択項目の説明

- いいえ
動作なし
 - はい
現在の反射波形が基準カーブとして保存されます。
- i** 納入された機器にソフトウェアバージョン **01.00.zz** または **01.01.zz** が搭載されている場合、このサブメニューはユーザーの役割が「サービス」のときにのみ表示されます。
- i** 基準カーブは、機器から FieldCare に基準カーブが読み込まれた後、FieldCare の反射波形図にのみ表示されます。これは、FieldCare の「基準カーブ読み込み」機能で実行されます。



図 37 「基準カーブ読み込み」機能

12.5 現場表示器の設定

12.5.1 レベル測定用の現場表示器の初期設定

パラメータ	電流出力が1つの機器の初期設定	電流出力が2つの機器の初期設定
表示形式	1つの値、最大サイズ	1つの値、最大サイズ
1の値表示	リニアライゼーションされたレベル	リニアライゼーションされたレベル
2の値表示	距離	距離
3の値表示	電流出力1	電流出力1
4の値表示	なし	電流出力2

12.5.2 現場表示器の調整

以下のメニューを使用して現場表示器を調整できます。
設定 → 高度な設定 → 表示

12.6 電流出力の設定

12.6.1 レベル測定用の電流出力の初期設定

電流出力	割り当てられた測定値	4mA の値	20mA の値
1	リニアライゼーションされたレベル	0% または対応するリニアライズされた値	100% または対応するリニアライズされた値
2 ¹⁾	エコーの相対振幅	0 mV	2 000 mV

1) 電流出力が 2 つある機器の場合

12.6.2 電流出力の調整

以下のサブメニューで電流出力を調整できます。

基本設定

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2

高度な設定

エキスパート → 出力 1~2 → 電流出力 1~2

機能説明書 (GP01000F) を参照

12.7 設定管理

設定が完了したら、現在の機器設定を保存して別の測定点にコピーするか、または前の機器設定に復元することが可能です。これを行うには、**設定管理** パラメータとそのオプションを使用します。

操作メニューのナビゲーションパス

設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 設定管理

選択項目の説明

■ キャンセル

何も実行せずにこのパラメータを終了します。

■ バックアップの実行

HistoROM（機器に内蔵）にある現在の機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールに保存します。バックアップコピーには機器の変換器とセンサのデータが含まれます。

■ 復元

機器設定のバックアップコピーを、表示モジュールから機器の HistoROM にコピーします。バックアップコピーには機器の変換器とセンサのデータが含まれます。

■ 複製

変換器の表示モジュールを使用して、変換器設定を別の機器に複製します。以下は個々の機器の特性を設定するパラメータであり、伝送される設定には**含まれません**。

- HART データコード
- HART ショートタグ
- HART メッセージ
- HART 記述子
- HART アドレス
- デバイスのタグ
- 測定物タイプ

■ 比較

表示モジュールに保存された機器設定と HistoROM の現在の機器設定とを比較します。この比較結果は、**比較の結果** パラメータパラメータに表示されます。

■ バックアップデータの削除

機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールから削除します。

 この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。

 **復元** オプションを使用して既存のバックアップを別の機器に復元した場合、同じ機器機能が使用できなくなる場合があります。場合によっては→ 図 182、機器をリセットしても元の状態に復元できないことがあります。

設定を別の機器に伝送する場合は、必ず**複製** オプションを使用してください。

12.8 不正な設定変更の防止

許可なく設定が変更されないよう、2つの防止対策があります。

- パラメータ設定を使用（ソフトウェアロック） → 56
- ロックスイッチを使用（ハードウェアロック） → 57

13 診断およびトラブルシューティング

13.1 一般トラブルシューティング

13.1.1 一般エラー

エラー	考えられる原因	対処法
機器が応答しない	電源電圧が銘板に明記された値と異なる	正しい電圧を接続する。
	電源電圧の極性が正しくない	極性を正す。
	ケーブルと端子の接触不良	ケーブルと端子の電氣的接続を確実にを行う。
ディスプレイの値が見えない	コントラスト設定が強すぎる/弱すぎる	<ul style="list-style-type: none"> ■ 田 と 国 を同時に押して、コントラストを上げる。 ■ 田 と 国 を同時に押して、コントラストを下げる。
	ディスプレイケーブルのプラグが正しく接続されていない	プラグを正しく接続する。
	ディスプレイの故障	ディスプレイを交換する。
機器を起動するか、またはディスプレイを接続すると、表示部に「通信エラー」が表示される	電磁干渉	機器の接地を確認する。
	ディスプレイのケーブルまたはプラグの破損	ディスプレイを交換する。
1 台の機器から別の機器にディスプレイ経由でパラメータを複製しても動作しない。「保存」および「中止」オプションのみが使用できる。	以前に機器でデータのバックアップが行われていない場合、バックアップが保存されたディスプレイとして認識されない。	ディスプレイ（バックアップが保存された）を接続して機器を再起動する。
出力電流 <3.6 mA	信号ケーブルの接続が正しくない	接続を確認する。
	電子部の故障	電子部を交換する。
HART 通信が機能しない	通信用抵抗がない、または正しく設置されていない	通信抵抗 (250 Ω) を正しく設置する。
	Commubox 接続が正しくない	Commubox を正しく接続する。
	Commubox が HART モードに切り替えられていない	Commubox の選択スイッチを HART 位置に設定する。
CDI 通信が作動しない	コンピュータの COM ポートの設定が正しくない	コンピュータの COM ポートの設定を確認し、必要に応じて変更する。
機器測定が正しくない	パラメータ設定エラー	パラメータ設定を確認する。
SmartBlue を介して機器にアクセスできない	Bluetooth 接続なし	スマートフォンまたはタブレット端末の Bluetooth 機能を有効にする。
	機器がすでに別のスマートフォン/タブレット端末にリンクされている	スマートフォン/タブレットから機器の接続を切る。
	Bluetooth モジュールが接続されていない	Bluetooth モジュールを接続する (SD02252F を参照)。
SmartBlue を介してログインできない	機器が初めて使用される	初期パスワード (Bluetooth モジュールの ID) を入力してログインしパスワードを変更する。

エラー	考えられる原因	対処法
SmartBlue を介して機器を操作できない	不正なパスワードが入力されている	正しいパスワードを入力する。
	パスワードを忘れた	Endress+Hauser サービス部門 (www.addresses.endress.com) にお問い合わせください。

13.1.2 エラー - SmartBlue 操作

エラー	考えられる原因	解決方法
ライブラリに機器が表示されない	Bluetooth 接続なし	スマートフォンまたはタブレット端末の Bluetooth® 機能を有効にする センサの Bluetooth® 機能が無効になっているので復帰シーケンスを実行する
ライブラリに機器が表示されない	機器がすでに別のスマートフォン/タブレット端末と接続されている	センサとスマートフォンまたはタブレット端末との 1つの ポイント・トゥー・ポイント接続のみが構築される
ライブラリに機器が表示されるが SmartBlue からアクセスできない	Android 機器	位置情報機能がアプリに対して有効になっているか？ 機能を初めて承認したか？ 特定の Android バージョンでは Bluetooth® と組み合わせると GPS または位置情報機能を有効にする必要がある GPS を有効化 - アプリを完全に終了して再起動 - アプリに対して位置情報機能が有効になっている
ライブラリに機器が表示されるが SmartBlue からアクセスできない	Apple 製機器	標準でログイン ユーザー名に「admin」を入力 初期パスワード (Bluetooth モジュールの ID) を大文字小文字を注意して入力する
SmartBlue を介してログインできない	機器が初めて使用される	初期パスワード (Bluetooth モジュールの ID) を入力してログインしパスワードを変更する：大文字小文字を注意して入力する
SmartBlue を介して機器を操作できない	不正なパスワードが入力されている	正しいパスワードを入力する。
SmartBlue を介して機器を操作できない	パスワードを忘れた	Endress+Hauser サービス部門 (www.addresses.endress.com) にお問い合わせください。

13.1.3 パラメータ設定エラー

レベル測定のパラメータ設定エラー

エラー	考えられる原因	対処法
測定値が正しくない	測定距離（設定 → 距離）が実際の距離と一致している場合： 校正エラー	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空校正 パラメータ (→ 131)を確認し、必要に応じて調整する。 ■ 満量校正 パラメータ (→ 131)を確認し、必要に応じて調整する。 ■ リニアライゼーションを確認し、必要に応じて調整する (リニアライゼーション サブメニュー (→ 146))。
	測定距離（設定 → 距離）が実際の距離と一致しない場合： 不要反射が測定に影響を及ぼしている	マッピングを実行する (距離の確定 パラメータ (→ 134))。
タンクの排出/充填時に測定値が変わらない	不要反射が測定に影響を及ぼしている	マッピングを実行する (距離の確定 パラメータ (→ 134))。
	プローブに付着物がある	プローブを清掃する。
	エコトラッキングでエラーが発生する	エコトラッキングを無効にする (エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = 履歴オフ)。
電源のスイッチオンの後に診断メッセージ エコロスト が表示される	エコしきい値が高すぎる	測定物グループ パラメータ (→ 130)を確認する。 必要に応じて、 測定物特性 パラメータ (→ 140)の詳細な設定を選択する。
	レベルエコーの抑制	マッピングを削除し、必要に応じて新しいマッピングカーブを記録する (マップ記録 パラメータ (→ 135))。
タンクが空なのに機器がレベルを表示する	プローブ長が正しくない	プローブ長補正を行う (プローブ長の確認 パラメータ (→ 161))。
	不要反射	タンクが空のときにプローブ全長にわたってマッピングを実施する (距離の確定 パラメータ (→ 134))。
測定範囲全体のレベル勾配が正しくない	異なるタンクタイプが選択されている	タンクタイプ パラメータ (→ 129)を正しく設定する。

13.2 現場表示器の診断情報

13.2.1 診断メッセージ

機器の自己診断システムで検出されたエラーが、測定値表示と交互に診断メッセージとして表示されます。

アラーム状態時の測定値表示	診断メッセージ
<p>XXXXXXX 20.50 X ⓘ XX</p>	<p>XXXXXXX ⚠ S801 供給電圧 ⓘ ⓘ ⓘ メニュー</p> <p>① ② ③ ④ ⑤</p>
<p>1 ステータス信号 2 ステータスシンボル (イベントレベルのシンボル) 3 ステータスシンボル、診断イベント付き 4 イベントテキスト 5 操作部</p>	

A0029426-JA

ステータス信号

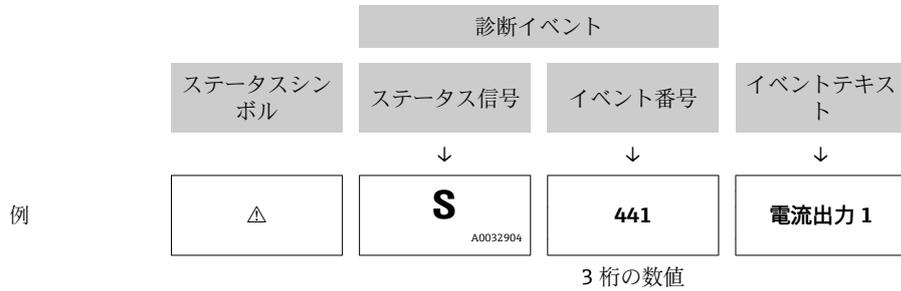
F A0032902	「故障 (F)」オプション 機器エラーが発生。測定値は無効。
C A0032903	「機能チェック (C)」オプション 機器はサービスモード (例：シミュレーション中)
S A0032904	「仕様範囲外 (S)」オプション 機器は作動中： ▪ 技術仕様の範囲外 (例：スタートアップまたは洗浄中) ▪ ユーザが行った設定の範囲外 (例：レベルが設定スパンの範囲外)
M A0032905	「メンテナンスが必要 (M)」オプション メンテナンスが必要。測定値は依然として有効。

ステータスシンボル (イベントレベルのシンボル)

⊗	「アラーム」ステータス 測定が中断します。信号出力が設定されたアラーム状態になります。診断メッセージが生成されます。
⚠	「警告」ステータス 機器は測定を継続します。診断メッセージが生成されます。

診断イベントおよびイベントテキスト

診断イベントを使用してエラーを特定することが可能です。イベントテキストにより、エラーに関する情報が提供されます。さらに、診断イベントの前に対応するシンボルが表示されます。



2つあるいはそれ以上の診断メッセージが同時に発生している場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージのみが表示されます。その他の未処理メッセージは**診断リスト**サブメニューに表示されます。

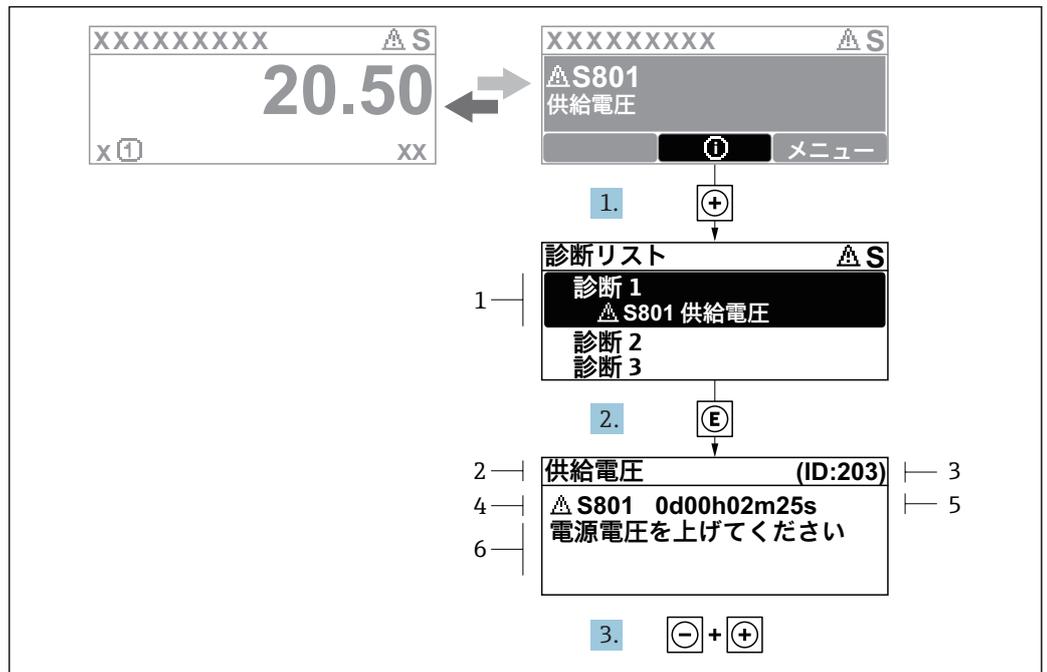
i 処理済みの過去の診断メッセージは、以下に表示されます。

- 現場表示器：
イベントログブック
- FieldCare：
「イベントリスト/HistoROM」機能

操作部

メニュー、サブメニューの操作機能	
+	+ キー 対処法に関するメッセージを開きます。
E	Enter キー 操作メニューを開きます。

13.2.2 対処法の呼び出し



A0029431-JA

図 38 対処法のメッセージ

- 1 診断情報
- 2 ショートテキスト
- 3 サービス ID
- 4 診断動作と診断コード
- 5 イベントの発生時間
- 6 対処法

診断メッセージを表示します。

1. **Ⓜ** を押します (Ⓜ シンボル)。
 - ↳ **診断リスト** サブメニューが開きます。
2. **Ⓜ** または **Ⓜ** を使用して必要な診断イベントを選択し、**Ⓜ** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
3. **Ⓜ** + **Ⓜ** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

診断 メニュー内の診断イベントの入力項目に移動します (例: **診断リスト** サブメニューまたは **前回の診断結果**)。

1. **Ⓜ** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. **Ⓜ** + **Ⓜ** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

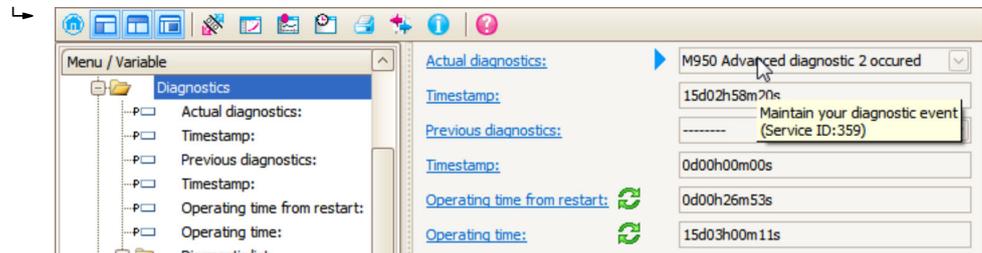
13.3 操作ツール上の診断イベント

機器で診断イベントが発生している場合は、操作ツールのステータス左上にステータス信号が、対応するイベントレベルのシンボルとともに表示されます (NAMUR NE 107 に準拠)。

- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)

A: 操作メニューから

1. **診断** メニューに移動します。
 - ↳ **現在の診断結果** パラメータには、診断イベントとイベントテキストが表示されます。
2. 表示範囲の右側にある**現在の診断結果** パラメータの上にカーソルを合わせます。



診断イベントに対する対処法のヒントが表示されます。

B: 「ドキュメントの作成」機能から

- 1.

「ドキュメントの作成」機能を選択します。

2.

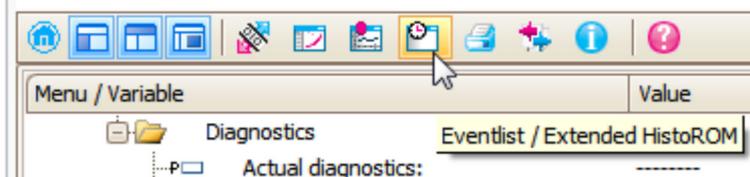
Documentation	Status
<input checked="" type="checkbox"/> Documentation	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Title Pages	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Cover Page	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Signatures Page	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Device parameters	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Linearization table	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Envelope curve	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Extended HistoROM	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Diagram data	Initialized
<input checked="" type="checkbox"/> Data overview	Initialized
<input type="checkbox"/> Compare Datasets	Not available

「データの概要」にチェックが入っていることを確認します。

3. 「名前をつけて保存 ...」をクリックしてプロトコルの PDF を保存します。
 - ↳ プロトコルには診断メッセージと対処法情報が含まれます。

C: 「イベントリスト/拡張 HistoROM」機能から

1.



「イベントリスト/拡張 HistoROM」機能を選択します。

2.



「イベントリストの読み込み」機能を選択します。

- ↳ 対処法情報を含むイベントリストが「データの概要」ウィンドウに表示されます。

13.4 診断リスト

診断リスト サブメニュー サブメニューでは、現在未処理の診断メッセージを最大 5 件表示できます。5 件以上のメッセージが未処理の場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示部に示されます。

ナビゲーションパス

診断 → 診断リスト

対処法の呼び出しと終了

1.

Ⓜ を押します。

- ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。

2.

Ⓜ + Ⓜ を同時に押します。

- ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

13.5 診断イベントのリスト

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
センサの診断				
003	プローブの破損が検出されました	1. マップをチェックして下さい。 2. センサをチェックして下さい。	F	Alarm
046	付着を検知しました	センサを清掃して下さい	F	Alarm
104	HF ケーブル	乾燥、シーリングのチェックして下さい。 1. HF ケーブル接続の 2. HF ケーブルの変更して下さい。	F	Alarm
105	HF ケーブル	1. HF ケーブルをしっかりと接続して下さい。 2. HF ケーブルの変更して下さい。	F	Alarm
106	センサ	1. センサを確認して下さい 2. HF ケーブルを確認して下さい 3. サービスに連絡して下さい	F	Alarm
電子部の診断				
242	ソフトウェアの互換性なし	1. ソフトウェアをチェックして下さい。 2. メイン電子モジュールのフラッシュまたは交換をして下さい。	F	Alarm
252	モジュールの互換性なし	1. 正しい電子モジュールが使われているか確認する 2. 電子モジュールを交換する	F	Alarm
261	電子モジュール	1. 機器を再起動して下さい。 2. 電子モジュールをチェックして下さい。 3. IO モジュールまたはメイン電子モジュールを交換してください。	F	Alarm
262	モジュール接続	1. モジュール接続をチェックして下さい。 2. 電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
270	メイン電子モジュール故障	メイン電子モジュールの変更	F	Alarm
271	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
272	メイン電子モジュール故障	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
273	メイン電子モジュール故障	1. 表示器での応急時操作。 2. メイン電子モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
275	I/O モジュール 故障	I/O モジュールの変更	F	Alarm
276	I/O モジュール 誤り	1. 機器を再起動して下さい。	F	Alarm
276	I/O モジュールの故障	2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
282	データストレージ	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
283	電子メモリ内容	1. データの転送または機器のリセットをして下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
311	電子モジュール故障	メンテナンスが必要です。1.リセットしないでください。 2.弊社サービスに連絡してください。	M	Warning
設定の診断				
410	データ転送	1. 接続をチェックして下さい。 2. データ転送を再試行して下さい。	F	Alarm

診断番号	ショートテキスト	修理	ステータス信号 [工場出荷時]	診断動作 [工場出荷時]
411	アップロード/ダウンロードが有効	アップロード/ダウンロードがアクティブです。おまちください。	C	Warning
412	ダウンロード中	ダウンロード中です。しばらくお待ち下さい。	C	Warning
431	トリム 1~2	調整の実行	C	Warning
435	リニアライゼーション	リニアライゼーションテーブルをチェックして下さい。	F	Alarm
437	設定の互換性なし	1. 機器を再起動して下さい。 2. 弊社サービスへ連絡して下さい。	F	Alarm
438	データセット	1. データセットファイルのチェック 2. 機器設定のチェック 3. 新規設定のアップロード/ダウンロード	M	Warning
441	電流出力 1~2	1. プロセスの状態をチェックして下さい。 2. 電流出力の設定をチェックして下さい。	S	Warning
484	エラーモードのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Alarm
485	シミュレーション測定値	シミュレータの無効化	C	Warning
491	電流出力 1~2 のシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
494	シミュレーションスイッチ出力	シミュレーションスイッチ出力を無効にする。	C	Warning
495	診断イベントのシミュレーション	シミュレータの無効化	C	Warning
585	シミュレーション距離	シミュレータの無効化	C	Warning
プロセスの診断				
801	エネルギーが低すぎる	供給電圧が低すぎます。電圧を上げてください。	S	Warning
803	電流ループ	1. 配線のチェックをして下さい。 2. IO モジュールを交換して下さい。	F	Alarm
825	稼働温度	1. 周囲温度をチェックして下さい。 2. プロセス温度をチェックして下さい。	S	Warning
825	稼働温度		F	Alarm
921	基準の変更	1. 基準構成のチェック 2. 圧力のチェック 3. センサのチェック	S	Warning
936	EMC 干渉	EMC 上のインストールのチェック	F	Alarm
941	エコロスト	1. パラメータ'DC 値'のチェックして下さい	F	Alarm ¹⁾
942	安全距離内	1. レベルをチェックして下さい 2. 安全距離のチェックして下さい	S	Alarm ¹⁾
943	不感知距離内	精度低下 レベルをチェックして下さい	S	Warning
944	レベル範囲	精度低下 レベルがプロセス接続部付近	S	Warning
950	高度な診断 1~2 が発生しました	診断イベントを維持する	M	Warning ¹⁾

1) 診断動作を変更できます。

13.6 イベントログ

13.6.1 イベント履歴

発生したイベントメッセージの一覧表が時系列で **イベントリスト** サブメニューに表示されます。³⁾の「イベントリスト/HistoROM」機能で表示できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → イベントリスト

最大 100 件のイベントメッセージを時系列に表示できます。

イベント履歴には以下の項目が含まれます。

- 診断イベント
- 情報イベント

各イベントの発生時間に加えて、そのイベントの発生または終了を示すシンボルが割り当てられます。

- 診断イベント
 - ⊕ : イベント発生
 - ⊖ : イベント終了
- 情報イベント
 - ⊕ : イベント発生

対処法の呼び出しと終了

1. **⊖** を押します。
 - ↳ 選択した診断イベントの対処法に関するメッセージが開きます。
2. **⊖ + ⊕** を同時に押します。
 - ↳ 対処法に関するメッセージが閉じます。

13.6.2 イベントログのフィルタリング

フィルタオプション パラメータを使用すると、**イベントリスト** サブメニューに表示するイベントメッセージのカテゴリを設定できます。

ナビゲーションパス

診断 → イベントログブック → フィルタオプション

フィルタカテゴリー

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報

13.6.3 情報イベントの概要

情報番号	情報名
I1000	----- (装置 OK)
I1089	電源オン
I1090	設定のリセット
I1091	設定変更済
I1092	HistoROM の削除

3) このサブメニューは現場表示器を介して操作する場合にのみ使用できます。FieldCare を介して操作する場合、イベントリストは FieldCare

情報番号	情報名
I1110	書き込み保護スイッチ変更
I1137	電子部が交換されました
I1151	履歴のリセット
I1154	最小/最大端子電圧のリセット
I1155	電子部内温度のリセット
I1156	メモリエラートレンド
I1157	メモリエラー イベントリスト
I1184	ディスプレイが接続されています
I1185	表示バックアップ完了
I1186	表示ディスプレイでの復元
I1187	表示ディスプレイでダウンロードされた設定
I1188	表示データクリア済
I1189	バックアップ比較完了
I1256	表示: アクセスステータス変更
I1264	安全機能が中断されました
I1335	ファームウェアの変更
I1397	フィールドバス: アクセスステータス変更
I1398	CDI: アクセスステータス変更
I1512	ダウンロードを開始しました
I1513	ダウンロード終了
I1514	アップロード開始
I1515	アップロード完了
I1554	セーフティ手順の開始
I1555	セーフティの手順が確認されました
I1556	セーフティモードオフ

13.7 ファームウェアの履歴

日付	ファームウェアのバージョン	変更	関連資料 (FMP53、HART)		
			取扱説明書	機能説明書	技術仕様書
2010年7月	01.00.zz	初期ソフトウェア	BA01002F/00/EN/05.10	GP01000F/00/EN/05.10	TI01002F/00/EN/05.10
2011年1月	01.01.zz	<ul style="list-style-type: none"> ▪ SIL 統合 ▪ 機能改良およびバグ修正 ▪ 言語の追加 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ BA01002F/00/EN/10.10 ▪ BA01002F/00/EN/13.11 ▪ BA01002F/00/EN/14.12 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ GP01000F/00/EN/10.10 ▪ GP01000F/00/EN/13.11 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ TI01002F/00/EN/10.10 ▪ TI01002F/00/EN/13.11 ▪ TI01002F/00/EN/14.12 ▪ TI01002F/00/EN/15.12
2014年2月	01.02.zz	<ul style="list-style-type: none"> ▪ SD03 のサポート ▪ 言語の追加 ▪ HistoROM 機能の拡張 ▪ 「高度な診断」機能ブロックの統合 ▪ 機能改良およびバグ修正 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ BA01002F/00/EN/15.13 ▪ BA01002F/00/EN/16.14 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ GP01000F/00/EN/14.13 ▪ GP01000F/00/EN/15.14 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ TI01002F/00/EN/16.13 ▪ TI01002F/00/EN/17.14
2016年4月	01.03.zz	<ul style="list-style-type: none"> ▪ HART 7 への更新 ▪ 17 の操作言語すべてが機器で使用可能 ▪ 機能改良およびバグ修正 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ BA01002F/00/EN/17.16 ▪ BA01002F/00/EN/18.16¹⁾ ▪ BA01002F/00/EN/20.18²⁾ 	GP01000F/00/EN/16.16	<ul style="list-style-type: none"> ▪ TI01002F/00/EN/18.16 ▪ TI01002F/00/EN/20.16¹⁾ ▪ TI01002F/00/EN/22.18²⁾

1) DeviceCare および FieldCare の DTM 最新バージョンで使用できる Heartbeat ウィザードの情報が含まれます。

2) Bluetooth インターフェイスの情報が含まれます。

 ファームウェアバージョンは、製品構成を使用して注文時に指定できます。これにより、既存のまたは計画中のシステム統合とファームウェアバージョンの互換性を確保することが可能です。

14 メンテナンス

本機器には、特別な保守は必要ありません。

14.1 外部洗浄

機器の外部洗浄を行なう場合は、必ずハウジングとシールの表面に傷をつけない洗浄剤を使用してください。

14.2 プロブの洗浄

14.2.1 タンク内のプロブの洗浄

機器が適切な位置に取り付けられている場合、プロブはスプレーボール → 図 26 を使用してタンク内で洗浄できます。

14.2.2 タンク外のプローブの洗浄

プローブは分解できるため、十分に洗浄することが可能です。

分解には以下の工具が必要です。

- 万力と繊維製支持具（研磨されたロッドプローブの表面保護のため）
- フックレンチ ϕ 54 mm (21 in)
- スパナ AF27 / AF32（最大 20 Nm のトルク調整機構付き）

警告！

- 分解する前に、機器の電源電圧がオフになっていることを確認してください。
- 溝付ナット (1) を外す際には、スパナでプロセス接続リング (5) を確実に保持してください。そうしないと、アダプタ (3) がフランジから脱落する可能性があります。

電子部ハウジングの取外し

- 溝付ナットをフックレンチで緩めます。
- 緩めたハウジング (2) をハウジングアダプタと一緒に、プロセス接続部のアダプタ (3) から外します。ハウジングアダプタはハウジングと接続されたままです。分離型の場合：ケーブルアダプタのみを外します。
- 必要に応じて、Oリング (7) を交換します。
オーダーコード：デバイスビューワー → 100 を参照してください。

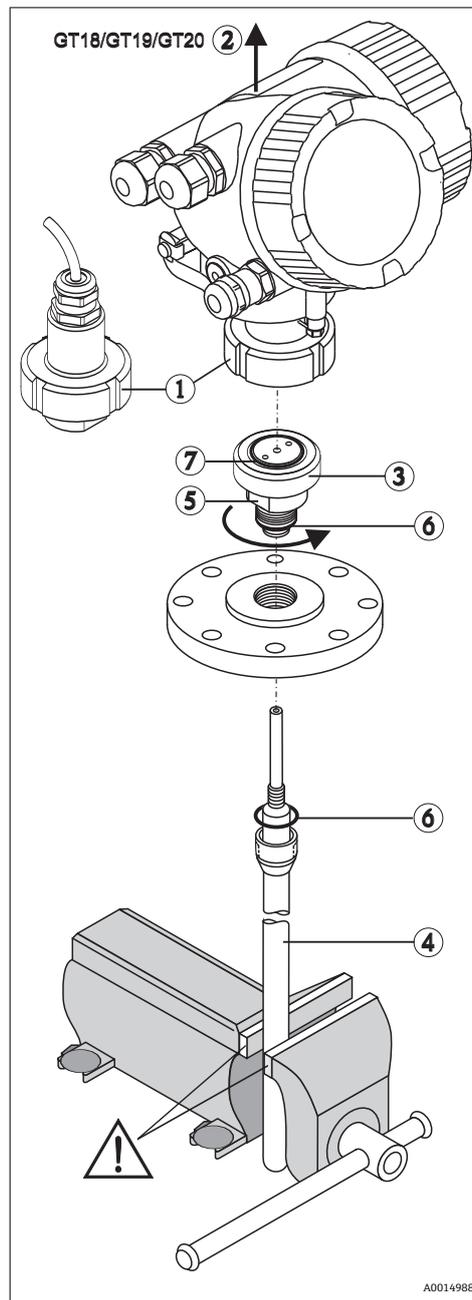
ロッドプローブの分解

- プロセス接続部（例：フランジ）からアダプタ (3) を外します。それには、フックレンチ (AF27) を使用してレンチ平面でアダプタを外し、ロッドプローブ（長さ最大 4 m）と一緒にタンクから引き抜きます。
- ロッドプローブ (4) をレンチ平面で締め付けるか、取り付けプライヤーを使用します。
警告： 研磨されているロッドプローブの表面は保護してください。引っかき傷またはへこみ傷で表面が損傷しないようにしてください。
- ロッドプローブからアダプタ (3) を緩めて（反時計方向に約 12 回転）、取り外します（プラグ接続）。ロッドプローブは 4.5 Nm で絶縁プッシングにねじ込まれています。
- これで、ロッドプローブとアダプタの Oリング (6) を自由に扱えるようになるため、必要に応じて、交換できます。ロッドプローブは洗浄できます（オートクレープ処理）。
Oリングのオーダーコード：デバイスビューワー → 100 を参照してください。

プローブの組み立て

組み立ては逆の手順で行います。

- アダプタ (3) を 4.5 Nm でロッドプローブ (4) に締め付けます。
- アダプタをロッドプローブと一緒に 20 Nm で容器プロセス接続に締め付けます。
- ハウジングアダプタ付きのハウジング (2) をアダプタに取り付け、溝付ナット (1) を使用してトルク 20 Nm でボルト締めします。



15 修理

15.1 修理に関する一般情報

15.1.1 修理コンセプト

エンドレスハウザーの修理コンセプトでは、機器にモジュール式设计を採用することにより、弊社のサービス部門または専門トレーニングを受けたユーザが修理を実施できるようになっています。

スペアパーツは適切なキットに含まれています。キットには関連する交換説明書が同梱されています。

サービスおよびスペアパーツに関する詳細については、弊社のサービス部門にお問い合わせください。

15.1.2 防爆認定機器の修理

防爆認定機器を修理する場合は、以下の点に注意してください。

- 防爆認定機器の修理は、トレーニングを受けた作業員または弊社サービス部門のみが実施できます。
- 一般的な規格、各国の防爆区域規則、安全注意事項 (XA)、証明書に従ってください。
- 弊社純正スペアパーツのみを使用してください。
- スペアパーツを注文する場合は、銘板に示されている機器名称を明記してください。部品は、同じ部品としか交換できません。
- 取扱説明書に従って修理してください。修理が完了したら、機器の所定のルーチン試験を実施してください。
- 弊社サービス部門においてのみ、認証取得機器を別の認証バージョンに変更することが可能です。
- 修理および改造作業はすべて記録しておいてください。

15.1.3 電子モジュールの交換

校正パラメータがハウジング内にある HistoROM に保存されているため、電子モジュールの交換後、新しい基本設定を実施する必要はありません。ただし、メイン電子モジュールを交換した場合は、新しいマッピング (不要反射の除去) の記録が必要になる場合があります。

15.1.4 機器の交換

機器一式または電子モジュールを交換した後、以下のいずれかの方法により、機器内に再度パラメータをダウンロードできます。

- 表示モジュール経由
条件：古い機器の設定が表示モジュールに保存されていること → 179。
- FieldCare 経由
条件：古い機器の設定が FieldCare 経由でコンピュータに保存されていること。

新たな設定を行わずに、測定を継続することが可能です。リニアライゼーションとタンクマッピング (不要反射の除去) だけは、新たに記録する必要があります。

15.2 スペアパーツ

- 互換性のある機器コンポーネントの一部は、スペアパーツ型式銘板で確認できます。これには、スペアパーツに関する情報が含まれます。
- 機器の端子部カバーに、以下の情報が記載されたスペアパーツ型式銘板が付いています。
 - 機器の主要なスペアパーツのリスト（スペアパーツの注文情報を含む）
 - W@M デバイスビューワーの URL (www.endress.com/deviceviewer) :
機器のスペアパーツがすべて（オーダーコードを含め）リストされており、注文することが可能です。付随する取付指示が用意されている場合は、それもダウンロードできます。

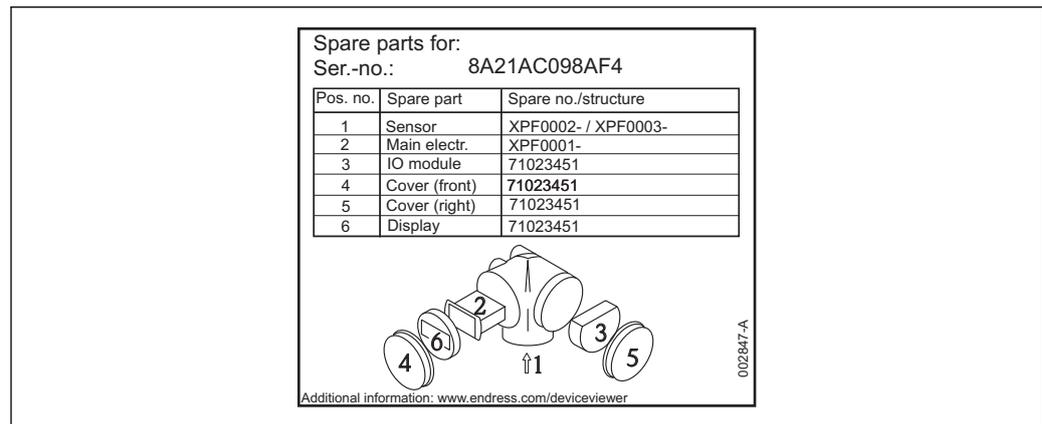


図 39 端子部カバーのスペアパーツ型式銘板の例

i 機器シリアル番号：

- 機器のスペアパーツ型式銘板に記載されています。
- 「機器情報」サブメニューの「シリアル番号」から読み取ることができます。

15.3 返却

機器の修理または工場校正が必要な場合、あるいは、誤った機器が納入または注文された場合は、本機器を返却する必要があります。測定物と接触した製品が返却された場合、ISO 認証企業であるエンドレスハウザーは、法的規制に従って特定の手順でこれを取り扱わなければなりません。

迅速、安全、適切な機器返却を保証するため、弊社ウェブサイト

<http://www.endress.com/support/return-material> に記載されている返却の手順および条件をご覧ください。

15.4 廃棄

廃棄する際には、以下の点に注意してください。

- 適用される各地域/各国の規定を遵守してください。
- 機器コンポーネントを適切に分別および再利用してください。

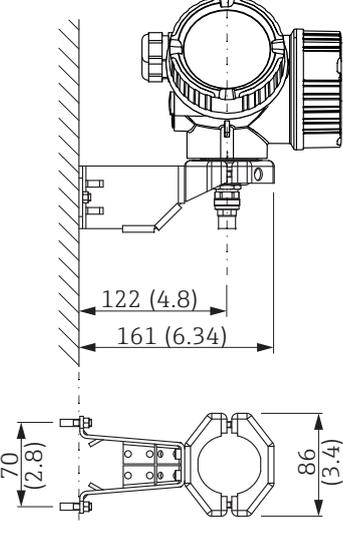
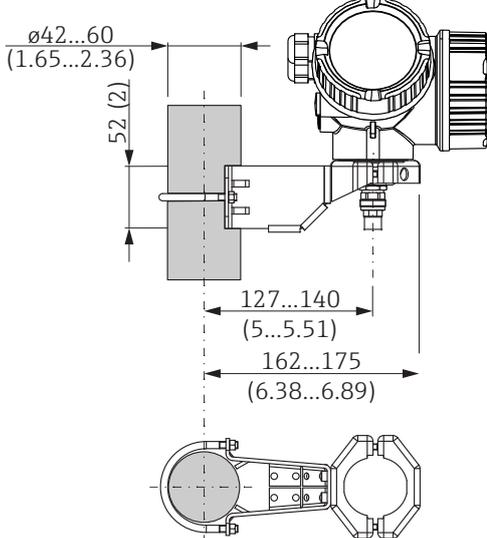
16 アクセサリ

16.1 機器関連のアクセサリ

16.1.1 日除けカバー

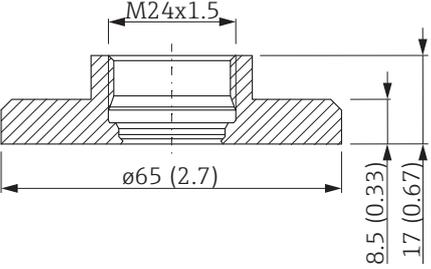
アクセサリ	説明
日除けカバー	<p data-bbox="1476 862 1528 878">A0015466</p> <p data-bbox="1476 1272 1528 1288">A0015472</p> <p data-bbox="416 1301 794 1328">☑ 40 日除けカバー、寸法：mm (in)</p> <p data-bbox="416 1357 1525 1433"> i 日除けカバーは機器と一緒に注文できます（製品構成、仕様コード 620「同梱アクセサリ」、オプション PB「日除けカバー」）。 または、アクセサリとして別途注文することも可能です（オーダーコード 71162242）。 </p>

16.1.2 電子部ハウジングの取付ブラケット

アクセサリ	説明
電子部ハウジングの取付ブラケット	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>A</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>B</p>  </div> </div> <p>☑ 41 電子部ハウジングの取付ブラケット : 寸法 : mm (in)</p> <p>A 壁取付け B パイプ取付け</p> <p>📘 「分離型センサ」機器バージョン（製品構成の仕様コード 060）の場合、取付ブラケットは納入品に含まれません。必要に応じて、アクセサリとして注文することも可能です（オーダーコード 71102216）。</p>

A0014793

16.1.3 溶接アダプタ

アクセサリ	説明
溶接アダプタ M24 D65	 <p>フラッシュマウントセンサ用の M24x1.5 ネジ付き。 材質：1.4435 (SUS 316L 相当) 質量：0.22 kg (0.48 lbs)</p> <p>オーダー番号</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 標準仕様：71041381 ■ 3.1 材料証明付き：71041383 <p>詳細については、取扱説明書 BA361F を参照してください。</p>

A0012776

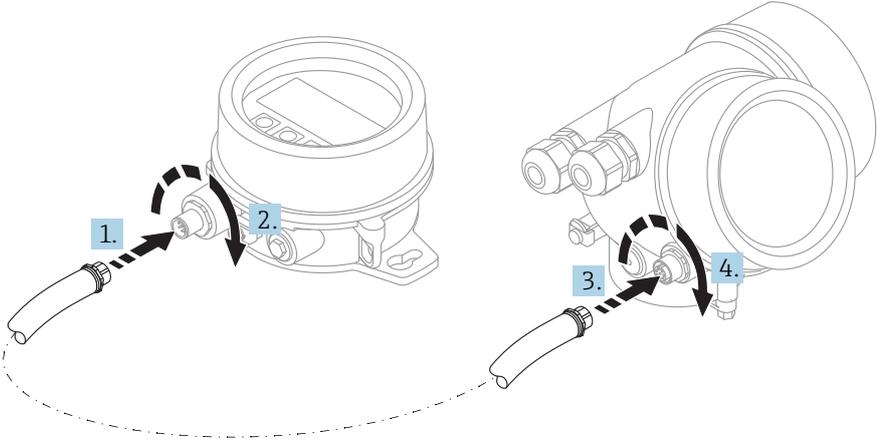
16.1.4 保護カバー

アクセサリ	説明
保護カバー	<div data-bbox="767 322 975 465" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1474 477 1525 488" data-label="Text">A0013589</div> <p data-bbox="767 517 1517 589">保護カバーを使用して、電子部を取り外した場合にプローブをロックできます。 オーダー番号：71041379 詳細については、取扱説明書 BA362F を参照してください。</p>

16.1.5 校正キット

アクセサリ	説明
校正キット	<p data-bbox="767 775 1517 873">校正キットは、Levelflex FMP53 レベル計の精度と再現性を定期的にテストするために使用します。 オーダー番号：71041382 詳細については、取扱説明書 SD01003F を参照してください。</p>

16.1.6 リモート表示部 FHX50

アクセサリ	説明
リモート表示部 FHX50	<div style="text-align: center;">  </div> <p style="text-align: right; font-size: small;">A0019128</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 材質： <ul style="list-style-type: none"> - プラスチック PBT - SUS 316L 相当/1.4404 - アルミニウム ■ 保護等級：IP68 / NEMA 6P および IP66 / NEMA 4x ■ 表示モジュールに適合： <ul style="list-style-type: none"> - SD02 (プッシュボタン) - SD03 (タッチコントロール) ■ 接続ケーブル： <ul style="list-style-type: none"> - 機器と一緒に納入されるケーブル、最大 30 m (98 ft) - ユーザー側で用意する標準ケーブル、最大 60 m (196 ft) ■ 周囲温度範囲：-40～80℃ (-40～176°F) ■ 周囲温度範囲 (オプション)：-50～80℃ (-58～176°F)¹⁾ <p> i ■ リモート表示部を使用する場合は、機器バージョン「表示部 FHX50 用」(仕様コード 030、バージョン L、M または N) を注文してください。FHX50 の場合は、仕様コード 050「機器バージョン」でオプション A「表示部 FHX50 用」を選択する必要があります。 </p> <p> i ■ 機器バージョン「表示部 FHX50 用」を最初に注文せずに、FHX50 表示部を後付けする場合は、FHX50 の注文時に仕様コード 050「機器バージョン」でバージョン B「表示部 FHX50 用ではない」を選択しなければなりません。この場合、機器の改造キットが FHX50 と一緒に納入されます。このキットにより、FHX50 が使用できるように機器を準備することが可能です。 </p> <p> i 認定を取得した変換器の場合、FHX50 の使用が制限される場合があります。機器に FHX50 を後付けできるのは、機器の安全上の注意事項 (XA) の基本仕様、項目 4「表示部/操作部」でオプション L、M または N (「FHX50 用」) がリストに記載されている場合だけです。FHX50 の安全上の注意事項 (XA) についても注意してください。 </p> <p> i 以下の変換器には後付けできません。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 可燃性粉塵のある領域で使用するための認定機器 (粉塵防爆認定) ■ Ex nA 保護タイプ </p> <p> i 詳細については、資料 SD01007F を参照してください。 </p>

1) この範囲は、注文仕様コード 580「試験、証明」でオプション JN「周囲温度変換器 -50℃ (-58°F)」を選択した場合に有効となります。温度が恒久的に -40℃ (-40°F) 以下になる場合、故障率が高まる可能性があります。

16.1.7 過電圧保護

アクセサリ	説明
2 線式機器用の過電圧保護 OVP10 (1 チャンネル) OVP20 (2 チャンネル)	<div data-bbox="416 327 804 658" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1474 667 1528 680" data-label="Text">A0021734</div> <p data-bbox="416 707 523 734">技術データ</p> <ul data-bbox="416 736 1062 896" style="list-style-type: none"> ■ 1 チャンネル当たりの抵抗 : $2 * 0.5 \Omega_{\max}$ ■ DC 電圧しきい値 : 400~700 V ■ インパルス電圧しきい値 : < 800 V ■ 1 MHz の静電容量 : < 1.5 pF ■ インパルス電圧の公称放電電流 (8/20 μs) : 10 kA ■ 次のケーブル断面積に適している : 0.2~2.5 mm² (24~14 AWG) <p data-bbox="416 907 643 934">機器と一緒に注文</p> <p data-bbox="469 934 1524 1010">過電圧保護モジュールは、機器と一緒に注文することをお勧めします。製品構成、仕様コード 610「取り付け済みアクセサリ」、オプション NA「過電圧保護」を参照してください。モジュールの別途注文が必要になるのは、機器に過電圧保護を後付けする場合だけです。</p> <p data-bbox="416 1023 727 1050">後付け用のオーダーコード</p> <ul data-bbox="469 1050 1219 1153" style="list-style-type: none"> ■ 1 チャンネル機器 (仕様コード 020、オプション A) の場合 OVP10 : 71128617 ■ 2 チャンネル機器 (仕様コード 020、オプション B、C、E または G) の場合 OVP20 : 71128619 <p data-bbox="469 1167 748 1193">後付け用のハウジングカバー</p> <p data-bbox="469 1193 1524 1245">機器に過電圧保護を後付けした場合、必要な安全距離を保つには、ハウジングカバーを交換する必要があります。ハウジングタイプに応じて、適切なカバーのオーダーコードは次の通りです。</p> <ul data-bbox="469 1245 847 1326" style="list-style-type: none"> ■ GT18 ハウジング : カバー 71185516 ■ GT19 ハウジング : カバー 71185518 ■ GT20 ハウジング : カバー 71185516 <p data-bbox="416 1339 707 1366">後付けに関する制限事項</p> <p data-bbox="469 1366 1524 1442">変換器の認定に応じて、OVP モジュールの使用が制限される場合があります。機器に OVP モジュールを後付けできるのは、その機器に関する安全上の注意事項 (XA) のオプション仕様の下にオプション NA (過電圧保護) が引用されている場合だけです。</p> <p data-bbox="416 1456 948 1482">詳細については、SD01090F を参照してください。</p>

16.1.8 HART 機器用の Bluetooth モジュール

アクセサリ	説明
Bluetooth モジュール	<div data-bbox="327 324 973 772" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1380 779 1436 795" data-label="Text">A0036493</div> <ul style="list-style-type: none"> ■ SmartBlue (アプリ) 経由で迅速かつ容易に機器設定が可能 ■ 追加のツールまたはアダプタは不要 ■ SmartBlue (アプリ) 経由の信号カーブ ■ 暗号化されたシングル・ポイントツーポイント・データ伝送 (Fraunhofer institue による試験済み) および Bluetooth® ワイヤレス技術を介した、パスワード保護された通信 ■ 基準条件下の範囲 : > 10 m (33 ft) <p> Bluetooth モジュールをを使用している場合は、最小供給電圧が最大 3 V 上昇します。.</p> <p> 機器と一緒に注文 Bluetooth モジュールは、機器と一緒に注文することをお勧めします。製品構成の仕様コード 610「取付け済みアクセサリ」、オプション NF「Bluetooth」を参照してください。改造の必要がある場合のみ別注してください。</p> <p> 後付け用のオーダーコード Bluetooth モジュール (BT10) : 71377355</p> <p> 改造における制約事項 変換器の認定に応じて、Bluetooth モジュールの使用が制限される場合があります。関連する安全上の注意事項 (XA) のオプション仕様にオプション NF (Bluetooth) が記載されている機器のみ Bluetooth モジュールを組み込むことができます。</p> <p> 詳細については、SD02252F を参照してください。</p>

16.2 通信関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
Commubox FXA195 HART	USB インターフェイスによる FieldCare との本質安全 HART 通信用。  詳細については、技術仕様書 TI00404F を参照してください。

アクセサリ	説明
Commubox FXA291	CDI インターフェイス (= Endress+Hauser Common Data Interface) 付きの Endress+Hauser 製フィールド機器とコンピュータの USB インターフェイスを接続します。 オーダーコード : 51516983  詳細については、技術仕様書 TI00405C を参照してください。

アクセサリ	説明
HART ループコンバータ HMX50	動的 HART 変数を演算し、これをアナログ電流値またはリミット値に変換します。 オーダーコード : 71063562  詳細については、技術仕様書 (TI00429F) および取扱説明書 (BA00371F) を参照してください。

アクセサリ	説明
WirelessHART アダプタ SWA70	フィールド機器を WirelessHART ネットワークに接続します。 WirelessHART アダプタは、直接 HART 機器に取り付けることが可能であり、既存の HART ネットワークに簡単に統合できます。これにより確実なデータ転送が実現し、その他の無線ネットワークと同時に操作することが可能です。  詳細については、取扱説明書 BA00061S を参照してください。

アクセサリ	説明
Connect Sensor FXA30/ FXA30B	SupplyCare Hosting を使用したシンプルなアプリケーションに対応する完全一体型のバッテリー電源式ゲートウェイです。4~20 mA 通信 (FXA30/FXA30B)、シリアル Modbus (FXA30B) または HART (FXA30B) を装備する最大 4 つのフィールド機器を接続することが可能です。堅牢な設計で、バッテリーにより何年も作動するため、遠隔地でのリモート監視に最適です。LTE バージョン (米国、カナダ、メキシコのみ) または世界的な通信用の 3G モバイル通信があります。  詳細については、「技術仕様書」TI01356S および「取扱説明書」BA01710S を参照してください。

アクセサリ	説明
Fieldgate FXA42	Fieldgates により、接続された 4 ~ 20 mA、Modbus RS485 および Modbus TCP 機器と SupplyCare Hosting または SupplyCare Enterprise との通信が可能になります。信号は Ethernet TCP/IP、WLAN またはモバイル通信 (UMTS) を介して伝送されます。統合された Web-PLC、OpenVPN、その他の機能など、高度な自動化能力に対応します。  詳細については、「技術仕様書」TI01297S および「取扱説明書」BA01778S を参照してください。

アクセサリ	説明
SupplyCare Enterprise SCE30B	<p>レベル、体積、質量、温度、圧力、密度またはその他のタンクパラメータを視覚化するための在槽管理ソフトウェアです。パラメータは、Fieldgate FXA42 タイプのゲートウェイを使用して記録および伝送されます。</p> <p>このウェブベースのソフトウェアはローカルサーバーにインストールされ、スマートフォンやタブレット端末などのモバイル端末を使用して視覚化および操作することも可能です。</p> <p> 詳細については、「技術仕様書」 TI01228S および「取扱説明書」 BA00055S を参照してください。</p>

アクセサリ	説明
SupplyCare Hosting SCH30	<p>レベル、体積、質量、温度、圧力、密度またはその他のタンクパラメータを視覚化するための在槽管理ソフトウェアです。パラメータは、Fieldgate FXA42、FXA30、FXA30B タイプのゲートウェイを使用して記録および伝送されます。</p> <p>SupplyCare Hosting はホスティングサービス（サービスとしてのソフトウェア、SaaS）として提供されます。Endress+Hauser ポータルから、インターネットを介してユーザーにデータが提供されます。</p> <p> 詳細については、「技術仕様書」 TI01229S および「取扱説明書」 BA00050S を参照してください。</p>

アクセサリ	説明
Field Xpert SFX350	<p>Field Xpert SFX350 は、設定およびメンテナンス用のモバイルコンピュータです。非危険場所での HART および FOUNDATION フィールドバス機器の効率的な機器設定および診断が可能です。</p> <p> 詳細については、「取扱説明書」 BA01202S を参照してください。</p>

アクセサリ	説明
Field Xpert SFX370	<p>Field Xpert SFX370 は、設定およびメンテナンス用のモバイルコンピュータです。非危険場所および危険場所での HART および FOUNDATION フィールドバス機器の効率的な機器設定および診断が可能です。</p> <p> 詳細については、「取扱説明書」 BA01202S を参照してください。</p>

16.3 サービス関連のアクセサリ

アクセサリ	説明
DeviceCare SFE100	<p>HART、PROFIBUS および FOUNDATION フィールドバス機器の設定ツールです。</p> <p> 技術仕様書 TI01134S</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> DeviceCare は、www.software-products.endress.com からダウンロードできます。ダウンロードするには、Endress+Hauser ソフトウェアポータルでの登録が必要です。 または、DeviceCare DVD を機器と一緒に注文することが可能です。製品構成：仕様コード 570 「サービス」、オプション IV 「ツーリング DVD (DeviceCare 設定)」 </p>
FieldCare SFE500	<p>FDT ベースプラントアセットマネジメントツール</p> <p>このツールは、システム内のあらゆるフィールド機器を設定し、その機器を管理する助けとなります。ステータス情報が表示され、機器の診断もサポートできます。</p> <p> 技術仕様書 TI00028S</p>

16.4 システムコンポーネント

アクセサリ	説明
メモグラフ M グラフィックデータマネージャ	<p>メモグラフ M グラフィックデータマネージャには、関連するプロセス変数の情報がすべて表示されます。測定値を正確に記録し、リミット値の監視、測定ポイントの解析を行います。データは、256 MB の内部メモリに保存され、SD カードや USB スティックにも保存されます。</p> <p> 詳細については、技術仕様書 (TI00133R) および取扱説明書 (BA00247R) を参照してください。</p>
RN221N	<p>電源付きアクティブバリアで、4~20 mA の電流回路を安全に分離します。双方向の HART 伝送を可能にします。</p> <p> 詳細については、技術仕様書 (TI00073R) および取扱説明書 (BA00202R) を参照してください。</p>
RNS221	<p>2 線式センサまたは変換器用の非防爆区域専用の変換器電源です。HART 通信ソケットを使用して、双方向通信を可能にします。</p> <p> 詳細については、技術仕様書 (TI00081R) および取扱説明書 (KA00110R) を参照してください。</p>

17 操作メニュー

17.1 操作メニューの概要 (SmartBlue)

ナビゲーション  SmartBlue

設定	→  129
デバイスのタグ	→  129
距離の単位	→  129
タンクタイプ	→  129
パイプ直径	→  130
測定物グループ	→  130
空校正	→  131
満量校正	→  131
レベル	→  132
距離	→  132
信号品質	→  133
距離の確定	→  134
現在のマッピング	→  135
マッピングの最終点	→  135
マップ記録	→  135
▶ 高度な設定	→  138
ロック状態	→  138
アクセスステータス ツール	→  138
アクセスコード入力	→  139
▶ レベル	→  140
測定物タイプ	→  140

測定物特性	→ 140
プロセス特性	→ 141
高度なプロセス条件	→ 142
レベル単位	→ 143
不感知距離	→ 143
レベル補正	→ 144
▶ リニアライゼーション	→ 146
リニアライゼーションの方式	→ 148
リニアライゼーション後の単位	→ 149
フリーテキスト	→ 150
リニアライゼーションされたレベル	→ 150
最大値	→ 151
直径	→ 151
中間高さ	→ 151
テーブルモード	→ 152
テーブル番号	→ 153
レベル	→ 153
レベル	→ 153
ユーザー様の値	→ 154
テーブルを有効にする	→ 154
▶ プローブ設定	→ 160
プローブ接地	→ 160
実際のプローブ長	→ 160
プローブ長の確認	→ 161

▶ 安全設定	→ 155
出力エコー信号消失	→ 155
エコー信号消失時の値	→ 155
エコー信号消失時急上昇	→ 156
不感知距離	→ 143
▶ 電流出力 1~2	→ 163
電流出力の割り当て	→ 163
電流スパン	→ 164
固定電流値	→ 164
出力のダンピング	→ 165
フェールセーフモード	→ 165
故障時の電流値	→ 166
出力電流 1~2	→ 166
▶ スイッチ出力	→ 167
スイッチ出力機能	→ 167
ステータスの割り当て	→ 168
リミットの割り当て	→ 168
診断動作の割り当て	→ 168
スイッチオンの値	→ 169
スイッチオンの遅延	→ 170
スイッチオフの値	→ 170
スイッチオフの遅延	→ 171
フェールセーフモード	→ 171

スイッチの状態	→ 171
出力信号の反転	→ 171
診断	→ 185
現在の診断結果	→ 185
タイムスタンプ	→ 185
前回の診断結果	→ 185
タイムスタンプ	→ 186
再起動からの稼動時間	→ 186
稼動時間	→ 179
▶ 診断リスト	→ 187
診断 1~5	→ 187
タイムスタンプ 1~5	→ 187
▶ 測定値	→ 192
距離	→ 132
リニアライゼーションされたレベル	→ 150
出力電流 1~2	→ 166
測定した電流 1	→ 193
端子電圧 1	→ 193
▶ 機器情報	→ 189
デバイスのタグ	→ 189
シリアル番号	→ 189
ファームウェアのバージョン	→ 189
機器名	→ 189
オーダーコード	→ 190
拡張オーダーコード 1~3	→ 190

機器リビジョン	→ 190
機器 ID	→ 190
機器タイプ	→ 190
製造者 ID	→ 191
▶ シミュレーション	→ 198
測定値の割り当て	→ 199
測定値	→ 199
電流出力 1~2 のシミュレーション	→ 199
電流出力 1~2 の値	→ 200
シミュレーションスイッチ出力	→ 200
スイッチの状態	→ 200
機器アラームのシミュレーション	→ 201

17.2 操作メニューの概要（表示モジュール）

ナビゲーション  操作メニュー

Language	→  173
設定	→  129
デバイスのタグ	→  129
距離の単位	→  129
タンクタイプ	→  129
パイプ直径	→  130
測定物グループ	→  130
空校正	→  131
満量校正	→  131
レベル	→  132
距離	→  132
信号品質	→  133
▶ マッピング	→  137
距離の確定	→  137
マッピングの最終点	→  137
マップ記録	→  137
距離	→  137
▶ 高度な設定	→  138
ロック状態	→  138
アクセスステータス表示	→  139
アクセスコード入力	→  139
▶ レベル	→  140
測定物タイプ	→  140

測定物特性	→ 140
プロセス特性	→ 141
高度なプロセス条件	→ 142
レベル単位	→ 143
不感知距離	→ 143
レベル補正	→ 144
▶ リニアライゼーション	→ 146
リニアライゼーションの方式	→ 148
リニアライゼーション後の単位	→ 149
フリーテキスト	→ 150
最大値	→ 151
直径	→ 151
中間高さ	→ 151
テーブルモード	→ 152
▶ テーブルの編集	
レベル	→ 153
ユーザー様の値	→ 154
テーブルを有効にする	→ 154
▶ 安全設定	→ 155
出力エコー信号消失	→ 155
エコー信号消失時の値	→ 155
エコー信号消失時急上昇	→ 156
不感知距離	→ 143
▶ SIL/WHG 確認	→ 158

▶ SIL/WHG 無効	→ 159
書き込み保護のリセット	→ 159
不適切なコード	→ 159
▶ プローブ設定	→ 160
プローブ接地	→ 160
▶ プローブ長の補正	→ 162
プローブ長の確認	→ 162
実際のプローブ長	→ 162
▶ 電流出力 1~2	→ 163
電流出力の割り当て	→ 163
電流スパン	→ 164
固定電流値	→ 164
出力のダンピング	→ 165
フェールセーフモード	→ 165
故障時の電流値	→ 166
出力電流 1~2	→ 166
▶ スイッチ出力	→ 167
スイッチ出力機能	→ 167
ステータスの割り当て	→ 168
リミットの割り当て	→ 168
診断動作の割り当て	→ 168
スイッチオンの値	→ 169
スイッチオンの遅延	→ 170
スイッチオフの値	→ 170
スイッチオフの遅延	→ 171

フェールセーフモード	→ 171
スイッチの状態	→ 171
出力信号の反転	→ 171
▶ 表示	→ 173
Language	→ 173
表示形式	→ 173
1~4 の値表示	→ 175
小数点桁数 1~4	→ 175
表示間隔	→ 175
表示のダンピング	→ 176
ヘッダー	→ 176
ヘッダーテキスト	→ 177
区切り記号	→ 177
数値形式	→ 177
小数点桁数メニュー	→ 177
バックライト	→ 178
表示のコントラスト	→ 178
▶ 設定バックアップの表示	→ 179
稼動時間	→ 179
最後のバックアップ	→ 179

設定管理	→ 179
比較の結果	→ 180
▶ 管理	→ 182
▶ アクセスコード設定	→ 184
アクセスコード設定	→ 184
アクセスコードの確認	→ 184
機器リセット	→ 182
🔍 診断	→ 185
現在の診断結果	→ 185
前回の診断結果	→ 185
再起動からの稼動時間	→ 186
稼動時間	→ 179
▶ 診断リスト	→ 187
診断 1~5	→ 187
▶ イベントログブック	→ 188
フィルタオプション	→ 188
▶ イベントリスト	→ 188
▶ 機器情報	→ 189
デバイスのタグ	→ 189
シリアル番号	→ 189
ファームウェアのバージョン	→ 189
機器名	→ 189
オーダーコード	→ 190
拡張オーダーコード 1~3	→ 190
機器リビジョン	→ 190

機器 ID	→ 190
機器タイプ	→ 190
製造者 ID	→ 191
▶ 測定値	→ 192
距離	→ 132
リニアライゼーションされたレベル	→ 150
出力電流 1~2	→ 166
測定した電流 1	→ 193
端子電圧 1	→ 193
▶ データのログ	→ 194
チャンネル 1~4 の割り当て	→ 194
ロギングの時間間隔	→ 195
すべてのログをリセット	→ 195
▶ チャンネル 1~4 表示	→ 196
▶ シミュレーション	→ 198
測定値の割り当て	→ 199
測定値	→ 199
電流出力 1~2 のシミュレーション	→ 199
電流出力 1~2 の値	→ 200
シミュレーションスイッチ出力	→ 200
スイッチの状態	→ 200
機器アラームのシミュレーション	→ 201
▶ 機器チェック	→ 202
機器チェック開始	→ 202
機器チェックの結果	→ 202

前回のチェック時刻	→ 202
レベル信号	→ 203
開始信号	→ 203

17.3 操作メニューの概要（操作ツール）

ナビゲーション  操作メニュー

設定	→ 129
デバイスのタグ	→ 129
距離の単位	→ 129
タンクタイプ	→ 129
パイプ直径	→ 130
測定物グループ	→ 130
空校正	→ 131
満量校正	→ 131
レベル	→ 132
距離	→ 132
信号品質	→ 133
距離の確定	→ 134
現在のマッピング	→ 135
マッピングの最終点	→ 135
マップ記録	→ 135
▶ 高度な設定	→ 138
ロック状態	→ 138
アクセスステータス ツール	→ 138
アクセスコード入力	→ 139
▶ レベル	→ 140
測定物タイプ	→ 140
測定物特性	→ 140
プロセス特性	→ 141

高度なプロセス条件	→ 142
レベル単位	→ 143
不感知距離	→ 143
レベル補正	→ 144
▶ リニアライゼーション	→ 146
リニアライゼーションの方式	→ 148
リニアライゼーション後の単位	→ 149
フリーテキスト	→ 150
リニアライゼーションされたレベル	→ 150
最大値	→ 151
直径	→ 151
中間高さ	→ 151
テーブルモード	→ 152
テーブル番号	→ 153
レベル	→ 153
レベル	→ 153
ユーザー様の値	→ 154
テーブルを有効にする	→ 154
▶ 安全設定	→ 155
出力エコー信号消失	→ 155
エコー信号消失時の値	→ 155
エコー信号消失時急上昇	→ 156
不感知距離	→ 143
▶ SIL/WHG 確認	→ 158

▶ SIL/WHG 無効	→ 159
書き込み保護のリセット	→ 159
不適切なコード	→ 159
▶ プローブ設定	→ 160
プローブ接地	→ 160
実際のプローブ長	→ 160
プローブ長の確認	→ 161
▶ 電流出力 1~2	→ 163
電流出力の割り当て	→ 163
電流スパン	→ 164
固定電流値	→ 164
出力のダンピング	→ 165
フェールセーフモード	→ 165
故障時の電流値	→ 166
出力電流 1~2	→ 166
▶ スイッチ出力	→ 167
スイッチ出力機能	→ 167
ステータスの割り当て	→ 168
リミットの割り当て	→ 168
診断動作の割り当て	→ 168
スイッチオンの値	→ 169
スイッチオンの遅延	→ 170
スイッチオフの値	→ 170
スイッチオフの遅延	→ 171
フェールセーフモード	→ 171

スイッチの状態	→ 171
出力信号の反転	→ 171
▶ 表示	→ 173
Language	→ 173
表示形式	→ 173
1~4 の値表示	→ 175
小数点桁数 1~4	→ 175
表示間隔	→ 175
表示のダンピング	→ 176
ヘッダー	→ 176
ヘッダーテキスト	→ 177
区切り記号	→ 177
数値形式	→ 177
小数点桁数メニュー	→ 177
バックライト	→ 178
表示のコントラスト	→ 178
▶ 設定バックアップの表示	→ 179
稼動時間	→ 179
最後のバックアップ	→ 179
設定管理	→ 179

バックアップのステータス	→ 180
比較の結果	→ 180
▶ 管理	→ 182
アクセスコード設定	→ 184
機器リセット	→ 182
🔍 診断	→ 185
現在の診断結果	→ 185
タイムスタンプ	→ 185
前回の診断結果	→ 185
タイムスタンプ	→ 186
再起動からの稼働時間	→ 186
稼働時間	→ 179
▶ 診断リスト	→ 187
診断 1~5	→ 187
タイムスタンプ 1~5	→ 187
▶ 機器情報	→ 189
デバイスのタグ	→ 189
シリアル番号	→ 189
ファームウェアのバージョン	→ 189
機器名	→ 189
オーダーコード	→ 190
拡張オーダーコード 1~3	→ 190
機器リビジョン	→ 190
機器 ID	→ 190

機器タイプ	→ 190
製造者 ID	→ 191
▶ 測定値	→ 192
距離	→ 132
リニアライゼーションされたレベル	→ 150
出力電流 1~2	→ 166
測定した電流 1	→ 193
端子電圧 1	→ 193
▶ データのログ	→ 194
チャンネル 1~4 の割り当て	→ 194
ロギングの時間間隔	→ 195
すべてのログをリセット	→ 195
▶ シミュレーション	→ 198
測定値の割り当て	→ 199
測定値	→ 199
電流出力 1~2 のシミュレーション	→ 199
電流出力 1~2 の値	→ 200
シミュレーションスイッチ出力	→ 200
スイッチの状態	→ 200
機器アラームのシミュレーション	→ 201
▶ 機器チェック	→ 202
機器チェック開始	→ 202
機器チェックの結果	→ 202
前回のチェック時刻	→ 202

レベル信号	→ 203
開始信号	→ 203
▶ Heartbeat	→ 204

17.4 「設定」メニュー

- 
 -  : 表示部および操作モジュールによる、パラメータへのナビゲーションパスを示します。
 -  : 操作ツール（例：FieldCare）による、パラメータへのナビゲーションパスを示します。
 -  : ソフトウェアロックでロック可能なパラメータを示します。

ナビゲーション   設定

デバイスのタグ

ナビゲーション	  設定 → デバイスのタグ
説明	プラント内で迅速に機器を識別するために、測定点における固有の名前を入力して下さい。
工場出荷時設定	FMP5x

距離の単位

ナビゲーション	  設定 → 距離の単位	
説明	基本校正（空校正/満量校正）に使用。	
選択	SI 単位 <ul style="list-style-type: none"> ▪ mm ▪ m 	US 単位 <ul style="list-style-type: none"> ▪ ft ▪ in
工場出荷時設定	m	

タンクタイプ

ナビゲーション	  設定 → タンクタイプ
必須条件	測定物タイプ (→  140) = 液体 に設定します。
説明	タンクタイプを選択します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 金属 ▪ 外筒管 ▪ 非金属 ▪ 外部取り付け ▪ コアキシャル
工場出荷時設定	プローブに応じて異なります。

追加情報

- プローブに応じて異なります。前述のオプションの一部を使用できない場合や、追加オプションが用意されている場合があります。
- コアキシャルプローブおよびまたは金属製センタリングディスクを持つプローブでは、**タンクタイプ**パラメータはプローブの種類に対応し、変更することができません。

パイプ直径 🔒

ナビゲーション

🔍🔍 設定 → パイプ直径

必須条件

タンクタイプ (→ 📄 129) = 外筒管

説明

外筒管または内筒管の直径を設定します。

ユーザー入力

0~9.999 m

工場出荷時設定

0.0384 m

測定物グループ 🔒

ナビゲーション

🔍🔍 設定 → 測定物グループ

必須条件

測定物タイプ (→ 📄 140) = 液体 に設定します。

説明

測定物グループを選択します。

選択

- その他
- 水ベース (DC >= 4)

工場出荷時設定

その他

追加情報

このパラメータには、測定物の大まかな比誘電率 (DC 値) を指定します。DC をより詳細に定義するには、**測定物特性**パラメータ (→ 📄 140) を使用します。

測定物グループパラメータの**測定物特性**パラメータ (→ 📄 140)の工場設定は、次のとおりです。

測定物グループ	測定物特性 (→ 📄 140)
その他	不明
水ベース (DC >= 4)	DC 4 ... 7

i **測定物特性**パラメータは、後から変更できます。しかし、その場合、**測定物グループ**パラメータの値は保たれます。**測定物特性**パラメータのみが信号評価に関係します。

i 比誘電率が小さい場合、測定範囲が減少することがあります。詳細については、各機器の技術仕様書 (TI) を参照してください。

空校正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 空校正

説明

プロセス接続から最小レベル (0%) までの距離。

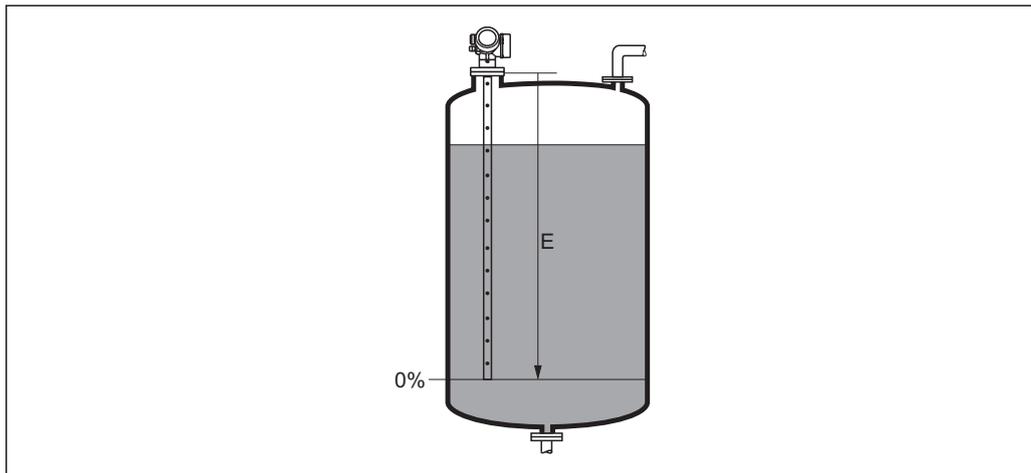
ユーザー入力

プローブに応じて異なります。

工場出荷時設定

プローブに応じて異なります。

追加情報



A0013178

☑ 42 液体レベル測定用の空校正 (E)

満量校正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 満量校正

説明

最小値 (0%) から最大値 (100%) までの距離。

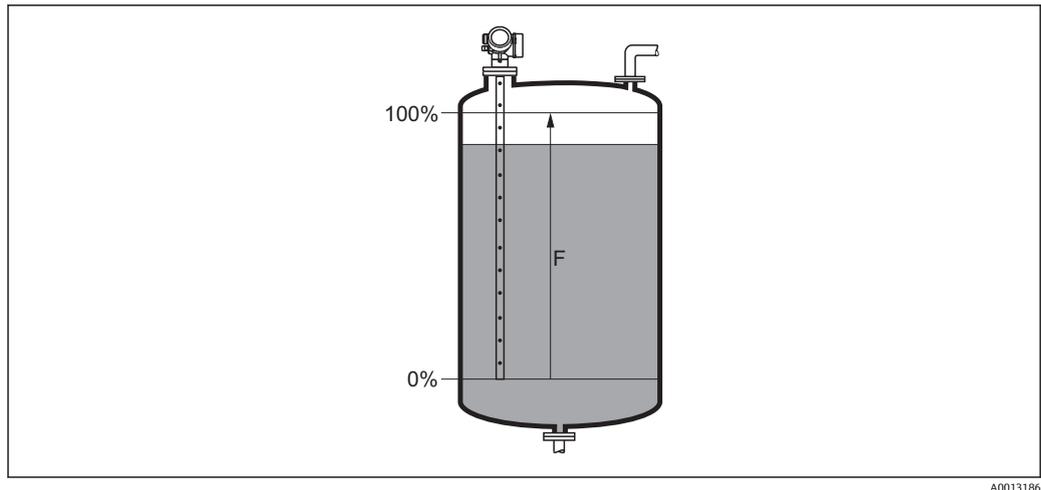
ユーザー入力

プローブに応じて異なります。

工場出荷時設定

プローブに応じて異なります。

追加情報



A0013186

図 43 液体レベル測定用の満量校正 (F)

レベル

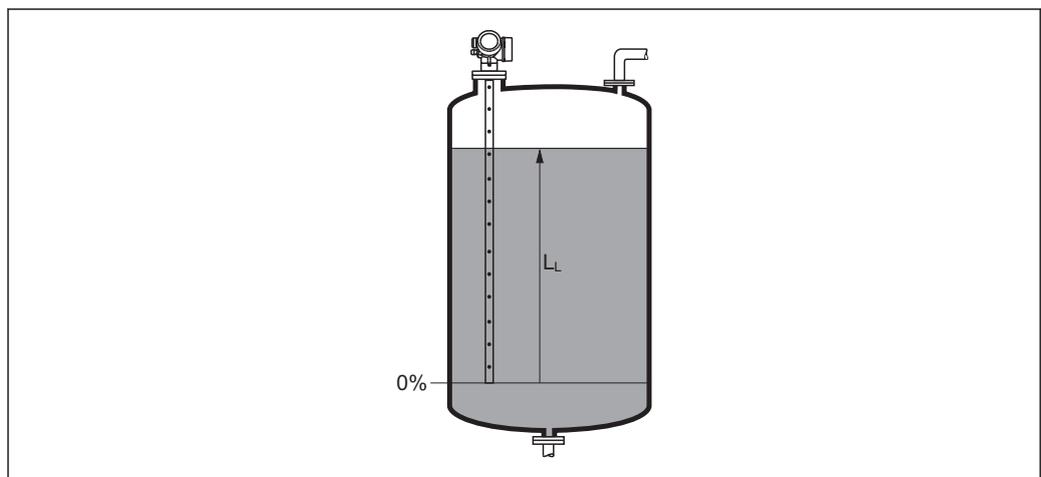
ナビゲーション

☰☰ 設定 → レベル

説明

測定レベル L_L (リニアライゼーションの前) を表示します。

追加情報



A0013194

図 44 液体計測時のレベル

i 単位は、**レベル単位** パラメータ (→ 図 143) で設定します。

距離

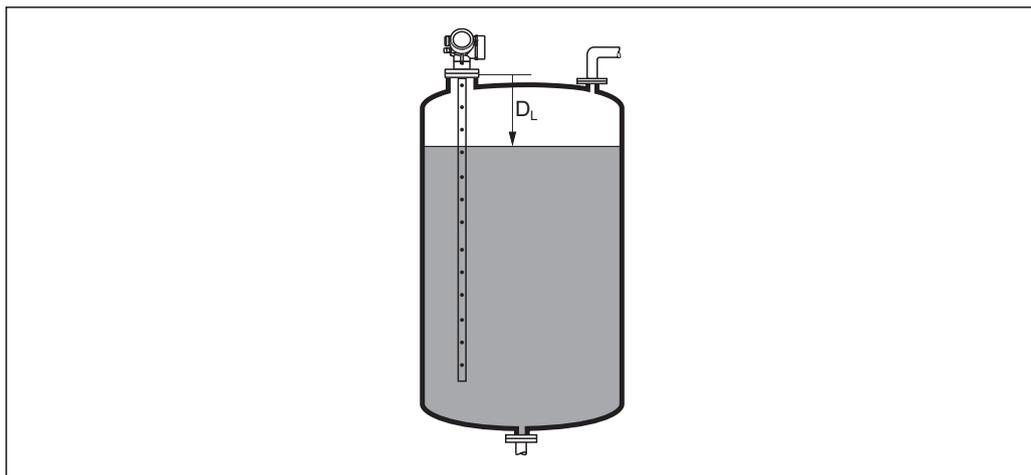
ナビゲーション

☰☰ 設定 → 距離

説明

測定基準点 (フランジまたはネジ込み接続の下端) からレベルまでの測定距離 D_L を表示します。

追加情報



A0013198

図 45 液体計測の距離

i 単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 図 129) で設定します。

信号品質

ナビゲーション

設定 → 信号品質

説明

評価されたエコーの信号品質を表示します。

追加情報

表示選択の説明

- **強い**
評価されたエコーが、しきい値を 10 mV 以上超えています。
- **測定物**
評価されたエコーが、しきい値を 5 mV 以上超えています。
- **弱い**
評価されたエコーが、しきい値を 5 mV 未満超えています。
- **信号なし**
機器は有効なエコーを検出していません。

このパラメータで示される信号品質は、常に現在評価されているエコー、つまりレベル/界面エコー⁴⁾、またはプローブ終端エコーのどちらかに対応します。この2つを区別するために、プローブ終端エコーは必ずカッコ内に表示されます。

i 反射がない場合 (**信号品質 = 信号なし**)、機器は以下のエラーメッセージを生成します。

- F941 : 出力エコー信号消失 (→ 図 155) = アラームの場合
- S941 : 出力エコー信号消失 (→ 図 155) で別のオプションが選択されている場合

4) 2つのうち品質が低い方

距離の確定



ナビゲーション

☰ 設定 → 距離の確定

説明

測定距離が実際の距離と一致するかどうかを設定します。
 選択項目に応じて、機器は自動的にマッピングレンジを設定します。

選択

- 手動マップ
- 距離 OK
- 距離不明
- 距離が短かすぎる*
- 距離が長すぎる*
- タンク空
- マップ削除

工場出荷時設定

距離不明

追加情報

選択項目の説明

- **手動マップ**
マッピング範囲を選択することは、**マッピングの最終点** パラメータ (→ ☰ 135) を手動で定義することです。この場合、距離を確認する必要はありません。
 - **距離 OK**
測定距離が実際の距離と一致している場合に選択します。機器はマッピングを実施します。
 - **距離不明**
実際の距離が不明な場合に選択します。この場合、マッピングは実施できません。
 - **距離が短かすぎる**
測定距離が実際の距離より短い場合に選択します。機器は次のエコーを探し、**距離の確定** パラメータに戻ります。距離の最計算が行なわれ、表示されます。表示された距離が実際の距離と一致するまで、比較を繰り返す必要があります。この後、**距離 OK** を選択するとマップの記録が開始されます。
 - **距離が長すぎる⁵⁾**
測定距離が実際の距離を超過している場合に選択します。機器は信号の評価を調整し、**距離の確定** パラメータに戻ります。距離の最計算が行なわれ、表示されます。表示された距離が実際の距離と一致するまで、比較を繰り返す必要があります。この後、**距離 OK** を選択するとマップの記録が開始されます。
 - **タンク空**
タンクが完全に空の場合に選択します。機器は測定範囲全体をカバーするマッピングを記録します。
タンクが完全に空の場合に選択します。機器は **LN までマップのギャップ** を差し引いた測定範囲全体をカバーするマッピングを記録します。
 - **工場出荷時のマッピング**
現在のマッピングカーブ (マッピングが記録されている場合) を削除する場合に選択します。機器は、**距離の確定** パラメータに戻り、新しいマッピングを記録できます。
-  表示モジュールを使用して操作している場合、参照用に、このパラメータと一緒に測定距離が表示されます。
-  距離を確認する前に、学習プロセス「**距離が短かすぎる オプション**」または「**距離が長すぎる オプション**」が終了した場合、マップは記録されず、学習プロセスは 60 秒後にリセットされます。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

5) 「エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード パラメータ」 = 「短期履歴」または「長期履歴」の場合にのみ使用可能

現在のマッピング

ナビゲーション	 設定 → 現在のマッピング
説明	マッピングがすでにどの距離まで記録されているかを示します。

マッピングの最終点

ナビゲーション	 設定 → マッピングの最終点
必須条件	距離の確定 (→  134) = 手動マップ または 距離が短かすぎる
説明	マッピングの新しい最終点を設定します。
ユーザー入力	0~200 000.0 m
工場出荷時設定	0.1 m
追加情報	<p>新しいマッピングをどの距離まで記録するかを設定します。測定基準点(フランジの取付部分またはネジ接続の下端)からの距離を測定します。</p> <p> 参照用に、現在のマッピング パラメータ (→  135)がこのパラメータと一緒に表示されます。これはマッピングがすでにどの距離まで記録されているかを示します。</p>

マップ記録

ナビゲーション	 設定 → マップ記録
必須条件	距離の確定 (→  134) = 手動マップ または 距離が短かすぎる
説明	マップの記録を開始します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ いいえ ■ マップ記録 ■ マップ削除
工場出荷時設定	いいえ

追加情報

選択項目の説明

■ いいえ

マップは記録されません。

■ マップ記録

マップは記録されます。記録が完了すると、新しい測定距離と新しいマッピングレンジがディスプレイに表示されます。現場表示器で操作している場合にこれらの値を確認するには、 を押します。

■ マップ削除

マッピング (マッピングが記録されている場合) を削除し、機器は再計算した測定距離とマッピングレンジを表示します。現場表示器で操作している場合にこれらの値を確認するには、 を押します。

17.4.1 「マッピング」ウィザード

-  **マッピング** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、マッピングに関連するすべてのパラメータは、**設定** メニュー (→  129) に直接表示されます。
-  **マッピング** ウィザードでは、表示モジュールに常に 2 つのパラメータが同時に表示されます。上側のパラメータは編集できますが、下側のパラメータは参照用に表示されているだけであり、編集できません。

ナビゲーション  設定 → マッピング

距離の確定

ナビゲーション  設定 → マッピング → 距離の確定

説明 →  134

マッピングの最終点

ナビゲーション  設定 → マッピング → マッピングの最終点

説明 →  135

マップ記録

ナビゲーション  設定 → マッピング → マップ記録

説明 →  135

距離

ナビゲーション  設定 → マッピング → 距離

説明 →  132

17.4.2 「高度な設定」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定

ロック状態

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → ロック状態

説明

現在有効になっている最高優先度の書き込み保護を示します。

ユーザーインターフェイス

- ハードウェア書き込みロック
- SIL ロック
- CT アクティブ (設定値)
- WHG ロック
- 一時ロック

追加情報

書込保護の優先度タイプの説明

- **ハードウェア書き込みロック (優先度 1)**
メイン電子モジュールのハードウェア書き込みロック用 DIP スイッチが有効になっています。これにより、パラメータへの書き込みアクセスを防ぐことができます。
- **SIL ロック (優先度 2)**
SIL モードが有効です。関連パラメータへの書込アクセスを防止できます。
- **WHG ロック (優先度 3)**
WHG モードが有効です。関連パラメータへの書込アクセスを防止できます。
- **一時ロック (優先度 4)**
機器の内部処理 (例: データアップロード/ダウンロード、リセットなど) を実行中のため、パラメータへの書き込みアクセスが一時的にロックされます。処理が完了次第、パラメータの変更ができます。

 表示モジュールでは、書き込み保護により変更できないパラメータの前には  シンボルが表示されます。

アクセスステータス ツール

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスステータス ツール

説明

操作ツールを介したパラメータへのアクセス権限を示します。

追加情報

 アクセス権を変更するには、**アクセスコード入力** パラメータ (→  139) を使用します。

 また、書き込み保護機能が有効な場合は、それによって現在のアクセス権がさらに制限されます。書込保護の状態を確認するには、**ロック状態** パラメータ (→  138) を使用します。

アクセスステータス表示

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスステータス表示

必須条件

現場表示器を使用する場合にのみ使用できます。

説明

ローカルディスプレイを介したパラメータへのアクセス許可を示す。

追加情報

 アクセス権を変更するには、**アクセスコード入力** パラメータ (→  139)を使用します。

 また、書き込み保護機能が有効な場合は、それによって現在のアクセス権がさらに制限されます。書込保護の状態を確認するには、**ロック状態** パラメータ (→  138)を使用します。

アクセスコード入力

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → アクセスコード入力

説明

書き込みを許可するためにアクセスコードを入力。

ユーザー入力

0~9999

追加情報

- 現場操作では、ユーザー固有のアクセスコード (**アクセスコード設定** パラメータ (→  182)で設定したコード) を入力する必要があります。
- 不正なアクセスコードが入力されると、現在のアクセス権が維持されます。
- 書込保護は、本書の  シンボルが付いたすべてのパラメータに適用されます。現場表示器でパラメータの前に  シンボルが表示される場合、そのパラメータは書き込み保護になっています。
- 10 min 間キーを押さなかった場合やナビゲーションモードや編集モードから測定値表示モードに移動した場合、60 秒経過後に書込保護パラメータが自動的にロックされます。

 アクセスコードを紛失した場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。

「レベル」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → レベル測定物タイプ 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → レベル → 測定物タイプ

説明

測定物のタイプを設定します。

ユーザーインターフェイス

- 液体
- 粉体

工場出荷時設定

FMP50、FMP51、FMP52、FMP53、FMP54、FMP55 : 液体

追加情報

 このパラメータは、他の複数のパラメータの値を決定し、完全な信号評価に大きく影響します。そのため、初期設定を**変更しない**ことを強く推奨します。

測定物特性 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → レベル → 測定物特性

必須条件

EOP レベル評価 ≠ 固定 DC

説明

測定物の比誘電率 ϵ_r を設定します。

選択

- 不明
- DC 1.4 ... 1.6
- DC 1.6 ... 1.9
- DC 1.9 ... 2.5
- DC 2.5 ... 4
- DC 4 ... 7
- DC 7 ... 15
- DC > 15

工場出荷時設定

測定物タイプ (→  140) および測定物グループ (→  130) に応じて異なります。

追加情報

「測定物タイプ」および「測定物グループ」による違い

測定物タイプ (→ 140)	測定物グループ (→ 130)	測定物特性
粉体		不明
液体	水ベース (DC >= 4)	DC 4 ... 7
	その他	不明

i 各種産業で一般的に使用されるさまざまな測定物の比誘電率 (DC 値) については、以下を参照してください。

- Endress+Hauser DC マニュアル (CP01076F)
- Endress+Hauser 「DC Values (DC 値) アプリ」 (Android および iOS で使用可能)

i EOP レベル評価 = 固定 DC の場合、正確な比誘電率を DC 値 パラメータに入力する必要があります。したがって、この場合は測定物特性 パラメータを使用できません。

プロセス特性



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → プロセス特性

説明

レベル変化の標準速度を設定します。

選択

「測定物タイプ」 = 「液体」

- 非常に高速 > 10 m (400in) /分
- 高速 > 1 m/min
- 標準速度 < 1 m/min
- 中速 < 10 cm/min
- 低速 < 1 cm/min
- フィルタなし

「測定物タイプ」 = 「粉体」

- 非常に高速 > 100m (333ft) /分
- 高速 > 10 m/h
- 標準速度 < 10 m/h
- 中速 < 1 m/h
- 低速 < 0.1 m/h
- フィルタなし

工場出荷時設定

標準速度 < 1 m/min

追加情報

このパラメータで設定されたレベル変化の標準速度に、機器は信号評価フィルタおよび出力信号のダンピングを調整します。

「動作モード」 = 「レベル」 および 「測定物タイプ」 = 「液体」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 10 m (400in) /分	5
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	14
中速 < 10 cm/min	39
低速 < 1 cm/min	76
フィルタなし	< 1

「動作モード」 = 「レベル」 および 「測定物タイプ」 = 「粉体」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 100m (333ft) /分	37
高速 > 10 m/h	37
標準速度 < 10 m/h	74
中速 < 1 m/h	146
低速 < 0.1 m/h	290
フィルタなし	< 1

「動作モード」 = 「界面」 または 「静電容量による界面」

プロセス特性	ステップ応答時間 (s)
非常に高速 > 10 m (400in) /分	5
高速 > 1 m/min	5
標準速度 < 1 m/min	23
中速 < 10 cm/min	47
低速 < 1 cm/min	81
フィルタなし	2.2

高度なプロセス条件



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → レベル → 高度なプロセス条件

説明

(必要に応じて) 追加のプロセス条件を設定します。

選択

- なし
- 油/水 凝縮液
- プローブがタンク底面付近
- 付着
- 泡の厚み 5cm 以上

工場出荷時設定

なし

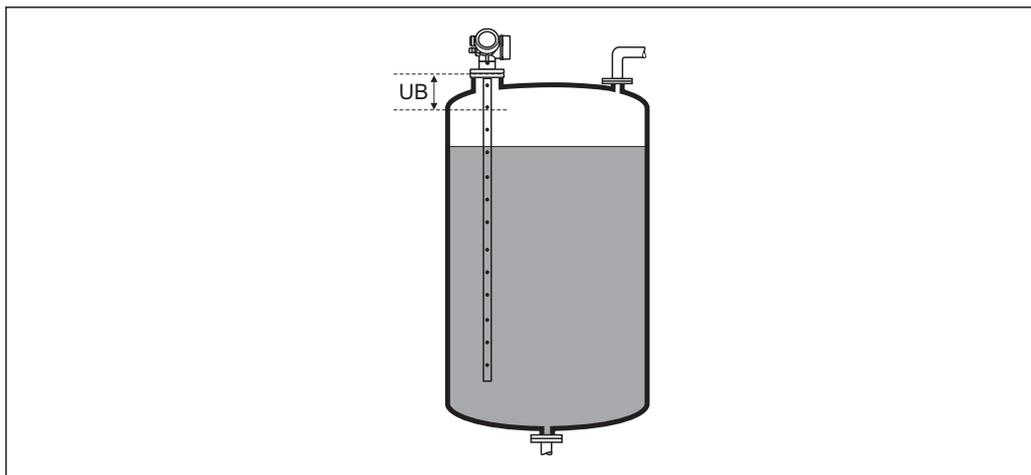
追加情報

選択項目の説明

- **油/水 凝縮液 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
二相測定物の場合、全体レベルのみを確実に検出することが可能になります (例: 油/凝縮水アプリケーション)。
- **プローブがタンク底面付近 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
特にプローブをタンク底部付近に取り付けた場合、空検出の精度が向上します。
- **付着**
付着物が原因でプローブ終端信号が変化した場合でも安全な空検出を確実に行うには、**EOP 範囲上部**を増やします。
付着物が原因でプローブ終端信号が変化した場合でも安全な空検出が可能になります。
- **泡の厚み 5cm 以上 (測定物タイプ = 液体の場合のみ)**
発泡を使用するアプリケーションで信号評価を最適化します。

レベル単位									
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → レベル → レベル単位								
説明	レベル単位を選択します。								
選択	<table border="0"> <tr> <td>SI 単位</td> <td>US 単位</td> </tr> <tr> <td>▪ %</td> <td>▪ ft</td> </tr> <tr> <td>▪ m</td> <td>▪ in</td> </tr> <tr> <td>▪ mm</td> <td></td> </tr> </table>	SI 単位	US 単位	▪ %	▪ ft	▪ m	▪ in	▪ mm	
SI 単位	US 単位								
▪ %	▪ ft								
▪ m	▪ in								
▪ mm									
工場出荷時設定	%								
追加情報	<p>レベル単位は、距離の単位 パラメータ (→  129) で設定した距離単位とは異なる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 距離の単位 パラメータで設定した単位は、基本校正 (空校正 (→  131) と 満量校正 (→  131)) に使用します。 ▪ レベル単位 パラメータで設定した単位は、(リニアライズされていない) レベルの表示に使用します。 								
不感知距離									

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → レベル → 不感知距離
説明	上部不感知距離 (UB) を設定します。
ユーザー入力	0~200 m
工場出荷時設定	8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローププローブ : 200 mm (8 in)
追加情報	<p>上部不感知距離の信号は、機器がオンになったときに不感知距離の範囲外にあり、操作中のレベル変更によって不感知距離内に移動した場合にのみ評価されます。機器がオンになったとき、すでに不感知距離内にあった信号は無視されます。</p> <p> 以下の 2 つの条件を満たしている場合のみ、この挙動が示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = 短期履歴 または 長期履歴 ▪ エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード = オン、補正なし または 外部訂正 <p>条件の 1 つを満たしていない場合、不感知距離内の信号は常に無視されます。</p> <p> 不感知距離内の信号に関して、別の挙動を 不感知距離評価モード パラメータ で設定することが可能です。</p> <p> 必要に応じて、不感知距離内の信号に関する別の挙動を弊社サービスが設定します。</p>



A0013219

図 46 液体計測の不感知距離 (UB)

レベル補正



ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → レベル → レベル補正

説明

(必要に応じて) レベル補正を設定します。

ユーザー入力

-200 000.0 ~ 200 000.0 %

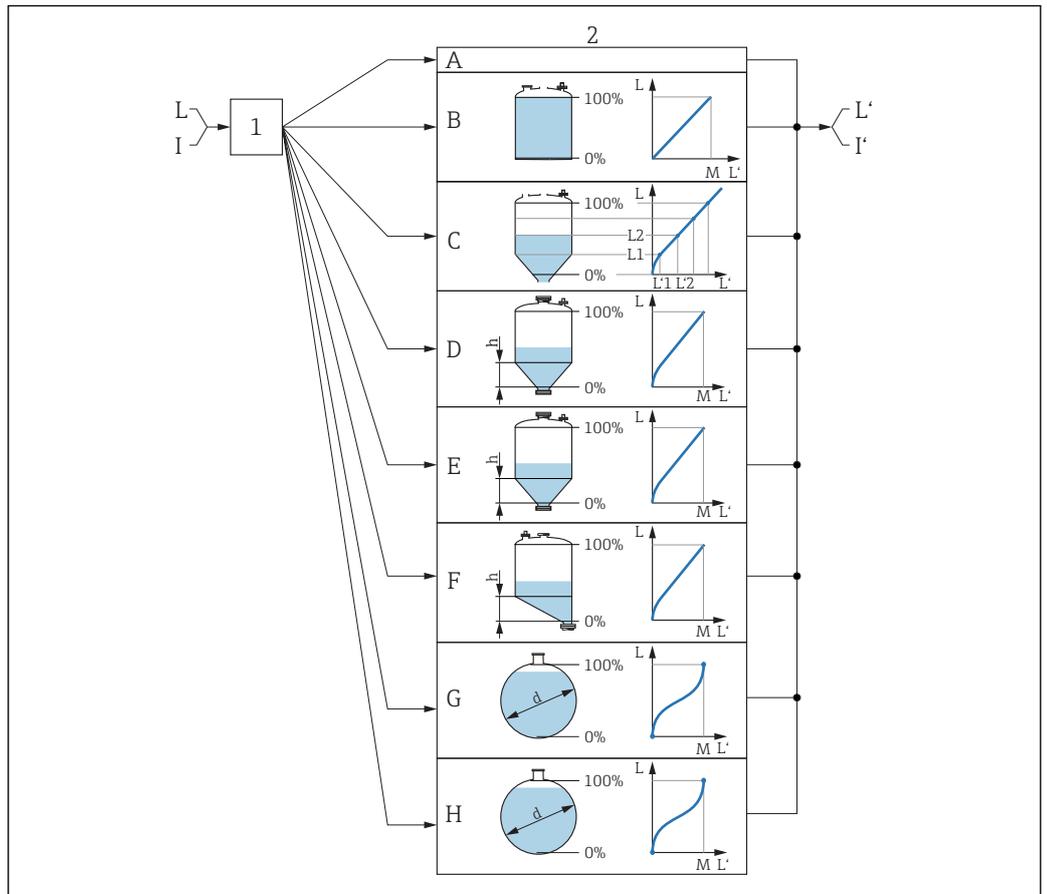
工場出荷時設定

0.0 %

追加情報

このパラメータで設定した値は、測定レベル (リニアライゼーションの前) に追加されます。

「リニアライゼーション」サブメニュー



A0016084

④ 47 リニアライゼーション：レベルおよび界面の高さ（該当する場合）を容量または質量に変換します。これは容器の形状に応じて異なります。

- 1 リニアライゼーションの方式と単位を選択
- 2 リニアライゼーションの設定
- A リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = なし
- B リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = リニア
- C リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = テーブル
- D リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = 角錐底
- E リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = 円錐底
- F リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = 傾斜底
- G リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = 水平円筒
- H リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) = 球形
- I 「動作モード」=「界面」または「静電容量による界面」の場合：リニアライゼーション前の界面（距離単位で測定）
- I' 「動作モード」=「界面」または「静電容量による界面」の場合：リニアライゼーション後の界面（容量または質量に対応）
- L リニアライゼーション前のレベル（距離単位で測定）
- L' リニアライゼーションされたレベル (→ ④ 150)（容量または質量に対応）
- M 最大値 (→ ④ 151)
- d 直径 (→ ④ 151)
- h 中間高さ (→ ④ 151)

表示モジュールのサブメニューの構成

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

▶ リニアライゼーション	
リニアライゼーションの方式	→  148
リニアライゼーション後の単位	→  149
フリーテキスト	→  150
最大値	→  151
直径	→  151
中間高さ	→  151
テーブルモード	→  152
▶ テーブルの編集	
レベル	→  153
ユーザー様の値	→  154
テーブルを有効にする	→  154

操作ツール（例：FieldCare）のサブメニューの構成

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

▶ リニアライゼーション	
リニアライゼーションの方式	→ 148
リニアライゼーション後の単位	→ 149
フリーテキスト	→ 150
リニアライゼーションされたレベル	→ 150
最大値	→ 151
直径	→ 151
中間高さ	→ 151
テーブルモード	→ 152
テーブル番号	→ 153
レベル	→ 153
レベル	→ 153
ユーザー様の値	→ 154
テーブルを有効にする	→ 154

パラメータの説明

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション

リニアライゼーションの方式 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライゼーションの方式

説明

リニアライゼーション方式を選択します。

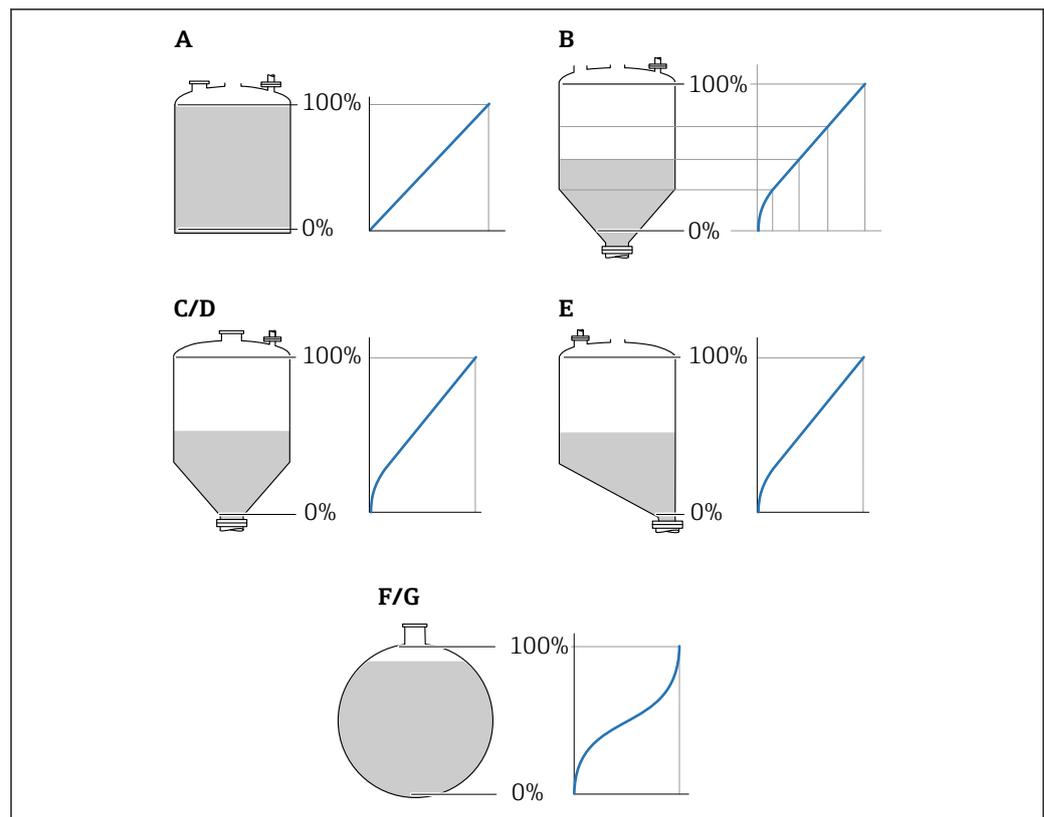
選択

- なし
- リニア
- テーブル
- 角錐底
- 円錐底
- 傾斜底
- 水平円筒
- 球形

工場出荷時設定

なし

追加情報



 48 リニアライゼーション方式

- A なし
- B テーブル
- C 角錐底
- D 円錐底
- E 傾斜底
- F 球形
- G 水平円筒

選択項目の説明

■ なし

レベルはリニアライゼーションなしでレベル単位で伝送されます。

■ リニア

出力値（容量/質量）はレベルLに正比例します。これは垂直円筒などで有効です。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- 最大値 (→ ④ 151) : 最大体積または質量

■ テーブル

測定レベルLと出力値（容量/質量）の関係はリニアライゼーションテーブルによって設定されます。この表は「レベル-容量」または「レベル-質量」の最大32点の値で構成されます。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- テーブルモード (→ ④ 152)

- 各テーブルポイント : レベル (→ ④ 153)

- 各テーブルポイント : ユーザー様の値 (→ ④ 154)

- テーブルを有効にする (→ ④ 154)

■ 角錐底

出力値は角錐底タンクのサイロの容量または質量に対応します。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- 最大値 (→ ④ 151) : 最大体積または質量

- 中間高さ (→ ④ 151) : 角錐の高さ

■ 円錐底

出力値は円錐底タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- 最大値 (→ ④ 151) : 最大体積または質量

- 中間高さ (→ ④ 151) : タンクの円錐部の高さ

■ 傾斜底

出力値は傾斜底のサイロの容量または質量に対応します。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- 最大値 (→ ④ 151) : 最大体積または質量

- 中間高さ (→ ④ 151) : 下部エルボ部分の高さ

■ 水平円筒

出力値は水平円筒タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- 最大値 (→ ④ 151) : 最大体積または質量

- 直径 (→ ④ 151)

■ 球形

出力値は球形タンクの容量または質量に対応します。以下のパラメータを指定する必要があります。

- リニアライゼーション後の単位 (→ ④ 149)

- 最大値 (→ ④ 151) : 最大体積または質量

- 直径 (→ ④ 151)

リニアライゼーション後の単位**ナビゲーション**

④④ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライゼーション後の単位

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ ④ 148) ≠ なし

説明

リニアライズされた値の単位を選択します。

選択	SI 単位 ■ STon ■ t ■ kg ■ cm ³ ■ dm ³ ■ m ³ ■ hl ■ l ■ % ■ mm ■ m ユーザー単位 Free text	US 単位 ■ lb ■ UsGal ■ ft ³ ■ ft ■ in	ヤード・ポンド法 (帝国単位) impGal
----	--	---	---------------------------

工場出荷時設定 %

追加情報 選択した単位は、表示器の表示にのみ使用されます。測定値が選択した単位に応じて変換されることはありません。

 距離対距離のリニアライゼーション (レベル単位から別の距離単位への変換) の設定も可能です。この場合、**リニアリニアライゼーションモード**を選択します。新しいレベル単位を設定するには、**Free text** オプションを、**リニアライゼーション後の単位** パラメータで選択し、目的の単位を**フリーテキスト** パラメータ (→  150) に入力します。

フリーテキスト 

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → フリーテキスト

必須条件 **リニアライゼーション後の単位** (→  149) = **Free text** に設定します。

説明 単位シンボルを入力します。

ユーザー入力 最大 32 文字 (英字、数字、特殊文字)

工場出荷時設定 Free text

リニアライゼーションされたレベル

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → リニアライゼーションされたレベル

説明 リニアライズされたレベルを表示します。

追加情報  単位は、**リニアライゼーション後の単位** パラメータで設定します →  149。

最大値


ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 最大値
必須条件	<p>リニアライゼーションの方式 (→ 148) は、以下のいずれかの値を取ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リニア ■ 角錐底 ■ 円錐底 ■ 傾斜底 ■ 水平円筒 ■ 球形
説明	100%レベルに相当するリニアライゼーションされた値。
ユーザー入力	-50 000.0 ~ 50 000.0 %
工場出荷時設定	100.0 %

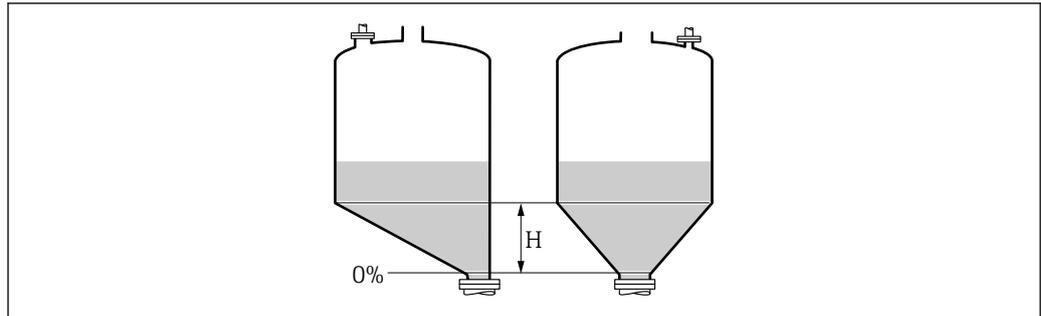
直径


ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 直径
必須条件	<p>リニアライゼーションの方式 (→ 148) は、以下のいずれかの値を取ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 水平円筒 ■ 球形
説明	円筒タンクもしくは球形タンクの直径。
ユーザー入力	0 ~ 9 999.999 m
工場出荷時設定	2 m
追加情報	単位は、 距離の単位 パラメータ (→ 129) で設定します。

中間高さ


ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → 中間高さ
必須条件	<p>リニアライゼーションの方式 (→ 148) は、以下のいずれかの値を取ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 角錐底 ■ 円錐底 ■ 傾斜底
説明	角錐部、コニカル部、角度の付いた底部の高さ。
ユーザー入力	0 ~ 200 m
工場出荷時設定	0 m

追加情報



A0013264

H 中間高さ

単位は、**距離の単位** パラメータ (→ 129) で設定します。

テーブルモード



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブルモード

必須条件

リニアライゼーションの方式 (→ 148) = テーブル に設定します。

説明

リニアライゼーションテーブルの編集モードを選択します。

選択

- 手動
- 半自動式
- テーブルをクリア
- テーブルの並べ替え

工場出荷時設定

手動

追加情報

選択項目の説明

- **手動**
レベルおよび関連するリニアライズされた値が、各リニアライゼーション点に対して手動入力されます。
- **半自動式**
各リニアライゼーション点に対して、機器がレベルを測定します。関連するリニアライズされた値は手動入力します。
- **テーブルをクリア**
既存のリニアライゼーションテーブルを削除します。
- **テーブルの並べ替え**
リニアライゼーション点を昇順に並べ替えます。

リニアライゼーションテーブルは以下の条件を満たす必要があります。

- テーブルを構成できるのは最大 32 点の値「レベル-リニアライズされた値」
- テーブルが単調であること (単調増加または単調減少)
- 最初のリニアライゼーション点が最低レベルに対応すること
- 最後のリニアライゼーション点が最高レベルに対応すること

i リニアライゼーションテーブルを入力する前に、**空校正 (→ 131)** および **満量校正 (→ 131)** の値を正しく設定する必要があります。

満量校正または空校正の後でテーブルの値を変更する必要がある場合、既存テーブルを消去し、再度すべてのテーブルを入力しない限り適切な評価は保証されません。それには、まず既存テーブルを消去します (**テーブルモード (→ 152) = テーブルをクリア**)。その後、新しいテーブルを入力します。

テーブルの入力方法

■ FieldCare 経由

テーブル番号 (→ ④ 153)、**レベル** (→ ④ 153)、および**ユーザー様の値** (→ ④ 154) パラメータを使用して、テーブルポイントを入力します。あるいは、グラフィカルテーブルエディタを使用できます (機器の操作 → 機器の機能 → 追加機能 → リニアライゼーション (オンライン/オフライン))。

■ 現場表示器を介して

テーブルの編集 サブメニューを選択して、グラフィカルテーブルエディタを呼び出します。テーブルが表示され、行単位の編集が可能になります。

i レベル単位の出荷時設定は「%」です。リニアライゼーションテーブルを物理単位で入力するには、事前に**レベル単位** パラメータ (→ ④ 143) で適切な単位を選択しておく必要があります。

i 減少テーブルを入力した場合、20 mA および 4 mA の電流出力値が入れ替わります。つまり、20 mA が最低レベルを表し、4 mA が最高レベルを表します。

テーブル番号 ④

ナビゲーション ④ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブル番号

必須条件 **リニアライゼーションの方式** (→ ④ 148) = **テーブル** に設定します。

説明 入力または変更するテーブルポイントを選択します。

ユーザー入力 1~32

工場出荷時設定 1

レベル (手動) ④

ナビゲーション ④ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → レベル

必須条件

- **リニアライゼーションの方式** (→ ④ 148) = **テーブル**
- **テーブルモード** (→ ④ 152) = **手動**

説明 テーブルポイントのレベル値 (リニアライゼーション前の値) を入力します。

ユーザー入力 符号付き浮動小数点数

工場出荷時設定 0 %

レベル (半自動式)

ナビゲーション ④ 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → レベル

必須条件

- **リニアライゼーションの方式** (→ ④ 148) = **テーブル** に設定します。
- **テーブルモード** (→ ④ 152) = **半自動式** に設定します。

説明 測定レベル (リニアライゼーション前の値) を表示します。この値はテーブルに伝送されます。

ユーザー様の値


ナビゲーション 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → ユーザー様の値

必須条件 **リニアライゼーションの方式 (→ 148) = テーブル** に設定します。

説明 テーブルポイントのリニアライズされた値を入力します。

ユーザー入力 符号付き浮動小数点数

工場出荷時設定 0 %

テーブルを有効にする


ナビゲーション 設定 → 高度な設定 → リニアライゼーション → テーブルを有効にする

必須条件 **リニアライゼーションの方式 (→ 148) = テーブル** に設定します。

説明 リニアライゼーションテーブルを有効または無効にします。

選択

- 無効
- 有効

工場出荷時設定 無効

追加情報 **選択項目の説明**

▪ **無効**

測定レベルはリニアライズされません。

同時に、**リニアライゼーションの方式 (→ 148) = テーブル** の場合、機器はエラーメッセージ F435 を出力します。

▪ **有効**

テーブルに基づいて測定レベルはリニアライズされます。



テーブルを編集すると、**テーブルを有効にする** パラメータが自動的に**無効**にリセットされるため、テーブルの入力後に**有効**にリセットする必要があります。

「安全設定」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 安全設定

出力エコー信号消失 	
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → 安全設定 → 出力エコー信号消失
説明	反射がない場合の出力信号。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最後の有効値 ■ エコー信号消失時急上昇 ■ エコー信号消失時の値 ■ アラーム
工場出荷時設定	最後の有効値
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 最後の有効値 反射がない場合、最後の有効値が保持されます。 ■ エコー信号消失時急上昇⁶⁾ 反射がない場合、出力値は連続して 0% または 100% に変わります。ランプのスロープはエコー信号消失時急上昇パラメータ (→  156)で指定されます。 ■ エコー信号消失時の値⁶⁾ エコーロストの場合、エコー信号消失時の値パラメータ (→  155)に定義された値が出力されます。 ■ アラーム エコーロストの場合、アラームが発報されます。フェールセーフモードパラメータ (→  165)を参照してください。
エコー信号消失時の値 	
ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → 安全設定 → エコー信号消失時の値
必須条件	出力エコー信号消失 (→  155) = エコー信号消失時の値 に設定します。
説明	反射がない場合の出力値。
ユーザー入力	0~200 000.0 %
工場出荷時設定	0.0 %
追加情報	<p>測定値出力用に設定した単位を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ リニアライゼーションなし：レベル単位 (→  143) ■ リニアライゼーションあり：リニアライゼーション後の単位 (→  149)

6) "リニアライゼーションの方式 (→  148)"="なし"の場合にのみ視認できます。

エコー信号消失時急上昇



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 安全設定 → エコー信号消失時急上昇

必須条件

出力エコー信号消失 (→ 155) = エコー信号消失時急上昇 に設定します。

説明

反射がない場合の傾斜の勾配。

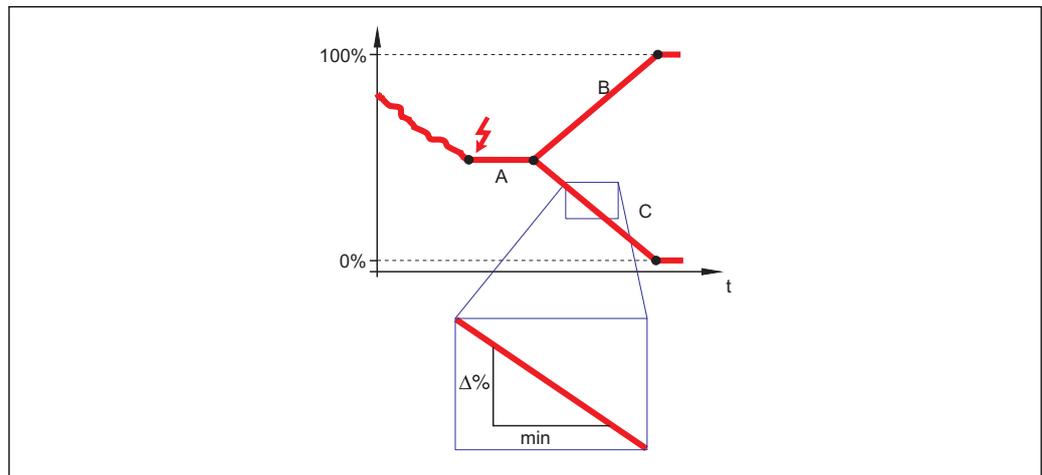
ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

工場出荷時設定

0.0 %/min

追加情報



A0013269

- A エコーロスト時遅延時間
 B エコー信号消失時急上昇 (→ 156) (正の値)
 C エコー信号消失時急上昇 (→ 156) (負の値)

- 傾斜の勾配の単位は、「1分あたりの測定範囲のパーセント」(%/min)です。
- 負の傾斜の勾配の場合：測定値は0%に達するまで継続的に減少します。
- 正の傾斜の勾配の場合：測定値は100%に達するまで継続的に増加します。

不感知距離



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 安全設定 → 不感知距離

説明

上部不感知距離 (UB) を設定します。

ユーザー入力

0~200 m

工場出荷時設定

8 m (26 ft) までのロッドプローブ/ローププローブ : 200 mm (8 in)

追加情報

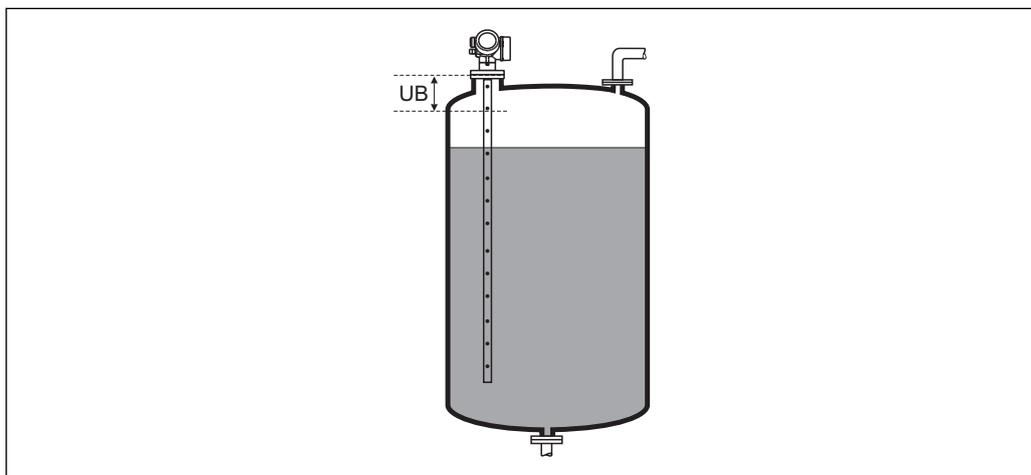
上部不感知距離の信号は、機器がオンになったときに不感知距離の範囲外にあり、操作中のレベル変更によって不感知距離内に移動した場合にのみ評価されます。機器がオンになったとき、すでに不感知距離内にあった信号は無視されます。

- i** 以下の2つの条件を満たしている場合のみ、この挙動が示されます。
- エキスパート → センサ → エコトラッキング → 評価モード = **短期履歴** または **長期履歴**
 - エキスパート → センサ → 気相補正 → 気相補正モード = **オン**、**補正なし** または **外部訂正**

条件の1つを満たしていない場合、不感知距離内の信号は常に無視されます。

- i** 不感知距離内の信号に関して、別の挙動を **不感知距離評価モード** パラメータ で設定することが可能です。

- i** 必要に応じて、不感知距離内の信号に関する別の挙動を弊社サービスが設定します。



A0013219

49 液体計測の不感知距離 (UB)

「SIL/WHG 確認」ウィザード

i **SIL/WHG 確認** ウィザードは、SIL または WHG 認証機器（仕様コード 590 : 「追加認証」オプション LA : 「SIL」または LC : 「WHG あふれ防止」）で、現在 SIL または WHG ロック状態になっていない場合にのみ使用可能です。

SIL/WHG 確認 ウィザードは、SIL または WHG に従って機器をロックする場合に必要です。詳細については、ロック手順とシーケンスのパラメータについて説明した各機器の「機能安全マニュアル」を参照してください。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 確認

「SIL/WHG 無効」ウィザード

 **SIL/WHG 無効** ウィザード (→  159) は、機器が SIL ロックまたは WHG ロックの場合にのみ表示されます。詳細については個々の機器の「機能安全マニュアル」を参照してください。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 無効

書き込み保護のリセット

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 無効 → 書き込み保護のリセット
説明	ロック解除コードを入力します。
ユーザー入力	0~65 535
工場出荷時設定	0

不適切なコード

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → SIL/WHG 無効 → 不適切なコード
説明	不正なロック解除コードが入力されたことを示します。手順を選択します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ 再入力コード ■ 中止, 次へ
工場出荷時設定	再入力コード

「プローブ設定」サブメニュー

プローブ設定 サブメニューは、評価アルゴリズムを使用して反射波形内のプローブ終端信号を適切に割り当てるのに役立ちます。機器に表示されるプローブ長が実際のプローブ長と一致する場合に、割り当ては正しくなります。自動プローブ長補正は、プローブが容器内に取り付けられ、完全に露出している（測定物なし）場合にのみ実施できます。容器の一部が充填されている場合、およびプローブ長が既知の場合に値を手動で入力するには、**プローブ長の確認** (→  161) = **手動入力** を選択します。

 プローブを切断した後、マッピング（不要反射の除去）が記録された場合は、もう自動プローブ長補正を行なうことはできません。その場合は、2つの方法があります。

- 自動プローブ長補正を行う前に、**マップ記録** パラメータ (→  135) を使用してマップを削除します。プローブ長補正が完了したら、**マップ記録** パラメータ (→  135) を使用して新しいマップを記録できます。
- **プローブ長の確認** (→  161) = **手動入力** を選択し、**実際のプローブ長** パラメータ →  160 にプローブ長を手動で入力します。

 自動プローブ長補正を実施するには、**プローブ接地** パラメータ (→  160) で補正オプションを選択する必要があります。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → プローブ設定

プローブ接地

ナビゲーション	  設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ接地
必須条件	動作モード = レベル
説明	プローブが接地されているかどうかを設定します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ いいえ ▪ はい
工場出荷時設定	いいえ

実際のプローブ長

ナビゲーション	 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → 実際のプローブ長
説明	<ul style="list-style-type: none"> ▪ ほとんどの場合： 現在測定されているプローブ終端信号に応じてプローブ長を表示します。 ▪ プローブ長の確認 (→  161) = 手動入力： 実際のプローブ長を入力します。
ユーザー入力	0～200 m
工場出荷時設定	4 m

プローブ長の確認 🔍

ナビゲーション	☰ 設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の確認
説明	実際のプローブ長 パラメータ → 📄 160 に表示される値が実際のプローブ長と一致しているかどうかを選択します。この入力に基づいて、プローブ長補正が実施されます。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ プローブ長 OK ▪ プローブ長が短すぎる ▪ プローブ長が長すぎる ▪ 埋まっているプローブ ▪ 手動入力 ▪ プローブ長不明
工場出荷時設定	プローブ長 OK
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ プローブ長 OK 適切なプローブ長が表示された場合は、これを選択します。調整は必要ありません。機器はシーケンスを終了します。 ▪ プローブ長が短すぎる 表示された長さが実際のプローブ長より短い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが実際のプローブ長パラメータ → 📄 160 に表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。 ▪ プローブ長が長すぎる 表示された長さが実際のプローブ長より長い場合は、これを選択します。異なるプローブ終端信号が割り当てられ、新たに計算された長さが実際のプローブ長パラメータ → 📄 160 に表示されます。表示値が実際のプローブ長と一致するまで、この手順を繰り返します。 ▪ 埋まっているプローブ プローブが覆われている（一部または完全に）場合は、これを選択します。この場合は、プローブ長補正を行なうことができません。機器はシーケンスを終了します。 ▪ 手動入力 自動プローブ長補正を実施しない場合は、これを選択します。代わりに、実際のプローブ長を実際のプローブ長パラメータ → 📄 160 に手動で入力する必要があります⁷⁾。 ▪ プローブ長不明 実際のプローブ長が不明な場合は、これを選択します。この場合、プローブ長補正を行うことができないため、機器はシーケンスを終了します。

7) FieldCare で操作している場合は、**手動入力** オプションを選択する必要はありません。FieldCare では、いつでもプローブ長を編集できます。

「プローブ長の補正」ウィザード

i **プローブ長の補正** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、プローブ長の補正に関連するすべてのパラメータは、**プローブ設定** サブメニュー (→ ) に直接表示されます。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正

プローブ長の確認

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → プローブ長の確認

説明 →  161

実際のプローブ長

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → プローブ設定 → プローブ長の補正 → 実際のプローブ長

説明 →  160

「電流出力 1~2」サブメニュー

 **電流出力 2** サブメニュー (→ 163)は、2つの電流出力を備える機器でのみ使用できます。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2

電流出力 1~2 の割り当て



ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 電流出力 の割り当て

説明

電流出力に割り当てるプロセス変数を選択。

選択

- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- 電気部内温度
- エコーの相対振幅
- アナログ出力の高度な診断 1
- アナログ出力の高度な診断 2

工場出荷時設定

レベル測定の場合

- 電流出力 1：リニアライゼーションされたレベル
- 電流出力 2⁸⁾：リニアライゼーションされたレベル

追加情報

プロセス変数の電流範囲の設定

プロセス変数	4mA の値	20mA の値
リニアライゼーションされたレベル	0% ¹⁾ または関連するリニアライズされた値で設定します。	100% ²⁾ または関連するリニアライズされた値で設定します。
距離	0 (レベルは測定基準点)	空校正 (→ 131) (レベルは 0%)
電気部内温度	-50 °C (-58 °F)	100 °C (212 °F)
エコーの相対振幅	0 mV	2 000 mV
アナログ出力の高度な診断 1/2	高度な診断のパラメータ設定に応じて異なる	

- 1) 0% レベルは、**空校正** パラメータ (→ 131)
- 2) 100% レベルは、**満量校正** パラメータ (→ 131)

 アプリケーションに応じて 4mA および 20mA の値の調整が必要になることがあります (特に、**アナログ出力の高度な診断 1/2** オプションの場合)。

これは、以下のパラメータで実施できます。

- エキスパート → 出力 → 電流出力 1~2 → ターンダウン
- エキスパート → 出力 → 電流出力 1~2 → 4mA の値
- エキスパート → 出力 → 電流出力 1~2 → 20mA の値

8) 機器が 2つの電流出力を備える場合のみ

電流スパン



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 電流スパン

説明

「4...20mA」：測定変数：4~20mA 「4...20mA NAMUR」：測定変数：3.8~20.5 mA 「4...20mA US」：測定変数：3.9~20.8 mA 「固定電流値」：測定変数は HART を通してのみ伝送されます。注意：3.6mA 未満もしくは 21.95mA を超える電流値はアラーム信号として使用されます。

選択

- 4...20 mA
- 4...20 mA NAMUR
- 4...20 mA US
- 固定電流値

工場出荷時設定

4...20 mA NAMUR

追加情報

選択項目の説明

選択項目	プロセス変数の電流範囲	アラームの下限信号レベル	アラームの上限信号レベル
4...20 mA	4~20.5 mA	< 3.6 mA	> 21.95 mA
4...20 mA NAMUR	3.8~20.5 mA	< 3.6 mA	> 21.95 mA
4...20 mA US	3.9~20.8 mA	< 3.6 mA	> 21.95 mA
固定電流値	電流が 固定電流値 パラメータ (→ 164) で定義された固定電流であること。		

- エラーの場合、出力電流は**フェールセーフモード** パラメータ (→ 165) に定義された値になります。
 - 測定値が測定範囲を外れた場合、診断メッセージ **電流出力** が出力されます。
- HART マルチドロップループでは、1つの機器だけが信号を伝送するためにアナログ電流値を使用できます。他の機器はすべて、以下のように設定する必要があります。
 - **電流スパン** = **固定電流値** に設定します。
 - **固定電流値** (→ 164) = **4 mA** に設定します。

固定電流値



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 固定電流値

必須条件

電流スパン (→ 164) = **固定電流値** に設定します。

説明

出力電流の値を定義します。

ユーザー入力

4~22.5 mA

工場出荷時設定

4 mA

出力のダンピング



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 出力のダンピング

説明

測定値の変動に対する出力信号の応答時間。

ユーザー入力

0.0~999.9 秒

工場出荷時設定

0.0 秒

追加情報

測定値の変動により、このパラメータで設定した時定数 τ の指数関数的遅延が出力電流に生じます。時定数が小さい場合、出力は測定値の変動に直ちに反応します。時定数が大きい場合、出力の反応は遅くなります。 $\tau=0$ (初期設定) の場合、ダンピングは発生しません。

フェールセーフモード



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → フェールセーフモード

必須条件

電流スパン (→ 164) ≠ 固定電流値

説明

エラー発生時の出力電流を定義します。「最小」: < 3.6mA 「最大」: > 21.95mA 「最後の有効値」: エラーが発生する前に最後に有効であった値 「現在の値」: 出力電流は現在の測定値となります。; エラーは無視されます。「決定した値」: ユーザーが決定した値となります。

選択

- 最少
- 最大
- 最後の有効値
- 実際の値
- 決めた値

工場出荷時設定

最大

追加情報

選択項目の説明

- **最少**
電流スパン パラメータ (→ 164)に基づいて、アラームの下限レベル値を出力します。
- **最大**
電流スパン パラメータ (→ 164)に基づいて、アラームの上限レベル値を出力します。
- **最後の有効値**
電流は、エラーが発生する直前の値を維持します。
- **実際の値**
出力電流は実際の測定値を取り、エラーは無視されます。
- **決めた値**
出力電流は、**故障時の電流値** パラメータ (→ 166)で設定した値を取ります。



他の出力チャンネルのエラー動作については、これらの設定の影響を受けることなく、個別のパラメータで設定します。

故障時の電流値**ナビゲーション**

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 故障時の電流値

必須条件

フェールセーフモード (→ 165) = **決めた値** に設定します。

説明

エラー発生時にどの電流出力に設定するか定義して下さい。

ユーザー入力

3.59~22.5 mA

工場出荷時設定

22.5 mA

出力電流 1~2**ナビゲーション**

設定 → 高度な設定 → 電流出力 1~2 → 出力電流 1~2

説明

電流出力の実際の計算値を示します。

「スイッチ出力」サブメニュー

 **スイッチ出力** サブメニュー (→  167)は、スイッチ出力のある機器⁹⁾でのみ表示されます。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → スイッチ出力

スイッチ出力機能

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチ出力機能

説明

スイッチ出力の機能を定義します。「オフ」スイッチ出力は常にオープン（非導通）となります。「オン」スイッチ出力は常にクローズ（導通）となります。「診断動作」スイッチ出力は通常クローズとなり診断イベントが発生した場合にオープンとなります。「リミット」スイッチ出力は通常クローズとなり、測定値が定義した値を超えた場合のみオープンとなります。「デジタル出力」スイッチ出力は機器のデジタル出力ブロックの一つによってコントロールされます。

選択

- オフ
- オン
- 診断動作
- リミット
- デジタル出力

工場出荷時設定

オフ

追加情報

選択項目の説明

- **オフ**
出力は常にオープンです（非導通）。
- **オン**
出力は常にクローズです（導通）。
- **診断動作**
出力は通常はクローズで、診断イベントが発生したときのみオープンになります。**診断動作の割り当て** パラメータ (→  168)は、出力がオープンになるイベントタイプを設定します。
- **リミット**
出力は通常はクローズで、測定変数が設定したリミット値を超過または下回ったときのみオープンになります。リミット値は以下のパラメータで設定します。
 - リミットの割り当て (→  168)
 - スイッチオンの値 (→  169)
 - スイッチオフの値 (→  170)
- **デジタル出力**
出力のスイッチング状況は、DI 機能ブロックの出力値を追跡します。機能ブロックは、**ステータスの割り当て** パラメータ (→  168)で選択します。

 **オフ**および**オン**オプションを使用すると、スイッチ出力をシミュレートできます。

9) 注文コード 020 「電源 ; 出力」、オプション B、E、または G

ステータスの割り当て



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → ステータスの割り当て

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 167) = デジタル出力 に設定します。

選択

- オフ
- デジタル出力の高度な診断 1
- デジタル出力の高度な診断 2

工場出荷時設定

オフ

追加情報

デジタル出力の高度な診断 1 および **デジタル出力の高度な診断 2** オプションは、高度な診断ブロックに関連付けられます。このブロックで生成されたスイッチ信号はスイッチ出力を介して伝送できます。

リミットの割り当て



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → リミットの割り当て

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 167) = リミット に設定します。

選択

- オフ
- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- リニアライゼーションされた界面 *
- 界面距離 *
- 上層部の厚さ *
- 端子電圧
- 電気部内温度
- 測定された静電容量 *
- エコーの相対振幅
- 界面の相対振幅 *
- エコーの絶対振幅
- 界面の絶対振幅 *

工場出荷時設定

オフ

診断動作の割り当て



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → 診断動作の割り当て

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 167) = 診断動作 に設定します。

説明

どの動作の診断イベントをスイッチ出力に反映させるか定義します。

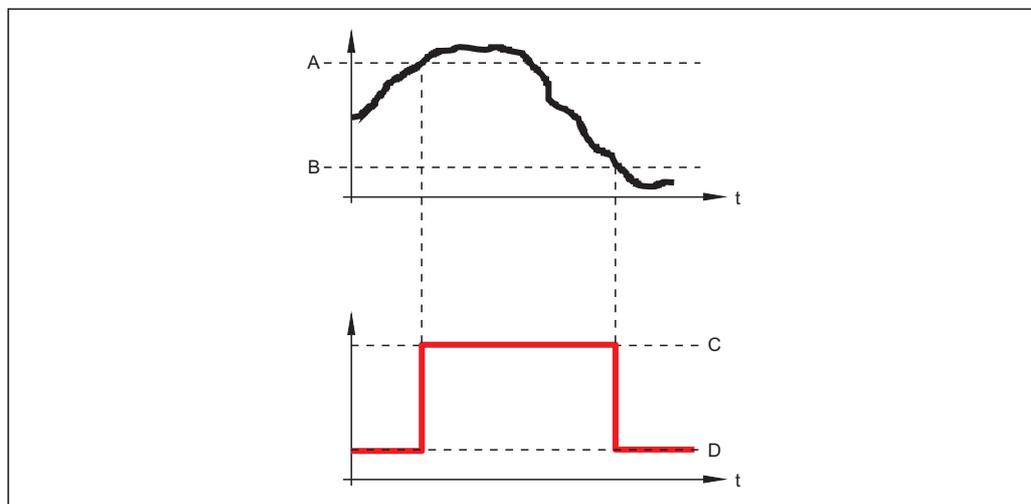
* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ アラーム ■ アラーム + 警告 ■ 警告
工場出荷時設定	アラーム

スイッチオンの値



ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオンの値
必須条件	スイッチ出力機能 (→ ☰ 167) = リミット に設定します。
説明	スイッチがオンとなるポイントを定義します。出力は割り当てられたプロセス変数がこのポイントよりも大きくなった場合にクローズとなります。
ユーザー入力	符号付き浮動小数点数
工場出荷時設定	0
追加情報	<p>スイッチ動作は、スイッチオンの値およびスイッチオフの値パラメータの相対位置に応じて異なります。</p> <p>スイッチオンの値 > スイッチオフの値</p> <ul style="list-style-type: none"> - 測定値がスイッチオンの値より大きい場合、出力はクローズになります。 - 測定値がスイッチオフの値より小さい場合、出力はオープンになります。

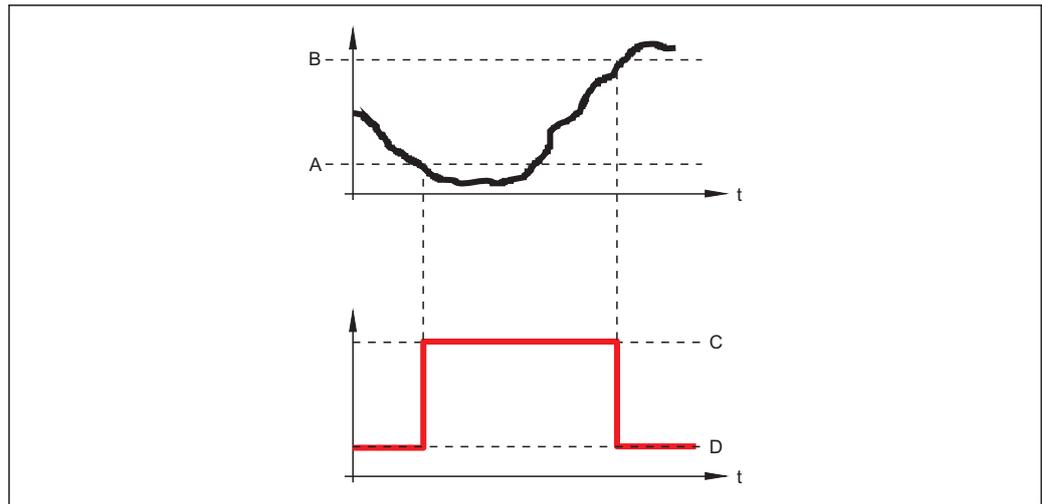


A0015585

- A スイッチオンの値
- B スイッチオフの値
- C 出力クローズ (導通)
- D 出力オープン (非導通)

スイッチオンの値 < スイッチオフの値

- 測定値が**スイッチオンの値**より小さい場合、出力はクローズになります。
- 測定値が**スイッチオフの値**より大きい場合、出力はオープンになります。



A0015586

- A スイッチオンの値
- B スイッチオフの値
- C 出力クローズ (導通)
- D 出力オープン (非導通)

スイッチオンの遅延



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオンの遅延

必須条件

- スイッチ出力機能 (→ 167) = リミット に設定します。
- リミットの割り当て (→ 168) ≠ オフ

説明

出力がスイッチオンされる前に適用される遅延時間を定義して下さい。

ユーザー入力

0.0~100.0 秒

工場出荷時設定

0.0 秒

スイッチオフの値



ナビゲーション

設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオフの値

必須条件

スイッチ出力機能 (→ 167) = リミット に設定します。

説明

スイッチがオフとなるポイントを定義して下さい。出力は割り当てられたプロセス変数がこの値よりも下に下がった場合に、オープンとなります。

ユーザー入力

符号付き浮動小数点数

工場出荷時設定

0

追加情報

スイッチ動作は、スイッチオンの値およびスイッチオフの値パラメータの相対位置に応じて異なります。詳細については、スイッチオンの値パラメータ (→ 169)を参照してください。

スイッチオフの遅延


ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチオフの遅延
必須条件	<ul style="list-style-type: none"> ▪ スイッチ出力機能 (→ ☰ 167) = リミット に設定します。 ▪ リミットの割り当て (→ ☰ 168) ≠ オフ
説明	出力がスイッチオフされる前に適用される遅延時間を定義して下さい。
ユーザー入力	0.0~100.0 秒
工場出荷時設定	0.0 秒

フェールセーフモード


ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → フェールセーフモード
必須条件	スイッチ出力機能 (→ ☰ 167) = リミット または デジタル出力
説明	エラーの場合のスイッチ出力の状態を定義して下さい。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 実際のステータス ▪ オープン ▪ クローズ
工場出荷時設定	オープン
追加情報	

スイッチの状態

ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → スイッチの状態
説明	スイッチ出力の現在の状態。

出力信号の反転


ナビゲーション	☰☰ 設定 → 高度な設定 → スイッチ出力 → 出力信号の反転
説明	「いいえ」 スイッチ出力は前述のパラメータ設定に応じて動作します。「はい」 スイッチ出力は前述のパラメータ設定に対して反対に動作します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ いいえ ▪ はい

工場出荷時設定

いいえ

追加情報

選択項目の説明

- **いいえ**
スイッチ出力の挙動は上記説明の通りです。
- **はい**
オープンおよび**クローズ**のステータスは、上記説明の逆になります。

「表示」サブメニュー

 **表示** サブメニューは、表示モジュールを機器に接続している場合にのみ表示されます。

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示

Language

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → Language

説明 表示言語を設定。

選択

- English
- Deutsch *
- Français *
- Español *
- Italiano *
- Nederlands *
- Portuguesa *
- Polski *
- русский язык (Russian) *
- Svenska *
- Türkçe *
- 中文 (Chinese) *
- 日本語 (Japanese) *
- 한국어 (Korean) *
- Bahasa Indonesia *
- tiếng Việt (Vietnamese) *
- čeština (Czech) *

工場出荷時設定 製品構成の仕様コード 500 で選択した言語。
言語を選択しなかった場合：**English**

追加情報

表示形式

ナビゲーション   設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示形式

説明 測定値のディスプレイへの表示方法を選択。

選択

- 1つの値、最大サイズ
- 1つの値 + バーグラフ
- 2つの値
- 1つの値はサイズ大 + 2つの値
- 4つの値

工場出荷時設定 1つの値、最大サイズ

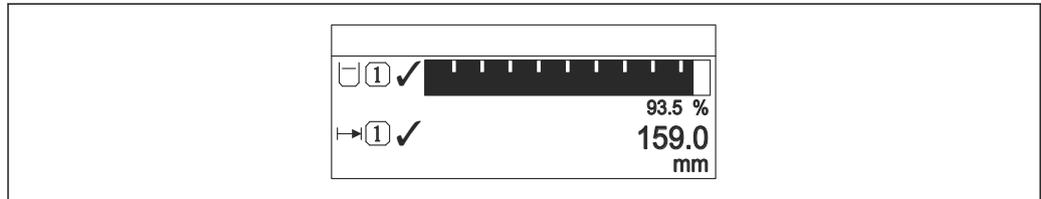
* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

追加情報



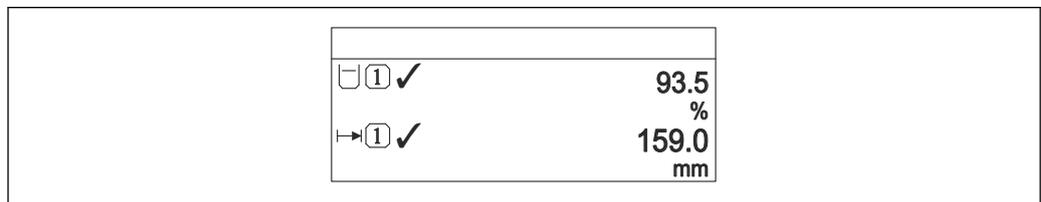
A0019963

図 50 「表示形式」 = 「1つの値、最大サイズ」



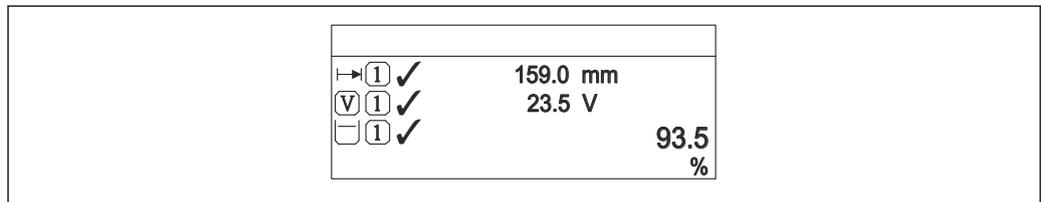
A0019964

図 51 「表示形式」 = 「1つの値 + バーグラフ」



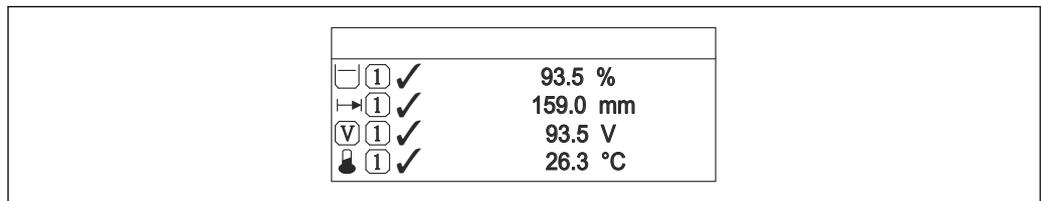
A0019965

図 52 「表示形式」 = 「2つの値」



A0019966

図 53 「表示形式」 = 「1つの値はサイズ大 + 2つの値」



A0019968

図 54 「表示形式」 = 「4つの値」

- **1~4の値表示** → 図 175 パラメータは、ディスプレイに表示する測定値とその表示順序を設定します。
- 現在の表示モードで許容される数より多くの測定値を指定した場合は、機器表示部上で値が交互に表示されます。表示が切り替わるまでの表示時間は、**表示間隔**パラメータ (→ 図 175)で設定します。

1~4 の値表示



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 1 の値表示
説明	ローカル ディスプレイに表示する測定値を選択。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ リニアライゼーションされたレベル ■ 距離 ■ リニアライゼーションされた界面* ■ 界面距離* ■ 上層部の厚さ* ■ 電流出力 1 ■ 測定した電流 ■ 電流出力 2* ■ 端子電圧 ■ 電気部内温度 ■ 測定された静電容量* ■ アナログ出力の高度な診断 1 ■ アナログ出力の高度な診断 2
工場出荷時設定	レベル測定の場合 <ul style="list-style-type: none"> ■ 1 の値表示: リニアライゼーションされたレベル ■ 2 の値表示: 距離 ■ 3 の値表示: 電流出力 1 ■ 4 の値表示: なし

小数点桁数 1~4



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 小数点桁数 1
説明	この選択は、機器の計測や計算精度に影響を与えません。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX
工場出荷時設定	X.XX
追加情報	この設定は、機器の測定や計算の精度には影響しません。

表示間隔

ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示間隔
説明	測定値の切り替え表示の時に測定値を表示する時間を設定。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

ユーザー入力	1～10 秒
工場出荷時設定	5 秒
追加情報	このパラメータは、選択された表示形式で同時に表示可能な数を、選択された測定値の数が超えた場合にのみ適用されます。

表示のダンピング



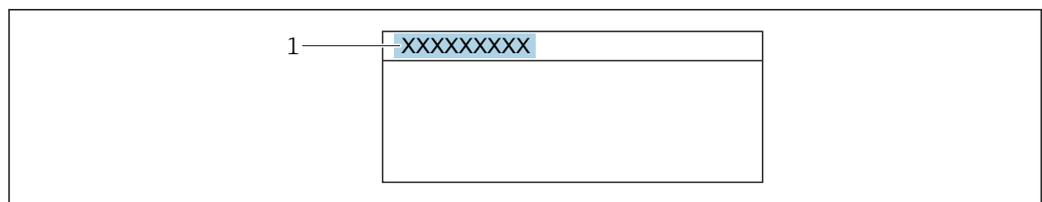
ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示のダンピング
説明	測定値の変動に対する表示の応答時間を設定。
ユーザー入力	0.0～999.9 秒
工場出荷時設定	0.0 秒

ヘッダー



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → ヘッダー
説明	ローカルディスプレイのヘッダーの内容を選択。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ デバイスのタグ ■ フリーテキスト
工場出荷時設定	デバイスのタグ

追加情報



A0029422

1 表示部のヘッダーテキストの位置

選択項目の説明

- **デバイスのタグ**
は**デバイスのタグ**パラメータ (→ 129)で定義されます。
- **フリーテキスト**
は**ヘッダーテキスト**パラメータ (→ 177)で定義されます。

ヘッダーテキスト



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → ヘッダーテキスト
必須条件	ヘッダー (→ 176) = フリーテキスト に設定します。
説明	ディスプレイのヘッダーのテキストを入力。
工場出荷時設定	-----
追加情報	表示できる文字数は使用される文字に応じて異なります。

区切り記号



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 区切り記号
説明	数値表示の桁区切り記号を選択。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ . ▪ ,
工場出荷時設定	.

数値形式



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 数値形式
説明	ディスプレイの選択番号の形式。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 十進法 ▪ ft-in-1/16"
工場出荷時設定	十進法
追加情報	ft-in-1/16" オプションは、距離単位でのみ有効です。

小数点桁数メニュー



ナビゲーション	設定 → 高度な設定 → 表示 → 小数点桁数メニュー
説明	操作メニュー内の数値の小数点桁数を選択します。

選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ X ■ X.X ■ X.XX ■ X.XXX ■ X.XXXX
工場出荷時設定	X.XXXX
追加情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ 操作メニュー内の数値（空校正や満量校正など）に対してのみ有効で、測定値表示部には無効です。測定値表示部の小数点桁数は、小数点桁数 1~4 →  175 パラメータで設定します。 ■ この設定は、機器の測定や計算の精度には影響しません。

バックライト

ナビゲーション	  設定 → 高度な設定 → 表示 → バックライト
必須条件	SD03 現場表示器（光学式キー付き）を使用する場合にのみ実行できます。
説明	ローカル ディスプレイのバックライトのオンとオフを切り替え。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ 無効 ■ 有効
工場出荷時設定	無効
追加情報	<p>選択項目の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 無効 バックライトをオフにします。 ■ 有効 バックライトをオンにします。 <p> このパラメータの設定に関係なく、機器の供給電圧が低すぎる場合は自動的にバックライトがオフになります。</p>

表示のコントラスト

ナビゲーション	  設定 → 高度な設定 → 表示 → 表示のコントラスト
説明	周囲条件 (照明、読み取り角度など) に合わせてローカル ディスプレイのコントラスト設定を調整。
ユーザー入力	20~80 %
工場出荷時設定	ディスプレイに応じて異なります。
追加情報	<p> 押しボタンでコントラストを設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ より暗く：  ボタンを同時に押します。 ■ より明るく：  ボタンを同時に押します。

「設定バックアップの表示」サブメニュー

 このサブメニューは、表示モジュールを機器に接続している場合にのみ表示されません。

機器の設定は、特定の時点表示モジュールに保存することが可能です (バックアップ)。保存された設定は、必要に応じて機器に復元できます (例: 機器を特定の状態に戻すため)。表示モジュールを使用して、その設定を同タイプの別の機器に伝送することも可能です。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示

稼働時間

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 稼働時間

説明

装置の稼働時間を示す。

追加情報

最大時間
9999 d (≈ 27 年)

最後のバックアップ

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 最後のバックアップ

説明

最後のデータのバックアップがディスプレイ モジュールに保存された時を示す。

設定管理

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 設定管理

説明

ディスプレイ モジュール内の機器データを管理する操作を選択。

選択

- キャンセル
- バックアップの実行
- 復元
- 複製
- 比較
- バックアップデータの削除

工場出荷時設定

キャンセル

追加情報

選択項目の説明

■ キャンセル

何も実行せずにこのパラメータを終了します。

■ バックアップの実行

HistoROM（機器に内蔵）にある現在の機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールに保存します。

■ 復元

機器設定のバックアップコピーを、表示モジュールから機器の HistoROM にコピーします。

■ 複製

変換器の表示モジュールを使用して、変換器設定を別の機器に複製します。以下は個々の測定点の特性を設定するパラメータであり、伝送される設定には**含まれません**。

- HART データコード
- HART ショートタグ
- HART メッセージ
- HART 記述子
- HART アドレス
- デバイスのタグ
- 測定物タイプ

■ 比較

表示モジュールに保存された機器設定と HistoROM の現在の機器設定とを比較します。この比較結果は、**比較の結果** パラメータ (→ 180)パラメータに表示されます。

■ バックアップデータの削除

機器設定のバックアップコピーを、機器の表示モジュールから削除します。



この操作の処理中は、現場表示器を介して設定を編集することはできません。また、処理ステータスを表すメッセージが表示されます。



復元 オプションを使用して既存のバックアップを別の機器に復元した場合、同じ機器機能が使用できなくなる場合があります。場合によっては、機器をリセットしても元の状態に復元できないことがあります。

設定を別の機器に伝送する場合は、必ず**複製** オプションを使用してください。

バックアップのステータス

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → バックアップのステータス

説明

バックアップ動作の現在の進捗状況を表示します。

比較の結果

ナビゲーション

☰☰ 設定 → 高度な設定 → 設定バックアップの表示 → 比較の結果

説明

現在の機器データと表示したバックアップデータの比較。

追加情報

表示選択の説明

- **設定データは一致する**
HistoROM の現在の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーは一致します。
- **設定データは一致しない**
HistoROM の現在の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーは一致しません。
- **バックアップデータはありません**
HistoROM の機器設定のバックアップコピーが表示モジュールにはありません。
- **保存データの破損**
HistoROM の現在の機器設定が破損しているか、または表示モジュールのバックアップコピーとの互換性はありません。
- **チェック未完了**
HistoROM の機器設定と表示モジュールのバックアップコピーとの比較がまだ完了していません。
- **データセット非互換**
データセットに互換性がないため比較できません。

 比較を開始するには、**設定管理 (→ 179) = 比較**を設定します。

 **設定管理 (→ 179) = 複製**によって変換器の設定を別の機器から複製した場合、HistoROM の新しい機器設定は、表示モジュールに保存されている設定の一部として一致しません。センサ固有の特性 (マッピングカーブなど) は複製されません。したがって、比較結果は、**設定データは一致しない**になります。

「管理」サブメニュー

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理アクセスコード設定 

ナビゲーション

 設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

説明

パラメータへの書き込み権のためのアクセスコードを定義。

ユーザー入力

0～9999

工場出荷時設定

0

追加情報

-  初期設定を変更していない場合、またはアクセスコードとして「0」を設定している場合、パラメータは書込保護されず、機器の設定データはいつでも変更可能な状態となります。ユーザーはメンテナンスの役割でログオンします。
-  書込保護は、本書の  シンボルが付いたすべてのパラメータに適用されます。現場表示器でパラメータの前に  シンボルが表示される場合、そのパラメータは書き込み保護になっています。
-  アクセスコードを設定すると、書き込み保護されたパラメータは、**アクセスコード入力** パラメータ (→  139) でアクセスコードを入力しない限り変更できません。
-  アクセスコードを紛失した場合は、弊社営業所もしくは販売代理店にお問い合わせください。
-  ディスプレイ操作：新しいアクセスコードは、**アクセスコードの確認** パラメータ (→  184) で確認した後、有効になります。

機器リセット 

ナビゲーション

  設定 → 高度な設定 → 管理 → 機器リセット

説明

機器の設定をリセットします-全部または一部を-決められた状態に。

選択

- キャンセル
- 工場出荷設定に
- 納入時の状態に
- ユーザ設定の
- 変換器初期状態へ
- 機器の再起動

工場出荷時設定

キャンセル

追加情報**選択項目の説明****■ キャンセル**

動作なし

■ 工場出荷設定に

すべてのパラメータをオーダーコードで指定された初期設定にリセットします。

■ 納入時の状態に

すべてのパラメータを納入時の設定にリセットします。ユーザー固有の設定が注文された場合は、出荷時の設定が工場の初期設定と異なる場合があります。ユーザー固有の設定を注文している場合のみ、この選択項目が表示されます。

■ ユーザ設定の

すべてのユーザーパラメータをその初期設定にリセットします。ただし、サービスパラメータは変更されません。

■ 変換器初期状態へ

すべての測定関連パラメータを工場出荷時の設定にリセットします。ただし、サービスパラメータおよび通信関連パラメータは変更されません。

■ 機器の再起動

再起動により、揮発性メモリ (RAM) に保存されているすべてのパラメータを初期設定にリセットします (例: 測定値データ)。機器設定に変更はありません。

「アクセスコード設定」ウィザード

i **アクセスコード設定** ウィザードは、現場表示器による操作でのみ使用できます。操作ツールで操作している場合、**アクセスコード設定** パラメータは**管理**サブメニューに直接表示されます。**アクセスコードの確認** パラメータは、操作ツールからは使用できません。

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定

アクセスコード設定

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコード設定

説明 →  182

アクセスコードの確認

ナビゲーション  設定 → 高度な設定 → 管理 → アクセスコード設定 → アクセスコードの確認

説明 入力されたアクセスコードを確認してください。

ユーザー入力 0~9999

工場出荷時設定 0

17.5 「診断」メニュー

ナビゲーション  診断

現在の診断結果

ナビゲーション

 診断 → 現在の診断結果

説明

現在の診断メッセージを表示します。

追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

 同時に複数のメッセージがオンの場合は、最優先に処理する必要のあるメッセージが表示されます。

 メッセージの原因および対策の情報については、表示器の  シンボルで表示されます。

タイムスタンプ

ナビゲーション

 診断 → タイムスタンプ

説明

現在の診断メッセージのタイムスタンプ表示。

前回の診断結果

ナビゲーション

 診断 → 前回の診断結果

説明

現在の診断メッセージが出力されるまで有効であった前回の診断メッセージを表示します。

追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

 表示される状態がまだ継続している可能性があります。メッセージの原因および対策の情報については、表示器の  シンボルで表示されます。

タイムスタンプ

ナビゲーション

☐ 診断 → タイムスタンプ

説明

前回の診断メッセージのタイムスタンプを表示。

再起動からの稼働時間

ナビゲーション

☐☐ 診断 → 再起動からの稼働時間

説明

前回の機器の再起動からの稼働時間を表示します。

稼働時間

ナビゲーション

☐☐ 診断 → 稼働時間

説明

装置の稼働時間を示す。

追加情報最大時間
9999 d (≈ 27 年)

17.5.1 「診断リスト」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 診断リスト

診断 1~5

ナビゲーション

  診断 → 診断リスト → 診断 1

説明

現在の診断メッセージの中で最も優先度の高い5つのメッセージを表示します。

追加情報

表示の構成：

- イベント動作のシンボル
- 診断動作のコード
- イベントの発生時間
- イベントテキスト

タイムスタンプ 1~5

ナビゲーション

 診断 → 診断リスト → タイムスタンプ

説明

診断メッセージのタイムスタンプ。

17.5.2 「イベントログブック」サブメニュー

i イベントログブックサブメニューは、現場表示器による操作でのみ使用できます。FieldCare の操作時には、FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能でイベントリストを表示できます。

ナビゲーション  診断 → イベントログブック

フィルタオプション

ナビゲーション

 診断 → イベントログブック → フィルタオプション

説明

どのカテゴリのイベントメッセージがイベントリストサブメニューに表示されるかを定義します。

選択

- すべて
- 故障 (F)
- 機能チェック (C)
- 仕様範囲外 (S)
- メンテナンスが必要 (M)
- 情報 (I)

工場出荷時設定

すべて

追加情報

- i**
- このパラメータは、現場表示器による操作でのみ使用できます。
 - ステータス信号は NAMUR NE 107 に従って分類されます。

「イベントリスト」サブメニュー

イベントリストサブメニューには、**フィルタオプション**パラメータ (→  188) で選択したカテゴリの過去のイベントの履歴が表示されます。最大 100 件のイベントを時系列に表示できます。

以下のシンボルは、イベントの発生または終了を示すものです。

-  : イベント発生
-  : イベント終了

i メッセージの原因および対策の情報については、 ボタンで確認できます。

表示形式

- カテゴリ I のイベントメッセージの場合：情報イベント、イベントテキスト、「記録イベント」シンボル、イベント発生時刻
- カテゴリ F、M、C、S (ステータス信号) のイベントメッセージの場合：診断イベント、イベントテキスト、「記録イベント」シンボル、イベント発生時刻

ナビゲーション  診断 → イベントログブック → イベントリスト

17.5.3 「機器情報」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 機器情報

デバイスのタグ

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → デバイスのタグ
説明	機器のタグを入力。
工場出荷時設定	FMP5x

シリアル番号

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → シリアル番号
説明	機器のシリアル番号の表示。
追加情報	<p> シリアル番号の用途</p> <ul style="list-style-type: none"> ▪ 機器を迅速に識別するため（例：Endress+Hauser への問い合わせの際） ▪ 機器ビューアー www.endress.com/deviceviewer を使用して詳細な機器情報を得るため <p> シリアル番号は型式銘板にも記載されています。</p>

ファームウェアのバージョン

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → ファームウェアのバージョン
説明	ファームウェアバージョンの表示。
ユーザーインターフェイス	xx.yy.zz
追加情報	<p> ファームウェアのバージョンが最後の 2 桁（「zz」）のみ異なる場合、機能と操作に関する違いはありません。</p>

機器名

ナビゲーション	  診断 → 機器情報 → 機器名
説明	変換器の名称の表示。

オーダーコード🔍

ナビゲーション 📄📄 診断 → 機器情報 → オーダーコード

説明 機器のオーダーコードの表示。

追加情報 オーダーコードは、機器の製品構成に関するすべての仕様項目を明示する拡張オーダーコードから生成されたものです。一方で、オーダーコードから直接機器仕様項目を読み取ることはできません。

拡張オーダーコード 1~3🔍

ナビゲーション 📄📄 診断 → 機器情報 → 拡張オーダーコード 1

説明 拡張オーダーコードの 3 つのパートが表示されます。

追加情報 拡張オーダーコードは、機器の製品構成に関するすべての仕様項目を示すものであり、それにより機器を一意的に識別することが可能です。

機器リビジョン

ナビゲーション 📄📄 診断 → 機器情報 → 機器リビジョン

説明 HART 協会へ登録してあるデバイスリビジョンの表示。

追加情報 機器リビジョンは、機器に適切な DD ファイルを割り当てるために使用します。

機器 ID

ナビゲーション 📄📄 診断 → 機器情報 → 機器 ID

説明 HART ネットワーク内で機器を認識するために機器 ID を表示します。

追加情報 機器タイプと製造者 ID に加えて、機器 ID は機器の固有 ID の一部であり、各 HART 機器を明確に特定します。

機器タイプ

ナビゲーション 📄📄 診断 → 機器情報 → 機器タイプ

説明 HART 協会へ登録しているデバイスタイプの表示。

追加情報 機器タイプは、機器に適切な DD ファイルを割り当てるために必要です。

製造者 ID

ナビゲーション  診断 → 機器情報 → 製造者 ID

説明 この機能を使用して、HART Communication Foundation に登録されている、機器の製造者 ID を表示します。

ユーザーインターフェイス 2 桁の 16 進数

工場出荷時設定 0x11 (Endress+Hauser の場合)

17.5.4 「測定値」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → 測定値

距離

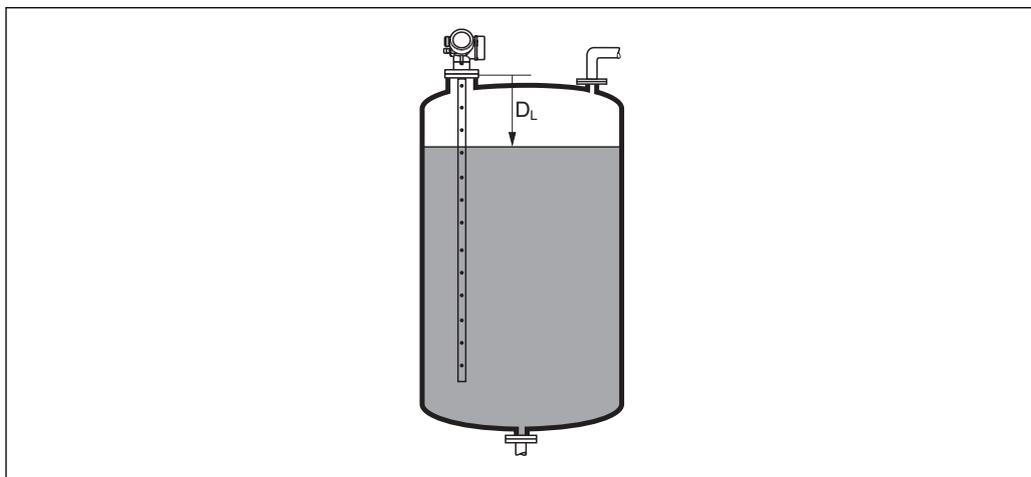
ナビゲーション

 診断 → 測定値 → 距離

説明

測定基準点（フランジまたはネジ込み接続の下端）からレベルまでの測定距離 D_L を表示します。

追加情報



A0013198

 55 液体計測の距離

 単位は、**距離の単位** パラメータ (→  129) で設定します。

リニアライゼーションされたレベル

ナビゲーション

 診断 → 測定値 → リニアライゼーションされたレベル

説明

リニアライズされたレベルを表示します。

追加情報

 単位は、**リニアライゼーション後の単位** パラメータで設定します →  149。

出力電流 1~2

ナビゲーション

 診断 → 測定値 → 出力電流 1~2

説明

電流出力の実際の計算値を示します。

測定した電流 1

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 測定した電流 1

必須条件

電流出力 1 でのみ使用できます。

説明現在測定されている電流出力の現在の値を示します。

端子電圧 1

ナビゲーション

☰☰ 診断 → 測定値 → 端子電圧 1

説明

電流出力端子にかかっている現在の電圧を示します。

17.5.5 「データのログ」サブメニュー

ナビゲーション  診断 → データのログ

チャンネル 1~4 の割り当て

ナビゲーション

 診断 → データのログ → チャンネル 1~4 の割り当て

説明

ロギングチャンネルへのプロセス変数の割り当て。

選択

- オフ
- リニアライゼーションされたレベル
- 距離
- フィルタ処理なしの距離
- リニアライゼーションされた界面*
- 界面距離*
- フィルタ処理なしの界面距離
- 上層部の厚さ*
- 電流出力 1
- 測定した電流
- 電流出力 2*
- 端子電圧
- 電気部内温度
- 測定された静電容量*
- エコーの絶対振幅
- エコーの相対振幅
- 界面の絶対振幅*
- 界面の相対振幅*
- 絶対 EOP 振幅
- EOP シフト
- 信号ノイズ
- DC の計算値*
- アナログ出力の高度な診断 1
- アナログ出力の高度な診断 2

工場出荷時設定

オフ

追加情報

合計 1000 個の測定値をロギングできます。つまり、

- ロギングチャンネルを 1 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 1000 個
- ロギングチャンネルを 2 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 500 個
- ロギングチャンネルを 3 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 333 個
- ロギングチャンネルを 4 つ使用する場合：チャンネルあたりのデータポイント数 250 個

データポイントが最大数に達すると、データログの最も古いデータポイントが周期的に上書きされ、必ず最新の測定値 1000、500、333、または 250 個がログに保存されず（リングメモリ形式）。

 このパラメータで新しいオプションを選択すると、ログデータは削除されます。

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

ロギングの時間間隔 🔒

ナビゲーション	 診断 → データのログ → ロギングの時間間隔  診断 → データのログ → ロギングの時間間隔
説明	データロギングの間隔を定義します。この値はメモリ内の個々のデータ間隔の時間を定義します。
ユーザー入力	1.0～3 600.0 秒
工場出荷時設定	30.0 秒
追加情報	<p>このパラメータは、データログの各データポイント間の時間間隔を設定するもので、それにより、ロギング可能な最大の時間 T_{log} が決まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ロギングチャンネルを 1 つ使用する場合： $T_{log} = 1000 \cdot t_{log}$ ■ ロギングチャンネルを 2 つ使用する場合： $T_{log} = 500 \cdot t_{log}$ ■ ロギングチャンネルを 3 つ使用する場合： $T_{log} = 333 \cdot t_{log}$ ■ ロギングチャンネルを 4 つ使用する場合： $T_{log} = 250 \cdot t_{log}$ <p>設定時間が経過すると、データログの最も古いデータポイントが周期的に上書きされ、必ず T_{log} の時間がメモリに保存されます（リングメモリ形式）。</p> <p> このパラメータを変更すると、ログデータは削除されます。</p> <p>例</p> <p>ロギングチャンネルを 1 つ使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ $T_{log} = 1000 \cdot 1 \text{ 秒} = 1000 \text{ 秒} \approx 16.5 \text{ min}$ ■ $T_{log} = 1000 \cdot 10 \text{ 秒} = 1000 \text{ 秒} \approx 2.75 \text{ h}$ ■ $T_{log} = 1000 \cdot 80 \text{ 秒} = 80000 \text{ 秒} \approx 22 \text{ h}$ ■ $T_{log} = 1000 \cdot 3600 \text{ 秒} = 3600000 \text{ 秒} \approx 41 \text{ d}$

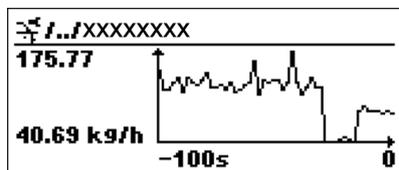
すべてのログをリセット 🔒

ナビゲーション	 診断 → データのログ → すべてのログをリセット  診断 → データのログ → すべてのログをリセット
説明	全てのロギングデータをクリア。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ キャンセル ■ データ削除
工場出荷時設定	キャンセル

「チャンネル 1~4 表示」サブメニュー

i チャンネル 1~4 表示サブメニューは、現場表示器による操作でのみ使用できます。FieldCare の操作時には、FieldCare の「イベントリスト/HistoROM」機能でログダイアグラムを表示できます。

チャンネル 1~4 表示サブメニューは、各チャンネルのログ履歴のダイアグラムを表示します。



- x 軸：選択されたチャンネル数に応じて 250 ~ 1000 個のプロセス変数の測定値が表示されます。
- y 軸：常に測定中の値に合わせて、おおまかな測定値スパンを示します。

i 操作メニューに戻るには、**田** と **田** を同時に押します。

ナビゲーション **田田** 診断 → データのログ → チャンネル 1~4 表示

17.5.6 「シミュレーション」サブメニュー

シミュレーションサブメニューは、特定の測定値または別の条件のシミュレーションに使用されます。これにより、機器や接続した制御ユニットが正しく設定されているか確認できます。

シミュレーション可能な条件

シミュレートする条件	関連するパラメータ
プロセス変数の特定値	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 測定値の割り当て (→ 199) ▪ 測定値 (→ 199)
出力電流の特定値	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 電流出力のシミュレーション (→ 199) ▪ 電流出力の値 (→ 200)
スイッチ出力の特定状態	<ul style="list-style-type: none"> ▪ シミュレーションスイッチ出力 (→ 200) ▪ スイッチの状態 (→ 200)
アラームの有無	機器アラームのシミュレーション (→ 201)
特定の診断メッセージの有無	診断イベントのシミュレーション (→ 201)

サブメニューの構成

ナビゲーション  エキスパート → 診断 → シミュレーション

▶ シミュレーション	
測定値の割り当て	→  199
測定値	→  199
電流出力 1~2 のシミュレーション	→  199
電流出力 1~2 の値	→  200
シミュレーションスイッチ出力	→  200
スイッチの状態	→  200
機器アラームのシミュレーション	→  201
診断イベントのシミュレーション	→  201

パラメータの説明

ナビゲーション  エキスパート → 診断 → シミュレーション

測定値の割り当て

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 測定値の割り当て
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ レベル ■ 界面* ■ 上層部の厚さ* ■ リニアライゼーションされたレベル ■ リニアライゼーションされた界面 ■ リニアライゼーションされた厚み
工場出荷時設定	オフ
追加情報	<ul style="list-style-type: none"> ■ シミュレートする変数の値は、測定値 パラメータ (→  199) で設定します。 ■ 測定値の割り当て ≠ オフの場合、シミュレーションはオンです。これは、機能チェック (C) カテゴリの診断メッセージで確認できます。

測定値

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 測定値
必須条件	測定値の割り当て (→  199) ≠ オフ
ユーザー入力	符号付き浮動小数点数
工場出荷時設定	0
追加情報	その後の測定値処理と信号出力には、このシミュレーション値を使用します。これにより、機器が正しく設定されているかどうかを確認できます。

電流出力 1~2 のシミュレーション

ナビゲーション	 エキスパート → 診断 → シミュレーション → 電流出力 1~2 のシミュレーション
説明	電流出力のシミュレーションをオン、オフします。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン

* 表示はオーダしたオプションや機器のセッティングにより異なります

工場出荷時設定	オフ
追加情報	有効なシミュレーションは、機能チェック (C) カテゴリの診断メッセージで確認できます。

電流出力 1~2 の値


ナビゲーション	  エキスパート → 診断 → シミュレーション → 電流出力 1~2 の値
必須条件	電流出力のシミュレーション (→  199) = オン に設定します。
説明	シミュレーションの出力電流値を定義して下さい。
ユーザー入力	3.59~22.5 mA
工場出荷時設定	3.59 mA
追加情報	電流出力は、このパラメータで設定した値を取ります。これにより、電流出力の適切な調整、および接続された制御ユニットが正しく機能することを確認できます。

シミュレーションスイッチ出力


ナビゲーション	  エキスパート → 診断 → シミュレーション → シミュレーションスイッチ出力
説明	スイッチ出力のシミュレーションをオン、オフします。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン
工場出荷時設定	オフ

スイッチの状態


ナビゲーション	  エキスパート → 診断 → シミュレーション → スイッチの状態
必須条件	シミュレーションスイッチ出力 (→  200) = オン に設定します。
説明	スイッチ出力の現在の状態。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オープン ■ クローズ
工場出荷時設定	オープン
追加情報	スイッチ状態は、このパラメータで設定した値を取ります。これにより、接続した制御ユニットが正しく動作することを確認できます。

機器アラームのシミュレーション


ナビゲーション	☰☰ エキスパート → 診断 → シミュレーション → 機器アラームのシミュレーション
説明	デバイスアラームのシミュレーションをオン、オフします。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ オフ ■ オン
工場出荷時設定	オフ
追加情報	<p>オン オプションを選択すると、アラームが生成されます。これにより、アラームが発生した場合の機器の出力動作が適切であるかどうかを確認できます。</p> <p>アクティブなシミュレーションは診断メッセージ ✖C484 エラーモードのシミュレーション で表示されます。</p>

診断イベントのシミュレーション


ナビゲーション	☰☰ エキスパート → 診断 → シミュレーション → 診断イベントのシミュレーション
説明	シミュレーションする診断イベントを選択 注意: シミュレーションを止めるには、'オフ'を選択します。
工場出荷時設定	オフ
追加情報	現場表示器を介して操作する場合、選択リストはイベントカテゴリーに応じてフィルタリングできます (診断イベントの種類 パラメータ)。

17.5.7 「機器チェック」サブメニュー

ナビゲーション   診断 → 機器チェック

機器チェック開始

ナビゲーション	  診断 → 機器チェック → 機器チェック開始
説明	機器チェックを開始します。
選択	<ul style="list-style-type: none"> ■ いいえ ■ はい
工場出荷時設定	いいえ
追加情報	反射がない場合、機器チェックは実施できません。

機器チェックの結果

ナビゲーション	  診断 → 機器チェック → 機器チェックの結果
説明	機器チェックの結果を表示します。
追加情報	<p>表示選択の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ インストール OK 制限のない測定が可能です。 ■ 精度制限あり 測定は可能です。ただし、信号振幅により測定精度が低下する可能性があります。 ■ 測定機能低下 現時点で測定は可能です。ただし、エコー信号を見失う可能性があります。機器の取付位置と測定物の比誘電率を確認してください。 ■ チェック未完了 機器チェックは実施されていません。

前回のチェック時刻

ナビゲーション	  診断 → 機器チェック → 前回のチェック時刻
説明	前回の機器チェックが実施されたときの稼働時間を表示します。

レベル信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → レベル信号
必須条件	機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	レベル信号の機器チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">■ チェック未完了■ チェック NG■ チェック OK
追加情報	レベル信号 = チェック NG : 機器の取付位置と測定物の比誘電率を確認してください。

開始信号

ナビゲーション	☰☰ 診断 → 機器チェック → 開始信号
必須条件	機器チェックを実施した場合にのみ表示されます。
説明	開始信号の表示チェックの結果を表示します。
ユーザーインターフェイス	<ul style="list-style-type: none">■ チェック未完了■ チェック NG■ チェック OK
追加情報	開始信号 = チェック NG : 機器の取付位置を確認してください。非金属タンクの場合は、金属板または金属フランジを使用します。

17.5.8 「Heartbeat」サブメニュー

 **Heartbeat** サブメニューは **FieldCare** または **DeviceCare** を介してのみ使用可能です。**Heartbeat 検証** および **Heartbeat モニタリング** アプリケーションパッケージの一部のウィザードが含まれます。

詳細な説明

SD01872F

ナビゲーション  診断 → Heartbeat

索引

記号

安全上の注意事項 (XA)	13
安全設定 (サブメニュー)	155
稼働時間 (パラメータ)	179, 186
過電圧保護	
一般情報	47
開始信号 (パラメータ)	203
外部洗浄	97
拡張オーダーコード 1 (パラメータ)	190
管理 (サブメニュー)	182
機器 ID (パラメータ)	190
機器アラームのシミュレーション (パラメータ)	201
機器タイプ (パラメータ)	190
機器チェック (サブメニュー)	202
機器チェックの結果 (パラメータ)	202
機器チェック開始 (パラメータ)	202
機器リセット (パラメータ)	182
機器リビジョン (パラメータ)	190
機器情報 (サブメニュー)	189
機器名 (パラメータ)	189
距離 (パラメータ)	132, 137, 192
距離の確定 (パラメータ)	134, 137
距離の単位 (パラメータ)	129
区切り記号 (パラメータ)	177
空校正 (パラメータ)	131
現在のマッピング (パラメータ)	135
現在の診断結果 (パラメータ)	185
固定電流値 (パラメータ)	164
故障時の電流値 (パラメータ)	166
高度なプロセス条件 (パラメータ)	142
高度な設定 (サブメニュー)	138
再起動からの稼働時間 (パラメータ)	186
最後のバックアップ (パラメータ)	179
最大値 (パラメータ)	151
資料の機能	5
実際のプローブ長 (パラメータ)	160, 162
修理コンセプト	99
出力のダンピング (パラメータ)	165
出力エコー信号消失 (パラメータ)	155
出力信号の反転 (パラメータ)	171
出力電流 1~2 (パラメータ)	166, 192
書き込み保護のリセット (パラメータ)	159
小数点桁数 1 (パラメータ)	175
小数点桁数メニュー (パラメータ)	177
信号品質 (パラメータ)	133
診断 (メニュー)	185
診断 1 (パラメータ)	187
診断イベント	87, 88
診断イベントのシミュレーション (パラメータ)	201
診断リスト (サブメニュー)	187
診断動作の割り当て (パラメータ)	168
数値形式 (パラメータ)	177
製造者 ID (パラメータ)	191
製品の安全性	12
設定 (メニュー)	129
設定バックアップの表示 (サブメニュー)	179
設定管理 (パラメータ)	179
前回のチェック時刻 (パラメータ)	202
前回の診断結果 (パラメータ)	185
測定した電流 1 (パラメータ)	193
測定値 (サブメニュー)	192
測定値 (パラメータ)	199
測定値シンボル	63
測定値の割り当て (パラメータ)	199
測定物グループ (パラメータ)	130
測定物タイプ (パラメータ)	140
測定物特性 (パラメータ)	140
対処法	
終了	89
呼び出し	89
端子電圧 1 (パラメータ)	193
中間高さ (パラメータ)	151
直径 (パラメータ)	151
電流スパン (パラメータ)	164
電流出力 1~2 (サブメニュー)	163
電流出力 1~2 のシミュレーション (パラメータ)	199
電流出力 1~2 の値 (パラメータ)	200
電流出力の割り当て (パラメータ)	163
登録商標	10
入力画面	65
比較の結果 (パラメータ)	180
表示 (サブメニュー)	173
表示のコントラスト (パラメータ)	178
表示のダンピング (パラメータ)	176
表示間隔 (パラメータ)	175
表示形式 (パラメータ)	173
不感知距離 (パラメータ)	143, 156
不適切なコード (パラメータ)	159
満量校正 (パラメータ)	131
0~9	
1 の値表示 (パラメータ)	175
B	
Bluetooth® ワイヤレス技術	53
C	
CE マーク	12
D	
DD	69
DIP スイッチ	
書き込み保護スイッチを参照	
F	
FHX50	52
FV (HART デバイス変数)	69
H	
HART インテグレーション	69
HART デバイス変数	69
HART プロトコル	54
Heartbeat (サブメニュー)	204

- L**
Language (パラメータ) 173
- P**
PV (HART デバイス変数) 69
- S**
SIL/WHG 確認 (ウィザード) 158
SIL/WHG 無効 (ウィザード) 159
SV (HART デバイス変数) 69
- T**
TV (HART デバイス変数) 69
- W**
W@M デバイスビューワー 100
- ア**
アクセサリ
機器関連 101
サービス関連 108
通信関連 107
アクセスコード 56
不正な入力 56
アクセスコード設定 56
アクセスコードの確認 (パラメータ) 184
アクセスコード設定 (ウィザード) 184
アクセスコード設定 (パラメータ) 182, 184
アクセスコード入力 (パラメータ) 139
アクセスステータス ツール (パラメータ) 138
アクセスステータス表示 (パラメータ) 139
アプリケーション 11
残存リスク 11
安全注意事項
基本 11
- イ**
イベントテキスト 88
イベントリスト 94
イベントリスト (サブメニュー) 188
イベント履歴 94
イベントレベル
シンボル 87
説明 87
イベントログのフィルタリング 94
イベントログブック (サブメニュー) 188
- ウ**
ウィザード
SIL/WHG 確認 158
SIL/WHG 無効 159
アクセスコード設定 184
プローブ長の補正 162
マッピング 137
- エ**
エコー信号消失時の値 (パラメータ) 155
エコー信号消失時急上昇 (パラメータ) 156
- オ**
オーダーコード (パラメータ) 190
- カ**
外部設置 29
書き込みアクセス権 56
書き込み保護
アクセスコードによる 56
書き込み保護スイッチを使用 57
書き込み保護スイッチ 57
- キ**
キーパッドロック
スイッチオン 60
無効化 60
機器交換 99
機器設定の管理 81
機器の交換 99
- ケ**
現場表示器 51
アラーム状態時を参照
診断メッセージを参照
- コ**
工具 32
コンテキストメニュー 67
- サ**
サービスインターフェイス (CDI) 経由の操作ツール 54
サブメニュー
Heartbeat 204
イベントリスト 94, 188
イベントログブック 188
シミュレーション 198, 199
スイッチ出力 167
チャンネル 1~4 表示 196
データのログ 194
プローブ設定 160
リニアライゼーション 146, 147, 148
レベル 140
安全設定 155
管理 182
機器チェック 202
機器情報 189
高度な設定 138
診断リスト 187
設定バックアップの表示 179
測定値 192
電流出力 1~2 163
表示 173
サブメニューの表示シンボル 62
- シ**
システムコンポーネント 109
シミュレーション (サブメニュー) 198, 199
シミュレーションスイッチ出力 (パラメータ) .. 200
シリアル番号 (パラメータ) 189
資料
機能 5

診断
 シンボル..... 87

診断イベント
 操作ツール上..... 90

診断メッセージ..... 87

診断リスト..... 91

シンボル
 修正用..... 65
 テキストおよび数値エディタにおいて..... 65

ス

スイッチオフの値 (パラメータ) 170

スイッチオフの遅延 (パラメータ) 171

スイッチオンの値 (パラメータ) 169

スイッチオンの遅延 (パラメータ) 170

スイッチの状態 (パラメータ) 171, 200

スイッチ出力 (サブメニュー) 167

スイッチ出力機能 (パラメータ) 167

ステータス信号 87

ステータスの割り当て (パラメータ) 168

ステータス信号 62

スペアパーツ 100
 銘板..... 100

すべてのログをリセット (パラメータ) 195

セ

設定
 機器設定の管理..... 81
 操作言語 75

洗浄..... 97

ソ

操作言語の設定 75

操作上の安全性 12

操作部
 診断メッセージ..... 88

操作モジュール..... 61

測定材質 11

タ

タイムスタンプ (パラメータ) 185, 186, 187

タンクタイプ (パラメータ) 129

断熱..... 31

チ

チャンネル 1~4 表示 (サブメニュー) 196

チャンネル 1~4 の割り当て (パラメータ) 194

テ

データのログ (サブメニュー) 194

テーブルモード (パラメータ) 152

テーブルを有効にする (パラメータ) 154

テーブル番号 (パラメータ) 153

適合宣言..... 12

デバイス記述..... 69

デバイスのタグ (パラメータ) 129, 189

電子部ハウジング
 構成..... 17

ト

トラブルシューティング..... 83

ハ

ハードウェア書き込み保護..... 57

廃棄..... 100

パイプ直径 (パラメータ) 130

ハウジング
 回転..... 33
 構成..... 17

バックアップのステータス (パラメータ) 180

バックライト (パラメータ) 178

パラメータのアクセス権
 書き込みアクセス権..... 56
 読み込みアクセス権..... 56

反射波形表示..... 68

ヒ

非金属タンク..... 28

表示部および操作モジュール FHX50..... 52

表示部の回転..... 34

表示モジュール..... 61

表示モジュールの回転..... 34

フ

ファームウェアのバージョン (パラメータ) 189

フィルタオプション (パラメータ) 188

フェールセーフモード (パラメータ) 165, 171

フリーテキスト (パラメータ) 150

プローブ接地 (パラメータ) 160

プローブ設定 (サブメニュー) 160

プローブ長の確認 (パラメータ) 161, 162

プローブ長の補正 (ウィザード) 162

プロセス特性 (パラメータ) 141

ヘ

ヘッダー (パラメータ) 176

ヘッダーテキスト (パラメータ) 177

変換器
 表示部の回転..... 34
 表示モジュールの回転..... 34

変換器ハウジング
 回転..... 33

返却..... 100

マ

マッピング (ウィザード) 137

マッピングの最終点 (パラメータ) 135, 137

マップ記録 (パラメータ) 135, 137

メ

メニュー
 診断..... 185
 設定..... 129

メンテナンス..... 97

ユ

ユーザー様の値 (パラメータ) 154

ヨ

要員の要件	11
用途	11
読み込みアクセス権	56

リ

リニアライゼーション (サブメニュー)	146, 147, 148
リニアライゼーションされたレベル (パラメータ)	150, 192
リニアライゼーションの方式 (パラメータ)	148
リニアライゼーション後の単位 (パラメータ)	149
リミットの割り当て (パラメータ)	168
リモート操作	54

レ

レベル (サブメニュー)	140
レベル (パラメータ)	132, 153
レベル測定設定	76
レベル測定用の取付位置	21
レベル信号 (パラメータ)	203
レベル測定の設定	76
レベル単位 (パラメータ)	143
レベル補正 (パラメータ)	144

ロ

労働安全	11
ロギングの時間間隔 (パラメータ)	195
ロック状態 (パラメータ)	138
ロック状態の表示シンボル	62
ロッドプローブ	
構造	16
曲げ強度	25



www.addresses.endress.com
